

POWER PROJECTOR LV-7375 LV-7370 LV-7275 LV-8300

使用説明書



- 1. 付属品や名称を —● 1
確認する
- 2. 設置と接続 —● 2
- 3. 映像を投写する —● 3
(基本操作)
- 4. 便利な機能 —● 4
- 5. オンスクリーン —● 5
メニュー
- 6. 本体のお手入れ / —● 6
ランプの交換
- 7. 付録 —● 7

ご使用の前に、必ずこの使用説明書をお読みください。
特に「安全にお使いいただくために」の項は必ずお読みになり、正しくご使用ください。
またお読みになった後、この使用説明書をいつでも見られる場所に保管してください。

本製品は日本国内用に設計されております。
電源電圧の異なる外国ではご使用になれません。

はじめに

このたびは、キャノン パワープロジェクター LV-7375 / LV-7370 / LV-7275 / LV-8300（以降「LV-7375 / LV-7370 / LV-7275 / LV-8300 本体」を「本機」と呼びます）をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

本製品は、コンピューターのデータや、DVDの動画などをスクリーンに鮮明に投写するプロジェクターです。

この使用説明書（本書）は、LV-7375 / LV-7370 / LV-7275 / LV-8300 共通の使用説明書です。

（※本書のイラストは LV-7375 のモデルを掲載しています。）

本製品には「保証書」を付けています。保証書は、お買い上げの販売店から必ずお受け取りのうえ、使用説明書とともに、大切に保存してください。

- ・ Microsoft、Windows、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Macintosh、Mac、PowerBook は、米国およびその他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。
- ・ その他使用説明書に記載のメーカー名および商品名は、各社の登録商標または商標です。

ご注意

- （1）使用説明書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- （2）使用説明書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- （3）使用説明書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたらご連絡ください。
- （4）本機の使用を理由とする損害、逸失利益等の請求につきましては、当社では（3）項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

安全上の注意を表す記号

この使用説明書で使用しているマークについて説明します。本書では製品を安全にお使いいただくために、大切な記載事項には次のようなマークを使用しています。これらの記載事項は必ずお守りください。

 警告	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、死亡または障害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
 注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、障害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
 感電注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、感電の可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
  分解禁止 接触禁止   水ぬれ禁止 ぬれ手禁止	これらの記号は、行ってはいけない行為（禁止事項）を示しています。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。
 禁止	この記号は、その他の行ってはいけない行為（禁止事項）を示しています。
  アース線を接続する 電源プラグをコンセントから抜く	これらの記号は、行わなければならない行為を示しています。図の中に具体的な指示内容が描かれています。
 注意	この記号は、その他の注意していただきたい行為や内容を示しています。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

使用上のご注意

安全に関する重要な内容ですので、ご使用前によくお読みの上、正しくお使いください。

警告



禁止



感電注意

日本国内で使用する場合は交流 100 ボルトで使用してください。
火災・感電の原因となります。



禁止



感電注意

電源コードは大切に取扱ってください。コードが破損すると、火災・感電の原因となります。

- ・付属しているもの以外の電源コードは使用しない
- ・コードの上に重い物をのせない
- ・コードをプロジェクターの下敷きにししない
- ・コードの上を敷物などで覆わない
- ・コードを傷つけない、加工しない
- ・コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない
- ・コードを加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。



電源プラグをコンセントから抜け



感電注意

煙が出ている、変なにおいや音がする場合やプロジェクターを落したり、キャビネットを破損した場合は、本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となります。販売店へ修理をご依頼ください。



水ぬれ禁止



感電注意

次のような水にぬれるおそれがある所では使用しないでください。またプロジェクターの上に水のいった容器を置かないでください。火災・感電の原因となります。

- ・雨天や降雪時、海岸や水辺で使用しない
- ・風呂やシャワー室で使用しない
- ・プロジェクターの上に花瓶、植木鉢を置かない
- ・プロジェクターの上にコップ、化粧品、薬品を置かない

万一プロジェクターの内部に水などが入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。



禁止

次のような所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- ・ぐらついた台の上、傾いた所など、不安定な場所
- ・暖房の近くや振動の多い所
- ・湿気やほこりの多い場所
- ・油煙や湯気の当たるような場所
- ・調理台や加湿器のそば



禁止



感電注意

プロジェクターの通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお客様のいる家庭ではご注意ください。

万一異物がプロジェクター内部に入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

 警告	
 分解禁止  感電注意	<p>プロジェクターのキャビネットを外したり、あけたりしないでください。</p> <p>また改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>内部の点検・調整・修理は販売店にご相談ください。</p>
 禁止  感電注意	<p>雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れないでください。</p> <p>感電の原因となります。</p>
 禁止	<p>プロジェクターのレンズをのぞかないでください。</p> <p>動作中は強い光が投写されていますので、目を痛める原因となります。</p> <p>特にお子様にはご注意ください。</p>
 電源プラグをコンセントから抜く  感電注意	<p>ランプの交換は、電源を切りしばらく待って、冷却ファン停止後、電源プラグをコンセントから抜き、約 1 時間おいてから行ってください。</p> <p>動作中や停止直後にランプを交換すると高温のため、やけどの原因となります。</p> <p>詳細は 91～96 ページをご参照ください。</p>
 警告	<p>天吊りなどの特別な工事が必要な設置については販売店にご相談ください。</p> <p>お客様による設置は絶対におやめください。落下してけがの原因となります。</p>

 注意	
 ぬれ手禁止  感電注意	<p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p>
 禁止	<p>プロジェクターの通風孔をふさがないでください。またプロジェクターの下に紙や布などの柔らかい物を置かないでください。</p> <p>火災の原因となることがあります。</p> <p>プロジェクターを設置する場所は周囲から 1m 以上あけてください。</p>
 禁止	<ul style="list-style-type: none"> 動作中にレンズカバーをしないでください。レンズカバーが高温になり変形することがあります。 動作中にレンズの前に物を置かないでください。物が高温になり、破損や火災の原因となることがあります。
 電源プラグをコンセントから抜く  感電注意	<p>移動する場合は、電源を切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルを外したことを確認のうえ、行ってください。</p>
 禁止	<p>プロジェクターを持ち運ぶとき、レンズ部分に手をかけないでください。</p> <p>フォーカスリングが回転し、プロジェクターが落下してけがをするおそれがあります。</p>

⚠ 注意



電源プラグをコンセントから抜く



感電注意

長期間、プロジェクターをご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



電源プラグをコンセントから抜く



感電注意

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。



禁止

投写中および投写終了直後は、排気口付近を触らないでください。排気口付近が高温になり、やけどの原因となることがあります。



禁止

キャリーバッグにプロジェクターを入れて振り回さないでください。また、本機および本機の付属品以外は入れないでください。プロジェクターやキャリーバッグが落下して、けがの原因となることがあります。



禁止

- 電池の取り扱いには注意してください。火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
 - ・ 電池をショートさせたり、分解したり、火に入れたりしない
 - ・ 指定以外の電池は使用しない
 - ・ 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
 - ・ 電池を入れるときは、極性（+と-の向き）に注意し、表示どおりに入れる
- 電池を捨てる際は、お買い上げの販売店、または自治体にお問い合わせください。



注意

1年に一度は内部の清掃を販売店などにご相談ください。プロジェクターの内部にほこりがたまったまま、長い間清掃をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、内部の清掃費用につきましては販売店などにご相談ください。



注意



感電注意

プロジェクターの電源はコンセントを使用してください。直接電灯線に接続することは危険ですので行わないでください。また、天吊り設置のときは電源プラグを抜き差しできるように手の届くコンセントをご使用ください。



禁止



感電注意

本機のLANポートは、過電圧が加わるおそれのないネットワークに接続してください。LANポートに過電圧が加わると、感電の原因となることがあります。

お願い

性能確保のため、次の点にご留意ください

- 振動や衝撃が加わる場所への設置は避けてください。
動力源などの振動が伝わる所に設置したり、車両、船舶などに搭載すると、本機に振動や衝撃が加わって内部の部品がいたみ、故障の原因となります。
振動や衝撃の加わらない場所に設置してください。
- 高圧電線や動力源の近くに設置しないでください。
高圧電線、動力源の近くに設置すると、妨害を受ける場合があります。
- 本機を傾けて使用する場合は、調整脚の傾き範囲以内 ($0 \sim 10^\circ$) にしてください。調整脚の範囲を超えて傾けたり、左右に傾けたりすると、故障の原因となります。



- こんな場所には設置しないでください。
湿気やほこり、油煙やたばこの煙が多い場所には設置しないでください。
レンズやミラーなどの光学部品に汚れが付着して、画質を損なう原因になります。また、高温、低温になる場所に設置しないでください。故障の原因となります。
- プロジェクターに衝撃を与えたりしないでください。
- 結露にご注意ください。
- 使用温度範囲 $5 \sim 40^\circ\text{C}$ 、保存温度 $-10 \sim 50^\circ\text{C}$ 。
(ただし、 $35 \sim 40^\circ\text{C}$ は「ランプ静音モード」になります。)
- 本機を長時間にわたり連続して使用される場合は、[ファンモード]を「高速」にしてください。なお、「高速」にした場合はファンの音が大きくなります。(81ページ)
- 本機を標高約1600m以上の高地で使用する場合は、必ず[ファンモード]を「高地」に設定してください。「高地」に設定していないと、本機内部が高温になり、故障の原因となります。なお「高地」に設定するとファンの音が大きくなります。
- 本機を高所(気圧の低い所)で使用すると、光学部品(ランプなど)の交換時期が早まる場合があります。
- コンピューターなどで同じ絵柄の静止画を長時間投写すると、その絵柄がいつまでも残ることがあります。長時間同じ絵柄を投写することはおすすめしません。
- スクリーンへの外光対策をしてください。
スクリーンには、照明など本機以外からの光が入らないようにしてください。
外光が入らないほど、ハイコントラストで美しい映像が見られます。
- スクリーンについて
ご使用のスクリーンに汚れ、傷、変色などが発生すると、きれいな映像が見られません。
スクリーンに揮発性のものをかけたり、傷や汚れが付かないよう取り扱いにご注意ください。

- 持ち運びについて
 - ・ 付属のキャリーバッグに収納して持ち運んでください。
 - ・ レンズに傷が付かないように必ずレンズカバーを取り付けてください。
 - ・ 付属のキャリーバッグはプロジェクターを持ち運ぶとき、ほこりなどによる汚れの防止と、キャビネット表面保護のためのものです。キャリーバッグはプロジェクターを外部からの衝撃から保護するように設計されていません。キャリーバッグに入れて持ち運ぶとき、衝撃を与えたり、落としたり、またはキャリーバッグに入れたプロジェクターの上に物を置かないでください。破損の原因となります。プロジェクターをキャリーバッグで輸送しないでください。破損の原因となります。
- 投写レンズ面は素手でさわらないでください。
投写レンズ面に指紋や汚れが付くと、拡大されてスクリーンに映りますので、レンズ面には手をふれないでください。
また、本機を使用されないときは、付属のレンズカバーを取り付けておいてください。
- 廃棄について
本体、交換ランプ、およびリモコン用乾電池を捨てる際は、お買い上げの販売店、または自治体にお問い合わせください。

電源プラグを抜く際の注意

- 投写中および電源を切ったあとの冷却ファン回転中に電源を切断すると、一時的に本体が高温になることがあります。取り扱いに注意してください。

投写する映像の著作権について

- 営利目的または公衆に視聴させることを目的として、本機を使って映像を投写する場合、本機の機能を使ってオリジナルの映像に対して投写範囲を小さくしたり変形したりすると、著作権法上で保護されている著作権者の権利を侵害するおそれがあります。アスペクト、オートキーストーン、キーストーン調整、D.ZOOMなどの機能を使用する場合はご注意ください。



注意

ランプについての安全上のご注意

本プロジェクターの光源には、内部圧力の高い水銀ランプを使用しています。
この水銀ランプは次のような性質を持っています。

- 衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などで、大きな音をともなって破裂したり、不点灯状態となって寿命が尽きたりします。
- ランプの個体差や使用条件によって破裂や不点灯、寿命に至るまでの時間はそれぞれのランプで大きく異なります。使用開始後まもなく破裂したり、不点灯になる場合もあります。
- ランプは使用時間の経過による劣化などで、次第に暗くなります。
- ランプ交換の指示 (LAMPランプが点滅) が出たら、破裂の可能性が高くなっているため、すみやかに新しいランプと交換してください。
- 万が一、ランプが破裂した場合に生じたガスを吸い込んだり、目や口に入らないように、ご使用中は排気口に顔を近づけないでください。



注意

ランプが破裂した場合

プロジェクター内部にガラスの破片が飛び散ったり、ランプ内部のガスや粉じんが排気口から出たりすることがあります。ランプ内部のガスには水銀が含まれています。破裂した場合は窓や扉を開けるなど部屋の換気を行ってください。万一吸い込んだり、目や口に入った場合はすみやかに医師にご相談ください。ランプが破裂した場合、プロジェクター内部にガラス片が散乱している可能性があります。キヤノンお客様相談センターへプロジェクター内部の清掃とランプの交換、プロジェクター内部の点検をご依頼ください。



注意

使用済みランプを捨てるとき

プロジェクターの水銀ランプを捨てるときは、蛍光灯と同じ取り扱いで、各自自治体の条例に従い行ってください。

目次

はじめに	表紙裏
安全にお使いいただくために	3
お願い	7
目次	10
使用説明書の表記について	12

1. 付属品や名称を確認する 13

1-1. 特長	13
1-2. 付属品の確認	14
1-3. 本体各部の名称	15
1-4. リモコン各部の名称	19

2. 設置と接続 22

2-1. 設置と接続の流れ	22
2-2. スクリーンとプロジェクターを設置する	23
2-3. コンピューターと接続する	26
2-4. RGBモニターと接続する	29
2-5. AV機器と接続する	30
2-6. 書画カメラと接続する	33
2-7. LANと接続する	34
2-8. 電源コードを接続する	35

3. 映像を投写する(基本操作) 36

3-1. 映像を投写する流れ	36
3-2. 電源を入れる	37
3-3. 入力信号を選ぶ	40
3-4. 投写画面の位置と大きさを調整する	42
3-5. 台形ひずみを手動で調整する	46
3-6. 映像を自動調整する	48
3-7. 音量を調整する	49
3-8. 電源を切る	50
3-9. あとかたづけ	51

4. 便利な機能 52

4-1. 映像と音声を一時的に消す	52
4-2. 静止画にする	52
4-3. 映像を拡大する	53
4-4. パスワードを設定して無断使用を防止する	54
4-5. HTTPを使用したウェブ・ブラウザによるネットワークの設定とエラー通知メール	57

5. オンスクリーンメニュー	61
5-1. オンスクリーンメニューの基本操作	61
5-2. オンスクリーンメニュー一覧	64
5-3. インプット	67
5-4. 調整	68
5-5. セットアップ	75
5-6. 情報	85
5-7. リセット	87
6. 本体のお手入れ／ランプの交換	88
6-1. エアフィルターの清掃	88
6-2. レンズの清掃	89
6-3. キャビネットの清掃	90
6-4. ランプとエアフィルターの交換	91
7. 付録	97
困ったときには	97
POWER/STATUS/LAMP ランプ表示一覧	102
投写距離と画面サイズ	104
対応解像度一覧	107
外観図	108
コンピューター 1 入力端子のピン配列と信号名	109
サービスポートのピン配列と制御コマンド	110
トラブルチェックシート	111
仕様	113
索引	115
保証とアフターサービス	117

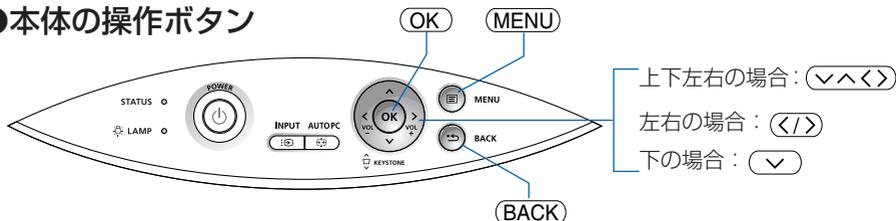
使用説明書の表記について

マークの意味

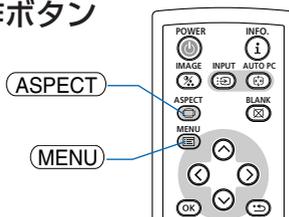
	データが消えたり、もとに戻せない操作など、十分に注意していただきたいことを表しています。
	注意や制限事項を表しています。
	補足説明や役立つ情報を表しています。
	この使用説明書内の参照ページを表しています。

操作ボタンの表記例

●本体の操作ボタン



●リモコンの操作ボタン



オンスクリーンメニュー項目の表記例

[イメージ調整]



 参考

●この使用説明書に載せている表示画面は、実際と多少異なる場合があります。

1. 付属品や名称を確認する

1-1. 特長

● 液晶方式の小型高輝度プロジェクター

液晶方式を採用し、小型で、高輝度を実現しました。

● クイックスタート(8秒)、ダイレクトパワーオフ

電源を入れてからわずか8秒で映像が表示され始めます(クイックスタート)*。

また、投写中および電源を切ったあとの冷却ファンの回転中に電源を切断することができます(ダイレクトパワーオフ)。

電源を切断する場合は、本機の主電源スイッチまたは本機の電源コードを接続しているテーブルタップのスイッチやブレーカーなどを利用してください。

※ ランプが消えた直後に再度電源を入れた場合は、冷却のためにファンが回転しているため、映像の表示まで時間がかかることがあります。

● ダイレクトパワーオン/パワーマネージメント機能

本機には次のような自動的に電源を入/切る機能があります。

・ダイレクトパワーオン(AC).....本機に電源が供給されると、自動的に電源が入り、映像を投写します。

(☞83ページ)

・ダイレクトパワーオン(Comp1) ...本機がスタンバイ状態のときコンピューター信号が入力されると、自動的に電源が入り映像を投写します。(☞84ページ)

・パワーマネージメント.....設定した時間だけ信号入力がなく、また本機を操作しなかった場合、自動的に本機の電源を切りスタンバイ状態になります。(☞84ページ)

・オフタイマー.....設定した時間が経過すると、自動的に本機の電源を切りスタンバイ状態になります。(☞83ページ)

● DVI-I映像入力端子を装備し、デジタルRGB信号、アナログRGB信号を入力可能
DVI-I映像入力端子(DVI-I 29ピン)を装備しており、デジタルRGB信号を入力することができます。また、付属のDVI-VGA変換アダプターを使用すると、DVI-I映像入力端子からもアナログRGB信号を入力することができます。

本機のDVI-I映像入力端子は、HDCPに対応しています。

● 7ワットのモノラルスピーカー内蔵

広い会議室や教室で視聴していただけるように、7ワットのモノラルスピーカーを内蔵しています。

● 投写画面の台形ひずみを自動的に補正

本機の上下方向の傾きを検知し、投写した画面が台形にひずむのを自動的に補正します。(☞45ページ)

● UXGAまでの解像度に対応

LV-7375/LV-7370/LV-7275はXGA(1024×768ドット)、LV-8300はWXGA(1280×800ドット)にリアル対応しています。また、圧縮表示対応によりUXGA(1600×1200ドット)の入力信号までカバーしています。

● お好みの色を設定&記憶できる、イメージモード設定機能

プレゼンテーションや映画など、映像ソースに応じた映像補正機能を搭載。5つの映像設定状態から選べます。また、お客様が調整した状態を本体内のメモリーに記憶できます。(☞68ページ)

● 無断使用を防止するセキュリティ機能

本機には次のようなセキュリティ機能を装備しています。

・パスワードセキュリティ.....オンスクリーンメニューでパスワードを設定すると、本機の電源を入れたときにパスワード入力画面を表示します。(☞54ページ)

・盗難防止用ロック.....本機は、ケンジントン・ロックに対応したセキュリティケーブルを接続することができます。(☞15ページ)

● ネットワークに接続し、本機のエラー状態をEメールで通知

本機をネットワークに接続すると、本機がランプ交換時期に達したり、各種エラーが発生したときに、本機の状態をEメールでコンピューターなどへ通知します。(☞57ページ)

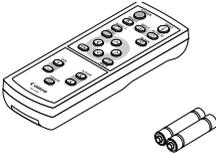
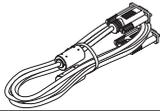
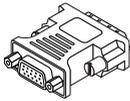
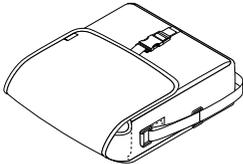
本機のネットワークの設定は、コンピューターのウェブ・ブラウザで行います。

● スタンバイ時の消費電力が3ワットの省エネ設計

オンスクリーンメニューの[スタンバイモード]で「省電力」を設定すると、スタンバイ時の消費電力が3ワットになります。

1-2. 付属品の確認

付属品の内容をご確認ください。

	<p>プロジェクター（本機） コンピューターのデータや、DVDの動画などを大きなスクリーンに投写する機器です。</p> <p>レンズカバー 本機のレンズに装着し、移動時や保管時にレンズを保護します。</p> <p>レンズカバー用ひも レンズカバーを本機につないでいるひもです。</p>
	<p>リモコン 本機の電源の入/切や、投写する映像信号の切り換え操作などができます。 ご購入後はじめて使用するときは、付属の単4乾電池2本をセットしてください。（▶ 21ページ）</p> <p>単4乾電池2本 付属のリモコンにセットします。</p>
	<p>電源コード（長さ 4.5m） AC100V と本機に接続します。</p>
	<p>コンピューター接続ケーブル （ミニ D-Sub 15 ピン）（長さ 1.8m） コンピューターの画面をスクリーンに投写する場合に使用します。 （▶ 26ページ）</p>
	<p>DVI-VGA 変換アダプター 本機のコンピューター 2 入力端子（DIGITAL IN/ANALOG IN-2）に、コンピューター接続ケーブル（ミニ-D-Sub 15 ピン）を接続するときに使います。（▶ 27 ページ）</p>
	<p>キャリーバッグ 本機や付属品を収納します。移動時や保管時にご使用ください。</p>
<p>User's Manual CD-ROM 使用説明書（本書）がPDF（Portable Document Format）形式で収録されています。</p> <p>クイックスタートガイド 機器の接続、電源を入れる、投写画面の調整、操作ボタンの働きなど、基本的な操作方法をコンパクトにまとめて説明しています。</p> <p>Important Information（重要なお知らせ） 安全のために守っていただきたいこと、ランプ交換、保証とサービスなどについて記載しています。</p> <p>保証書 プロジェクターの保証内容・条件を記載しています。</p>	

参考

- 万一付属品などが不足していたり破損している場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。
- 付属品の外観が使用説明書のイラストと多少異なる場合がありますが、実用上の支障はありません。

1-3. 本体各部の名称

本体前面

ズームレバー

投写した画面の大きさを調整します。
(▶ 43 ページ)

フォーカスリング

映像のピントを合わせます。
(▶ 43 ページ)

リモコン受光部

リモコンの信号を受け取る部分です。
(▶ 21 ページ)

調整脚ロックボタン

押し上げると調整脚を伸縮できます。本機の投写角度を固定したいところで、調整脚ロックボタンから指を離します。
(▶ 44 ページ)

調整脚

投写角度を調整します。調整脚ロックボタンを押し上げて上下に伸縮できます。
(▶ 44 ページ)

レンズ

ここから映像が投写されます。

レンズカバー

レンズを保護します。



注意

投写の際には必ず外してください。レンズカバーを付けたまま投写すると、レンズカバーの変形や火災の原因となります。

操作パネル

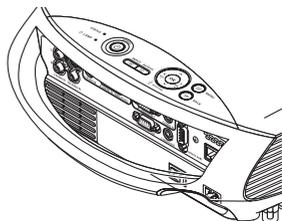
本機の電源の入/切や、投写する映像信号の切り換え操作などができます。
(▶ 17 ページ)

盗難防止用ロック

盗難防止のためワイヤーケーブルを付ける際に使用します。
このページの をご参照ください。

吸気口/エアフィルター

内部にほこりやゴミが入るのを防止します。本機にはエアフィルターが2箇所(正面から見た右側面と背面)にあります。
(▶ 88, 95 ページ)



注意

吸気を妨げないようにしてください。故障や火災などの原因となります。

1

付属品や名称を確認する

参考

- 盗難防止用ロックについて 盗難防止用ロックは、キーケーブルロック等のセキュリティワイヤーに対応しています。

本体背面

吸気口／エアフィルター

内部にほこりやゴミが入るのを防止します
本機にはエアフィルターが2箇所(背面と正面から見た右側面)にあります。(● 88, 95ページ)

接続端子部

各種映像信号や音声信号のケーブルを接続します。(● 18ページ)

キャリングハンドル

本機を移動するときに持ちます。

注意 ● 本機を移動するときは、レンズを保護するため、必ずレンズカバーを取り付けてください。

主電源スイッチ

主電源スイッチを「[入]」にすると、スタンバイ状態になります。(● 37ページ)

電源コード接続部

付属の電源コードを接続します。(● 35ページ)

ランプカバー

ランプ交換のときにカバーを外します。(● 92ページ)

スピーカー(モノラル)

音声入力端子から入力された音声を出します。(● 49ページ)

排気口

ランプの熱を排気します。



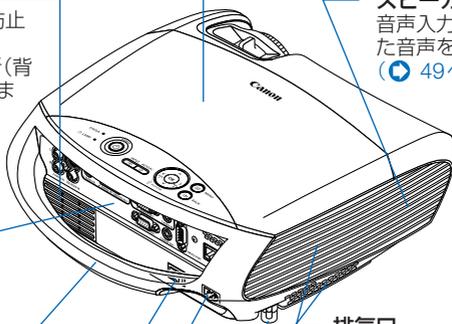
排気を妨げないようにしてください。故障や火災
注意 などの原因となります。

後部調整脚

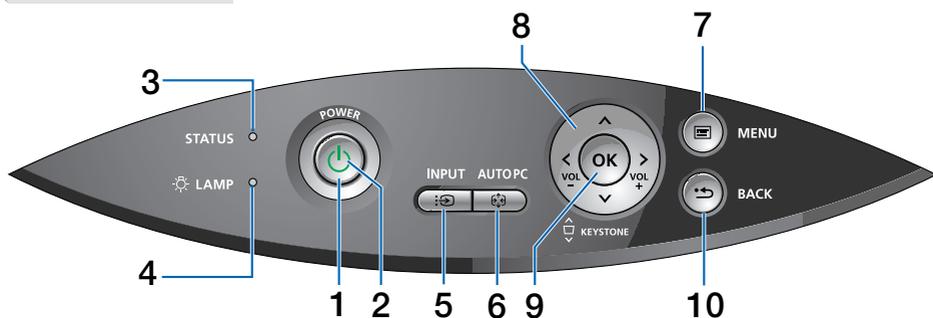
投写した映像が水平になっていないとき、後部調整脚を回すと、左右の傾きの微調整ができます。(● 44ページ)



● 後部調整脚には、工場出荷時にスペーサーを取り付けています。後部調整脚にスペーサーを取り付けることにより、本機をほぼ水平にします。後部調整脚を回す場合は、スペーサーを取り外してください。スペーサーは紛失しないようにしてください。



操作パネル



1 (POWER) ボタン

本機の電源を入/切(スタンバイ状態)します。

電源を入れるときは、約1秒押します。

電源を切る(スタンバイ状態)ときは、一度押して電源切確認メッセージを表示してもらう一度(POWER)ボタンを押します。

2 POWERランプ

電源が入っているときは緑色に点灯します。

([38ページ](#))

電源が切れている(スタンバイ状態)ときはオレンジ色に点灯します。

3 STATUSランプ

電源が切れているとき(スタンバイ状態)は緑色に点灯します。(スタンバイモードが「標準」に設定されているとき)。

キーロック中に操作ボタンを押したときや、本機に異常が発生したときに、点灯/点滅します。詳しくは「POWER/STATUS/LAMPランプ表示一覧」をご参照ください。

([102ページ](#))

4 LAMPランプ

ランプの交換時期がきたことやランプモードの状態(静音モード)をお知らせします。

([103ページ](#))

5 (INPUT) ボタン

コンピューター1入力、コンピューター2入力、ビデオ入力、S-ビデオ入力を切り換えます。

短く押すと信号選択画面を表示します。

また、2秒以上押し続けると次のように切り換わります。

- コンピューター1 → コンピューター2 (デジタル) → コンピューター2(アナログ)
- ビデオ → S-ビデオ …

入力されていない信号は飛び越します。

([40ページ](#))

6 (AUTO PC) ボタン

アナログRGB信号の映像を投写しているときに、最適な状態に自動調整します。

([48ページ](#))

7 (MENU) ボタン

各種設定・調整のオンスクリーンメニューを表示します。([61ページ](#))

8 (✓<>) ボタン(音量調整ボタン、キーストーン調整ボタンを兼用)

- ・オンスクリーンメニューを表示しているときに(✓<>)ボタンを押すと、設定・調整したい項目を選べます。

([61ページ](#))

- ・オンスクリーンメニューを表示していないときは、(K)ボタンで音量の調整、(V)ボタンで台形ひずみの調整ができます。([49, 46ページ](#))

9 (OK) ボタン

オンスクリーンメニュー表示中は、次の階層のメニューに進みます。

確認メッセージ表示中は、項目を決定します。

10 (BACK) ボタン

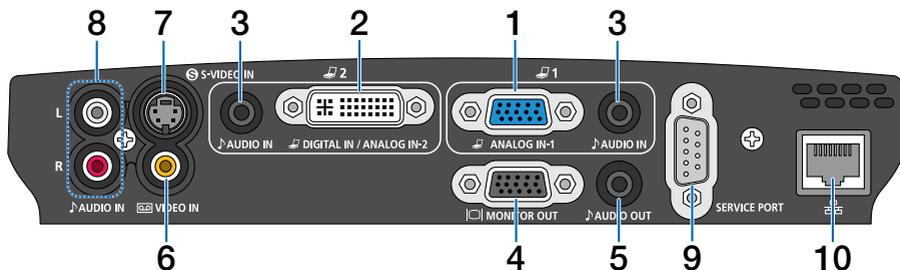
オンスクリーンメニュー表示中は、前の階層のメニューに戻ります。メインメニューにカーソルがあるときは、メニューを閉じます。

確認メッセージ表示中は、操作を取り消します。

1

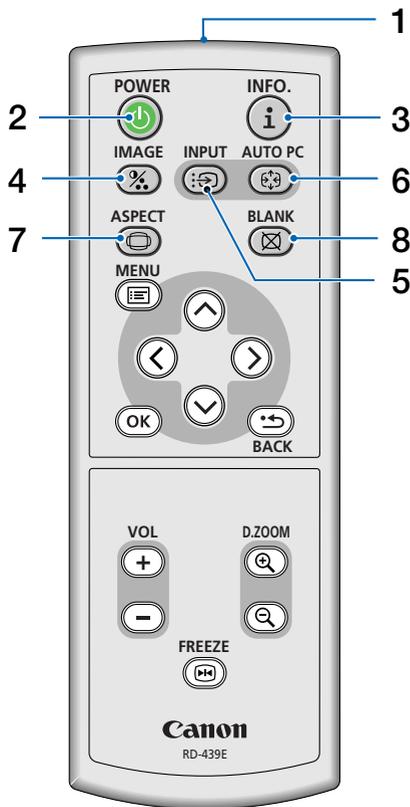
付属品や名称を確認する

接続端子部



- 1 コンピューター1入力端子 (ANALOG IN-1) (ミニD-Sub 15ピン)**
コンピューターのディスプレイ出力端子や、AV機器のコンポーネント出力端子と接続します。(▶26, 31ページ)
- 2 コンピューター2入力端子 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2) (DVI-I 29ピン)**
コンピューターのDVI出力端子と接続します。(▶26ページ)
付属のDVI-VGA変換アダプターを接続すると、コンピューターのアナログRGBのディスプレイ出力端子と接続できます。(▶27ページ)
- 3 コンピューター音声入力端子 (AUDIO IN) (ステレオ・ミニ)**
コンピューターまたはAV機器の音声出力端子と接続すると、本機のスピーカーから音が出せます。(▶26, 31ページ)
本機のスピーカーから出力される音声はモノラルです。
- 4 モニター出力端子 (MONITOR OUT) (ミニD-Sub 15ピン)**
コンピューター1入力 (ANALOG IN-1) の映像信号を出力します。(▶29ページ)
- 5 音声出力端子 (AUDIO OUT) (ステレオ・ミニ)**
オーディオアンプと接続します。ヘッドホンは接続できません。
ここに何も接続していない場合は、内蔵スピーカーからモノラルで出力されます。
オーディオケーブルのジャックが挿入されているときは、音声はミックスされずにセパレートで出力されます。
音声入力端子 (AUDIO IN) のLだけに挿入している場合は左の音声だけ出力されます。
- 6 ビデオ映像入力端子 (VIDEO IN) (RCA-フォノ)**
AV機器の映像出力端子と接続します。(▶30, 33ページ)
- 7 S-ビデオ映像入力端子 (S-VIDEO IN) (ミニDIN-4ピン)**
AV機器のS映像出力端子と接続します。(▶30, 33ページ)
- 8 S-ビデオ/ビデオ音声入力端子 (AUDIO IN) (RCA-フォノ)**
本機のS-ビデオ映像入力端子 (S-VIDEO IN)、またはビデオ映像入力端子 (VIDEO IN) に接続した機器の音声出力端子と接続します。(▶30ページ)
- 9 サービスポート (SERVICE PORT) (ミニD-Sub9ピン)**
コンピューターや制御システムで本機を操作するときに使います。
- 10 LANポート(品) (RJ-45)**
本機をネットワークに接続すると、本機がランプ交換時期に達したり、各種エラーが発生したときに、本機の状態をEメールでコンピューターなどへ通知します。

1-4. リモコン各部の名称



1 リモコン送信部

赤外線によるリモコン信号が送信されます。本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

2 (POWER) ボタン

電源の入/切を行います。

- ・本機のスタンバイ時(POWERランプがオレンジ色に点灯)に、約1秒押しして本機の電源を入れます。
- ・本機の電源を切るときは、一度押しして電源切確認メッセージを表示してもう一度(POWER)ボタンを押すと、本機の電源が切れます(スタンバイ状態)。

3 (INFO.) ボタン

情報画面を表示します。(▶85ページ)

4 (IMAGE) ボタン

ボタンを押すたびに、イメージモード設定、明るさ、コントラスト、シャープネス、色の濃さ、色合いの映像調整項目を順に表示します。(▶68, 70ページ)

5 (INPUT) ボタン

コンピューター1入力、コンピューター2入力、ビデオ入力、S-ビデオ入力を切り換えます。短く押すと信号選択画面を表示します。また、2秒以上押し続けると次のように切り換わりします。

→コンピューター1→コンピューター2(デジタル)→コンピューター2(アナログ)→ビデオ→S-ビデオ…

入力されていない信号は飛び越します。

(▶40ページ)

6 (AUTO PC) ボタン

投写しているアナログRGB信号の映像を最適な状態に自動調整します。(▶48ページ)

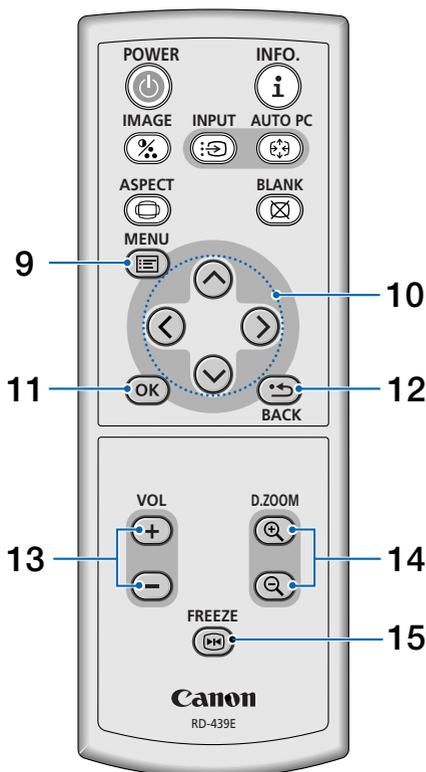
7 (ASPECT) ボタン

アスペクト調整項目を表示します。

(▶72ページ)

8 (BLANK) ボタン

映像と音声を一時的に消します。もう一度押すと戻ります。(▶52ページ)



9 (MENU) ボタン
各種設定・調整のオンスクリーンメニューを表示します。(▶61ページ)

10 (◀▶) ボタン
オンスクリーンメニュー操作や (D.ZOOM +/-) ボタンを使った画面拡大時の表示位置調整に使います。(▶61, 53ページ)

11 (OK) ボタン
オンスクリーンメニュー表示中は、次の階層のメニューに進みます。
確認メッセージ表示中は、項目を決定します。

12 (BACK) ボタン
オンスクリーンメニュー表示中は、前の階層のメニューに戻ります。メインメニューにカーソルがあるときは、メニューを閉じます。
確認メッセージ表示中は、操作を取り消します。

13 (VOL +/-) ボタン
内蔵スピーカーの音量と音声出力端子 (AUDIO OUT) の音量を調整します。(▶49ページ)

14 (D.ZOOM +/-) ボタン
画面の拡大・縮小(もとに戻す)をします。(▶53ページ)

15 (FREEZE) ボタン
表示されている映像が静止画となります。もう一度押すと戻ります。(▶52ページ)

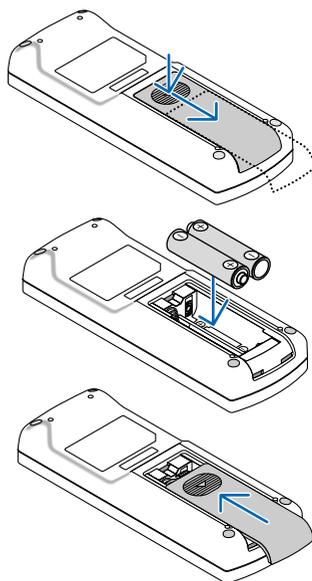
●電池の入れかた

1 リモコン裏面の電池ケースのふたを
押したまま手前に引き、上に持ち上
げて外す。

2 ケース内部に印刷されている+、-
の向きに合わせて単4乾電池をセッ
トする。

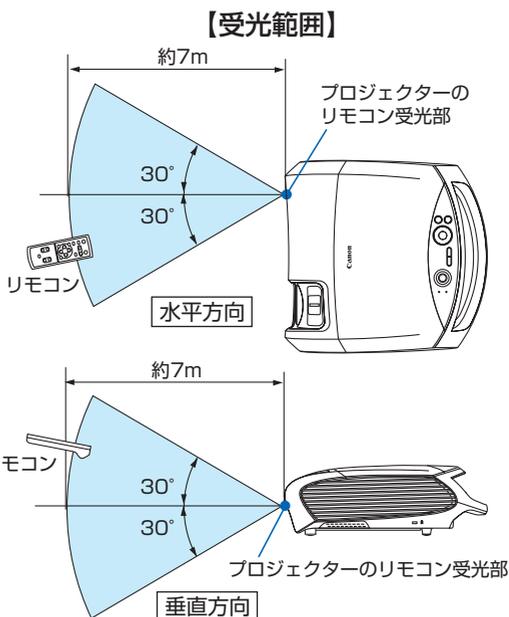
3 もとどおりにふたをする。

注意 ●乾電池を交換するときは、2本とも同じ種
類の単4乾電池をお買い求めください。



●リモコンの有効範囲

リモコン送信部を本体のリモコン受
光部に向けてリモコンを操作してく
ださい。おおよそ次の範囲内でリモ
コンの信号が受信できます。
リモコンをスクリーンに反射させて
本体前面のリモコン受光部で受信す
ることもできます。



(注) 有効範囲のイメージを表した図のため
実際とは多少異なります。

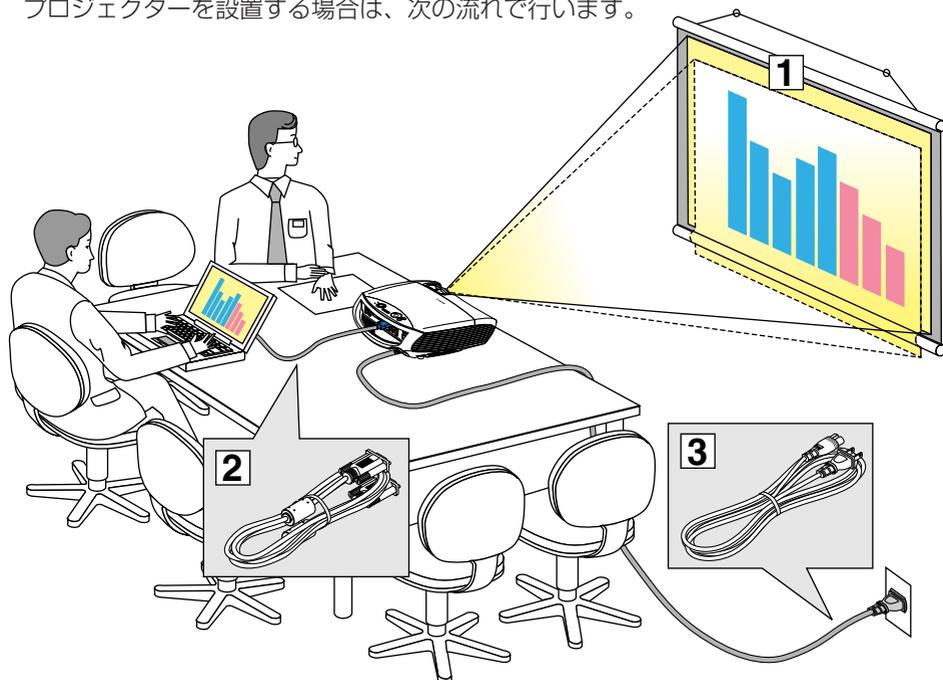
●リモコンの使用上の注意

- ・ 本機のリモコン受光部やリモコン送信部に明るい光が当たっていたり、途中で障害物があつて信号がさえぎられていると動作しません。
- ・ 本体から約7m以内で本体のリモコン受光部に向けて操作してください。
- ・ リモコンを落としたり、誤った取り扱いはしないでください。
- ・ リモコンに水や液体をかけないでください。万一ぬれた場合は、すぐにふき取ってください。
- ・ できるだけ熱や湿気のないところで使用してください。
- ・ 長期間リモコンを使用しないときは、乾電池を取り出してください。

2. 設置と接続

2-1. 設置と接続の流れ

プロジェクターを設置する場合は、次の流れで行います。



ステップ 1

スクリーンとプロジェクターを設置する (▶ 23, 24 ページ)

ステップ 2

コンピューターや AV 機器をプロジェクターに接続する

- コンピューターと接続する場合 (▶ 26, 27 ページ)
- RGBモニターと接続する場合 (▶ 29 ページ)
- AV 機器と接続する場合 (▶ 30～32 ページ)
- 書画カメラと接続する場合 (▶ 33 ページ)
- LANと接続する場合 (▶ 34 ページ)

ステップ 3

電源コードを接続する (▶ 35 ページ)

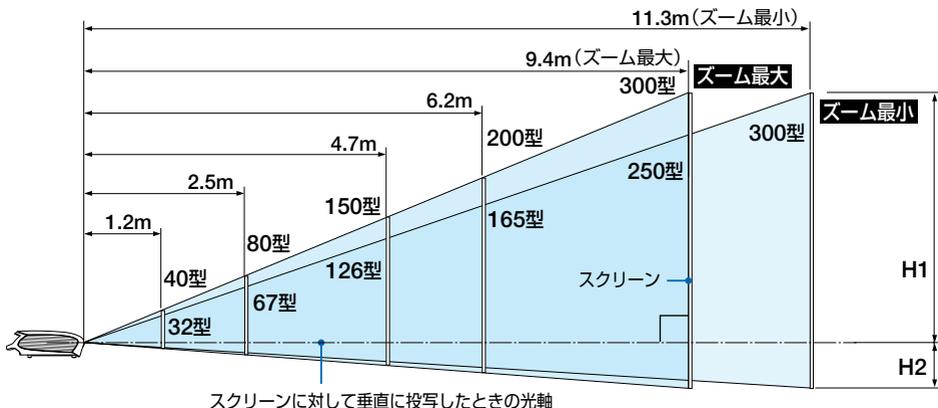
2-2. スクリーンとプロジェクターを設置する

下図を参照して、適切な画面サイズとなる位置にプロジェクターを設置してください。

スクリーンまでの距離を決める(LV-7375/LV-7370/LV-7275)

投写したときの画面サイズは、プロジェクターのレンズからスクリーンまでの距離によって決まります。図を参考にして、目的の画面サイズになる設置場所を選んでください。

なお、画面サイズはレンズの周りのズームレバーで調整することができます。



画面サイズ(型)	21	25	30	40	60	80	100	150	180
(幅×高さcm)	43×32	51×38	61×46	81×61	122×91	163×122	203×152	305×229	366×274
投写距離(m)	—	0.8	0.9	1.2	1.9	2.5	3.1	4.7	5.6
ズーム最大									
投写距離(m)	0.8	0.9	1.1	1.5	2.2	3.0	3.7	5.6	6.8
ズーム最小									
H1 (cm)	27	32	39	51	77	103	129	193	231
H2 (cm)	5	6	7	10	14	19	24	36	43

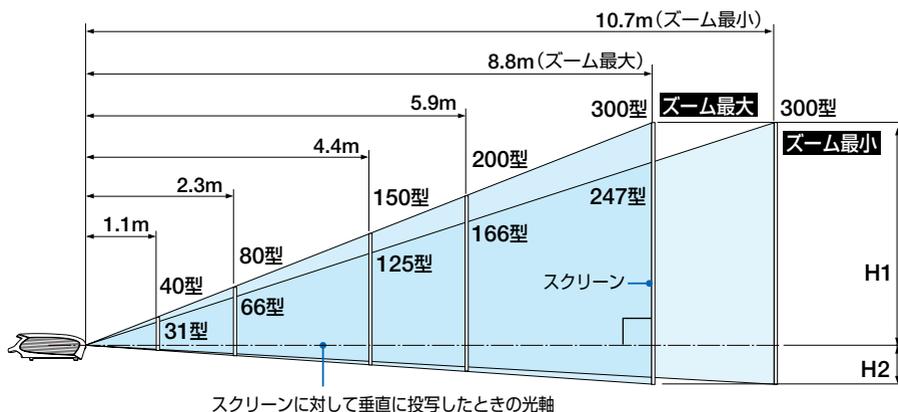
画面サイズ(型)	200	250	300
(幅×高さcm)	406×305	508×381	610×457
投写距離(m)			
ズーム最大	6.2	7.8	9.4
投写距離(m)	7.5	9.4	11.3
ズーム最小			
H1 (cm)	257	321	386
H2 (cm)	48	60	71

H1、H2：スクリーンに対して垂直に投写したときの光軸を境にした上下の高さ

- 投写距離は、約 0.8m (21 型の場合) ～ 11.3m (300 型の場合) の範囲になるように設置してください。距離が近すぎた場合はピントが合わず、遠すぎた場合は画面が暗くなります。
- 表はアスペクト設定が標準 (4 : 3) のときのサイズですが、投写内容などによっては実際に投写したサイズと異なる場合があります。

スクリーンまでの距離を決める(LV-8300)

投写したときの画面サイズは、プロジェクターのレンズからスクリーンまでの距離によって決まります。図を参考にして、目的の画面サイズになる設置場所を選んでください。
 なお、画面サイズはレンズの周りのズームレバーで調整することができます。



画面サイズ(型) (幅×高さcm)	21 45×28	25 54×34	30 65×40	40 86×54	60 129×81	80 172×108	100 215×135	150 323×202	180 388×242
投写距離(m) ズーム最大	—	0.7	0.9	1.1	1.7	2.3	2.9	4.4	5.3
投写距離(m) ズーム最小	0.7	0.9	1.0	1.4	2.1	2.8	3.5	5.3	6.4
H1 (cm)	24	29	34	46	69	92	114	172	206
H2 (cm)	4	5	6	8	12	16	20	30	36

画面サイズ(型) (幅×高さcm)	200 431×269	250 538×337	300 646×404
投写距離(m) ズーム最大	5.9	7.4	8.8
投写距離(m) ズーム最小	7.1	8.9	10.7
H1 (cm)	229	286	343
H2 (cm)	40	50	61

H1、H2：スクリーンに対して垂直に投写したときの光軸を境にした上下の高さ

- 投写距離は、約 0.7m (21 型の場合) ～ 10.7m (300 型の場合) の範囲になるように設置してください。距離が近すぎた場合はピントが合わず、遠すぎた場合は画面が暗くなります。
- 表はアスペクト設定が標準 (16:10) のときのサイズですが、投写内容などによっては実際に投写したサイズと異なる場合があります。

注意

- 設置場所には、本体の排気口（ファン）および吸気口（エアフィルター）をふさぐものがないことを確認してください。
- スクリーンには、太陽光線や照明が直接当たらないようにしてください。明るい部屋では、照明を落とすなどして部屋の明るさをやや落とすと見やすくなります。

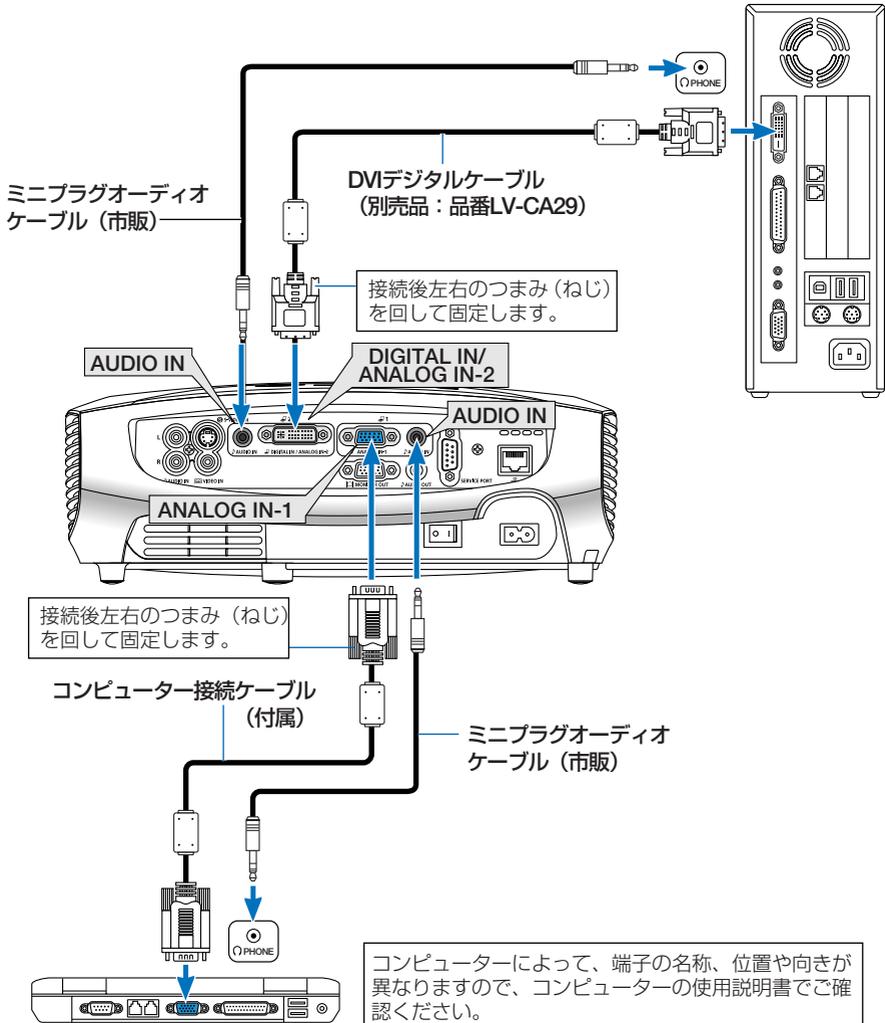
参考

- ズームレバーを操作すると、画面のサイズ（対角線の長さ）を約±10%の範囲で変更することができます。
なお、図の各寸法は、設計値のため実際の寸法と多少の誤差がありますので目安としてください。
- 投写距離と画面サイズについては、付録の「投写距離と画面サイズ」をご参照ください。
(▶ 104 ~ 106 ページ)
- 天吊り／リア投写について
本プロジェクターは、天井から逆さに吊り下げて投写（天吊り）することや、透過型スクリーンを使用してスクリーン裏側から投写（リア投写）することができます。なお、天吊りやリア投写を行う場合は、投写する映像を上下、左右に反転させる必要があります。(▶ 79 ページ)
- 天井から吊り下げる場合は、別売の天吊り金具（品番 LV-CL15）が必要です。

2-3. コンピューターと接続する

コンピューター側のディスプレイ出力端子(ミニ D-Sub15 ピン)と、本機のコンピューター入力端子 (ANALOG IN-1 または DIGITAL IN/ANALOG IN-2) を、付属のコンピューター接続ケーブルで接続します。

コンピューター側が DVI 出力端子の場合は、別売の DVI デジタルケーブル (品番 LV-CA29) で本機のコンピューター 2 入力端子 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2) に接続します。



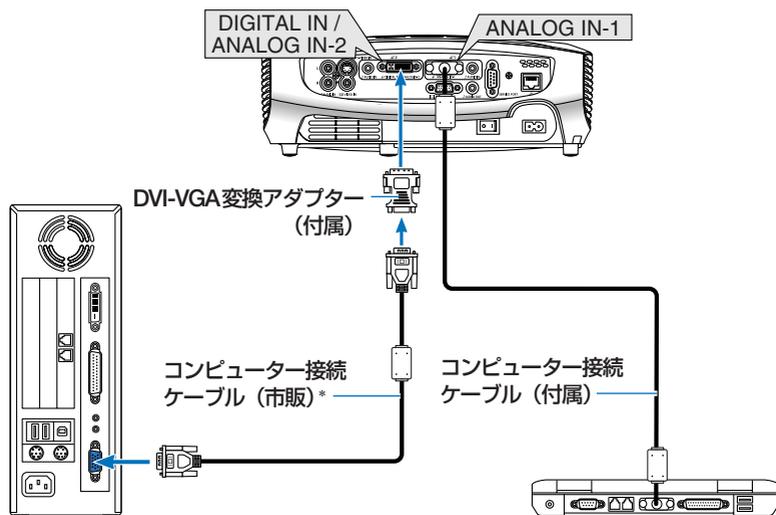
次ページに続く

- 本機の電源を入れたあとに接続端子に応じた「インプット名」を選んでください。

接続端子	本体またはリモコンの (INPUT) ボタンを押す
コンピューター 1 入力端子 (ANALOG IN-1)	コンピューター 1
コンピューター 2 入力端子 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2)	コンピューター 2 (デジタル) または コンピューター 2 (アナログ)

●付属のDVI-VGA変換アダプターの使用方法

付属のDVI-VGA変換アダプターを使用すると、コンピューター 2 入力端子 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2) からアナログ RGB入力信号を入力することができます。ただし、DVI-VGA変換アダプターを使用しないときは、本機から取り外してください。DVI-VGA変換アダプターを常時付けたままにしておくと、端子部の故障の原因となります。



- * コンピューター接続ケーブルは 1 本付属されています。2 本必要な場合は、市販品のコンピューター接続ケーブルを使用してください。

注意

- コンピューターや本機の電源を切ってから接続してください。
- オーディオケーブルをコンピューター音声入力端子 (AUDIO IN) に接続する場合、次のことにご注意ください。
 - ① オーディオケーブルを接続する前にコンピューター側の音量を最小に調整しておいてください。
 - ② 本機の使用時に、本機とコンピューターの双方で適切な音量に調整してください。
 - ③ 抵抗が内蔵されていないオーディオケーブルをご使用ください。抵抗内蔵タイプでは、音声が小さくなります。
- コンピューターにミニジャックタイプの音声出力端子がある場合は、その端子にオーディオケーブルを接続することをおすすめします。
- スキャンコンバーターなどを介してAV機器を接続した場合、早送り・巻き戻し再生時に正常に表示できない場合があります。
- コンピューター 2 (デジタル) 入力時の注意事項
 - ・ 市販されている DVI デジタルケーブルを使用する場合は、DDWG Revision1.0 に準拠した 5 m 以内のものにしてください。
 - ・ DVI デジタルケーブルは、シングル/デュアルのどちらのタイプも使用できます。
 - ・ DVI デジタルケーブルを接続するときは、本機とコンピューターの電源が切れた状態で行ってください。
 - ・ DVI (デジタル RGB) 信号を投写する際は、ケーブル接続後、まず本機の電源を入れ、コンピューター 2 (デジタル) 入力を選びます。最後にコンピューターを起動してください。

上記の手順どおりに操作しないと、映像が投写されないことがあります。映像が投写されない場合はコンピューターを再起動してください。
 - ・ コンピューターのグラフィックカードによっては、アナログ RGB (D-Sub) と DVI (または DFP) の両端子を有するものがあります。この場合、D-Sub 端子に RGB 信号ケーブルを接続していると、DVI デジタル信号が出力されないものがあります。
 - ・ 本機の電源が入っているときに DVI デジタルケーブルを抜かないでください。一度抜いて、再度接続した場合、映像が正常に投写されないことがあります。その場合はコンピューターを再起動してください。
 - ・ 本機のコンピューター 2 (デジタル) 入力は、VGA (640×480)、SVGA (800×600)、XGA (1024×768)、1152×864、WXGA (1280×800 / 垂直走査周波数 60Hz まで)、および SXGA (1280×1024 / 垂直走査周波数 60Hz まで) に対応しています。

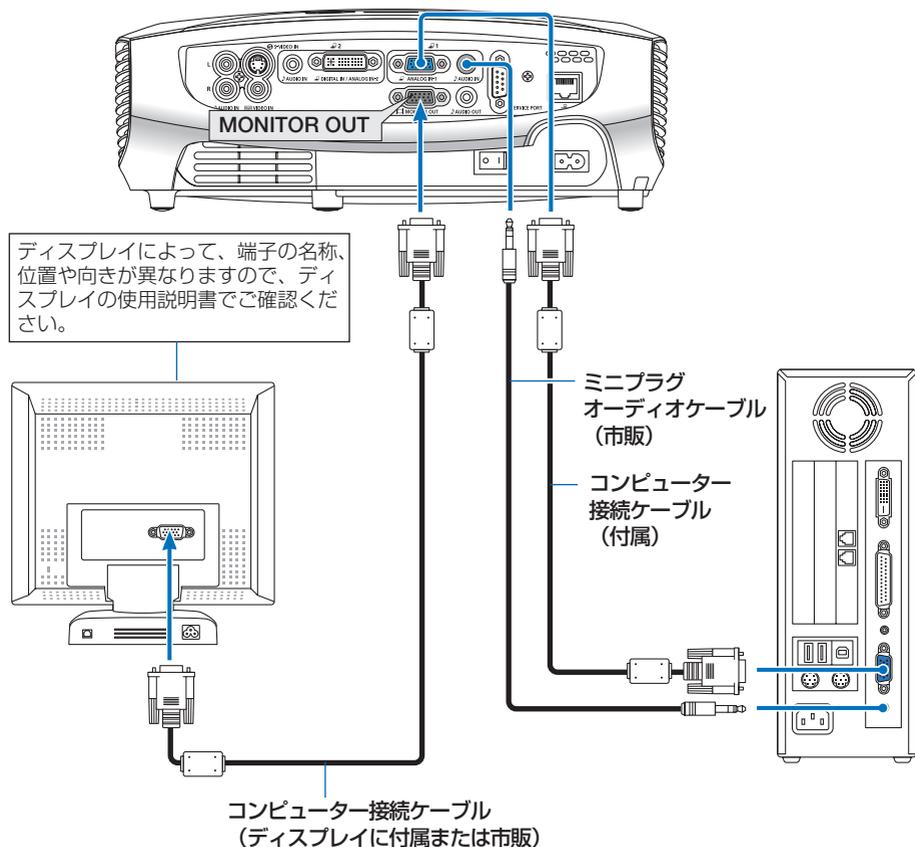
参考

- コンピューター 1 入力端子 (ANALOG IN-1) は、Windows のプラグ・アンド・プレイに対応しています。

さらに LV-8300 では、前ページのようにコンピューター 2 入力 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2) にアナログ RGB 入力信号を接続した場合も、プラグ・アンド・プレイに対応しています。
- Macintosh との接続では、Macintosh 用信号アダプター (市販品) が必要になる場合があります。

2-4. RGBモニターと接続する

図のように、デスクトップ型のコンピューターと本機を接続したときなど、本機で投写している画面と同じ画面を、手もとのディスプレイにも表示(モニター)して確認できます。コンピューター1入力端子(ANALOG IN-1)に入力された信号だけがモニター出力端子(MONITOR OUT)から出力されます。



注意

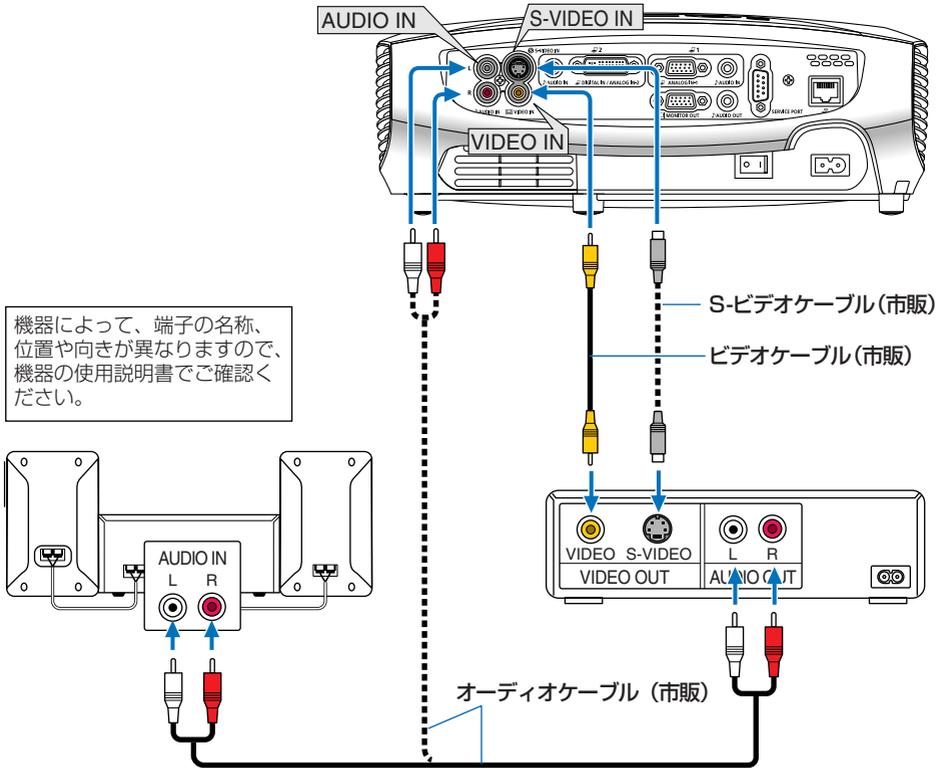
- 本機のモニター出力端子(MONITOR OUT)は、1台のディスプレイへ映像信号を出力するためのものです。複数のディスプレイやプロジェクターを連続してつなぐような使いかたはできません。
- 本機の音声出力端子(AUDIO OUT)にオーディオケーブルを接続すると、本機のスピーカーから音が出なくなります。
- オーディオケーブルは抵抗が内蔵されていないタイプをご使用ください。抵抗内蔵タイプでは、音声が小さくなります。

2-5. AV機器と接続する

ビデオ信号／S-ビデオ信号の接続

AV機器のビデオ信号／S-ビデオ信号の映像を映す場合は、市販のケーブルを使用してください。

音声をステレオで出力したいときは、オーディオ機器と接続してください。



- 本機の電源を入れたあとに接続端子に応じた「インプット名」を選んでください。

接続端子	本体またはリモコンの (INPUT) ボタンを押す
ビデオ映像入力端子 (VIDEO IN)	VIDEO
S-ビデオ映像入力端子 (S-VIDEO IN)	S-VIDEO

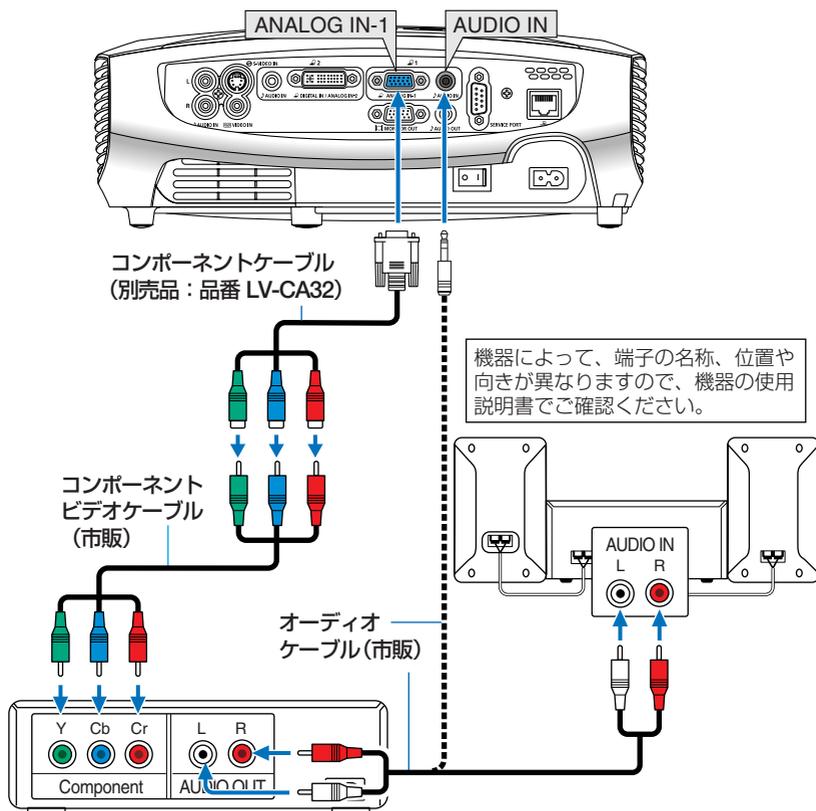


- ビデオ入力とS-ビデオ入力の音声入力端子 (AUDIO IN) は兼用です。

コンポーネント信号の接続

AV機器の色差出力端子やYPbPr出力端子(HD映像出力)からのコンポーネント信号を本機で映すことができます。

音声をステレオで出力したいときは、オーディオ機器と接続してください。



- 本機の電源を入れたあとに接続端子に応じた「インプット名」を選んでください。

接続端子	本体またはリモコンの (INPUT) ボタンを押す
コンピューター 1 入力端子 (ANALOG IN-1)	コンピューター 1
コンピューター 2 入力端子 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2)	コンピューター 2 (アナログ)

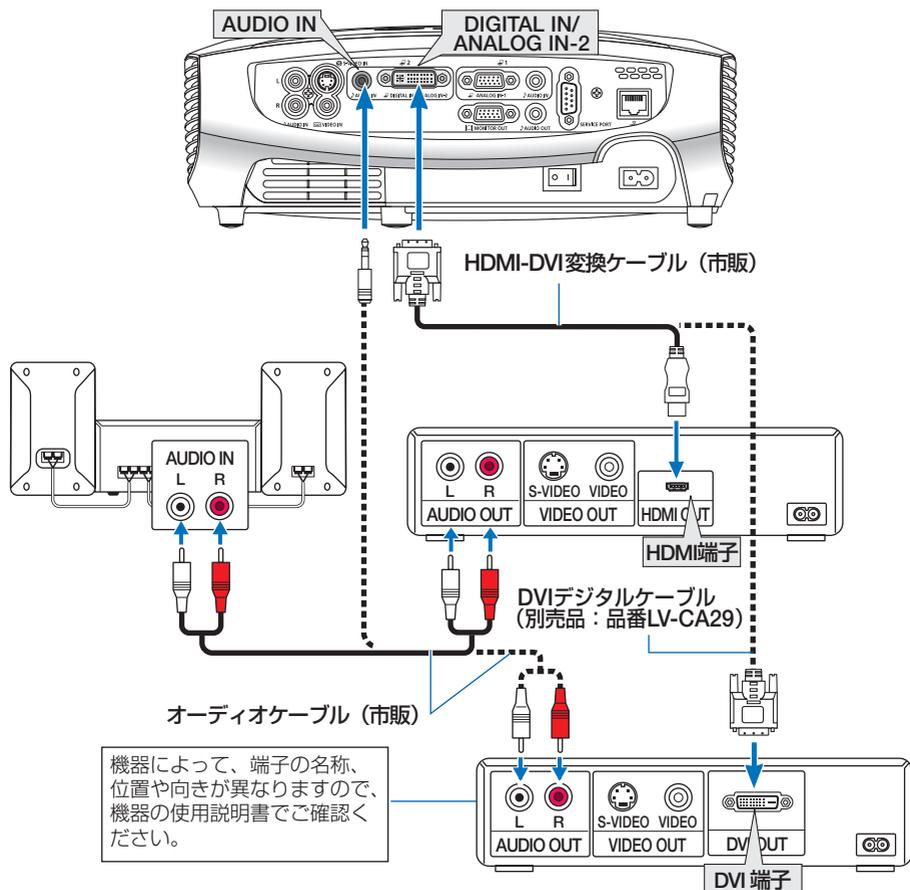
参考

- 通常は自動でRGBとコンポーネントを判別して切り換えますが、判別できない場合は、本機のオンスクリーンメニューから [セットアップ] → [オプション(1)] → [入力信号選択] → [コンピューター 1 / 2 (アナログ)] の設定画面でコンピューター信号を「COMPONENT」に設定してください。(82 ページ)
- D端子付きの映像機器と接続する場合は、市販のD端子変換アダプターをお使いください。

デジタル映像信号の接続

デジタル映像出力端子 (HDMI端子またはDVI端子) を備えたAV機器からの映像を投写する場合は、図のように本機のコンピューター2入力端子 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2) に接続します。

音声をステレオで出力したいときは、オーディオ機器と接続してください。



- 本機の電源を入れたあとに接続端子に応じた「インプット名」を選んでください。

接続端子	本体またはリモコンの (INPUT) ボタンを押す
コンピューター2入力端子 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2)	コンピューター2 (デジタル)

注意

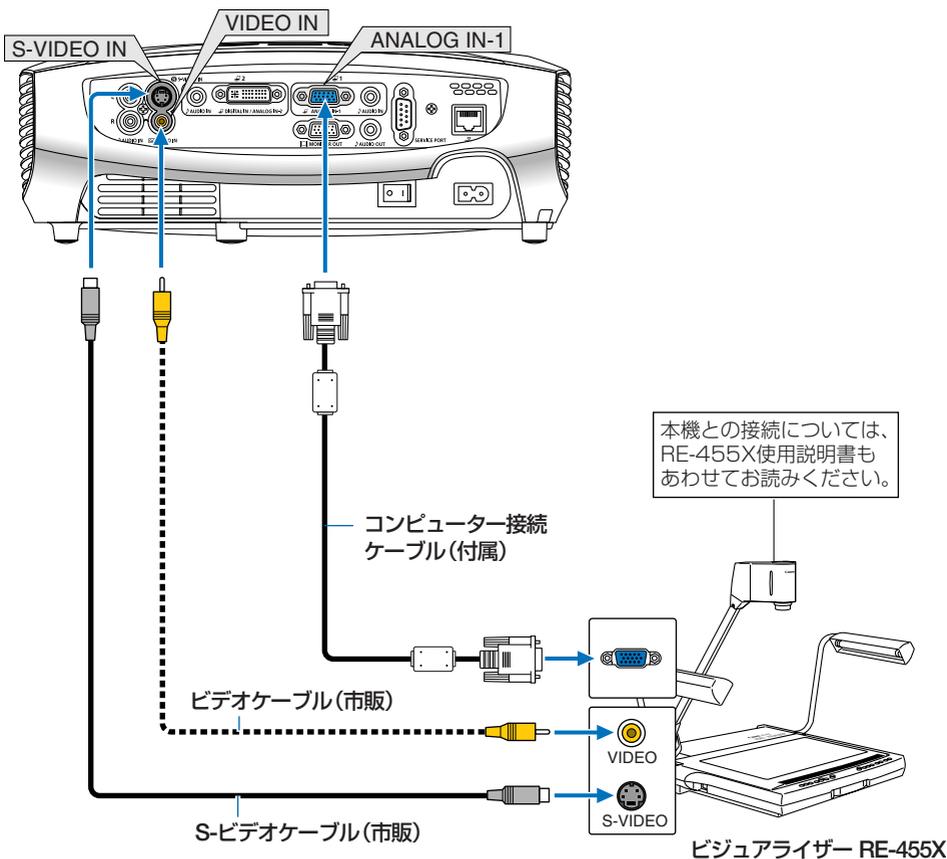
- AV機器の仕様によっては、本機で投写できない場合があります。

参考

- HDMI端子を備えたAV機器の場合、HDMI出力に「Enhanced」「Normal」の切り換えがあれば、「Enhanced」に設定することをおすすめします。映像のコントラストが向上し、暗部がより忠実に表現されます。詳しくは、接続するAV機器の設定を参照してください。

2-6. 書画カメラと接続する

本機に別売の書画カメラ (ビジュアルライザー RE-455X) を接続すると、印刷された資料や立体をスクリーンに投写することができます。



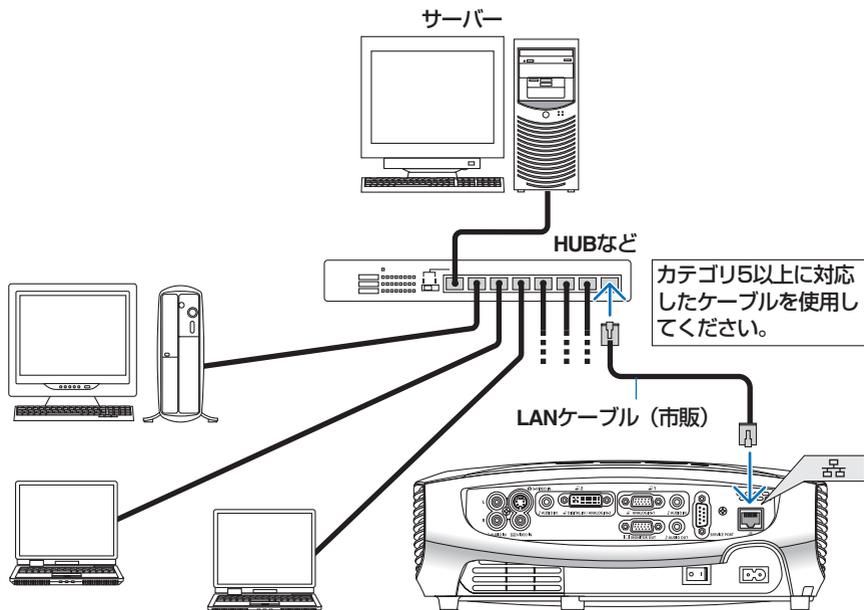
- 本機の電源を入れたあとに接続端子に応じた「インプット名」を選んでください。

接続端子	本体またはリモコンの (INPUT) ボタンを押す
コンピュータ 1 入力端子 (ANALOG IN-1)	コンピュータ 1
ビデオ映像入力端子 (VIDEO IN)	VIDEO
S-ビデオ映像入力端子 (S-VIDEO IN)	S-VIDEO

2-7. LANと接続する

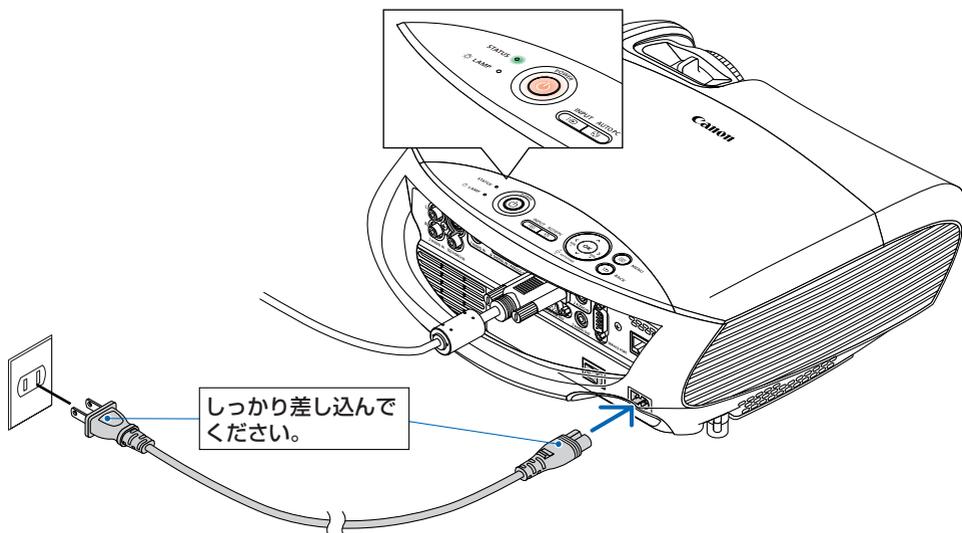
本機にはLANポート (RJ-45) が標準装備されています。LANケーブルを接続するとHTTPサーバー機能を使って本機にLANの設定が行えます。本機をLAN環境で使用する場合は、本機にIPアドレスなどを設定する必要があります。本機へのLANの設定について詳しくは、「4-5.HTTPを使用したウェブ・ブラウザによるネットワークの設定とエラー通知メール」([📄 57ページ](#)) をご参照ください。

接続例



2-8. 電源コードを接続する

本機の電源コード接続部とAC100Vのコンセントを付属の電源コードで接続します。電源コードを接続し、主電源スイッチを「I(入)」にすると、本機のPOWERランプがオレンジ色に点灯します(スタンバイ状態)。また、STATUSランプが緑色に点灯します(スタンバイモードが「標準」に設定されているとき)。



注意

投写中および本機の電源を切ったあとの冷却ファンの回転中に電源を切断すると、一時的に本体が高温になることがあります。取り扱いに注意してください。

2

設置と接続

3. 映像を投写する(基本操作)

3-1. 映像を投写する流れ

ステップ 1

電源を入れる (▶ 37ページ)



ステップ 2

入力信号を選ぶ (▶ 40ページ)



ステップ 3

投写画面の位置と大きさを調整する (▶ 42ページ)
台形ひずみを調整する (▶ 46ページ)



ステップ 4

映像や音声を調整する
・画質を調整する場合 (▶ 48ページ)
・音量を調整する場合 (▶ 49ページ)



ステップ 5

プレゼンテーションを行う



ステップ 6

電源を切る (▶ 50ページ)



ステップ 7

あとかたづけ (▶ 51ページ)

3-2. 電源を入れる

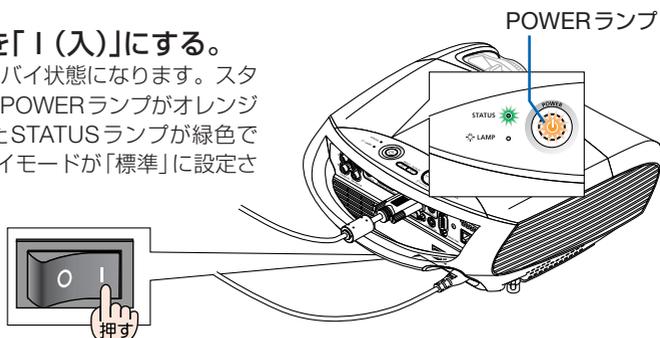
準備 : 「2 設置と接続」(22 ページ) を参照のうえ、機器の接続を行ってください。



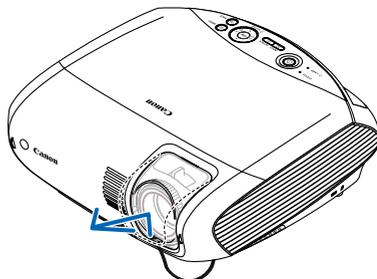
- 本機の電源コードの取り付け、取り外しは、主電源スイッチが「○ (切)」の状態で行ってください。
主電源スイッチが「| (入)」の状態では電源コードの取り付け、取り外しを行うと、故障の原因となります。
- 本機の電源の入/切は、「主電源スイッチ」と「(POWER) ボタン」の2段階の操作で行います。
- 電源を入れる(このページ)
 - ① 「主電源スイッチ」を「| (入)」にする。
本機がスタンバイ状態になります。
 - ② 「(POWER) ボタン」を約1秒押す。
本機の電源が入ります。
- 電源を切る(50 ページ)
 - ① 「(POWER) ボタン」を一度押して電源切確認メッセージを表示して、もう一度「(POWER) ボタン」を押す。
本機がスタンバイ状態になります。
 - ② ファンの回転が終わったら、「主電源スイッチ」を「○ (切)」にする。
本機の電源が切れます。

1 主電源スイッチを「| (入)」にする。

しばらくするとスタンバイ状態になります。スタンバイ状態になると、POWERランプがオレンジ色で点灯します。またSTATUSランプが緑色で点灯します(スタンバイモードが「標準」に設定されているとき)。



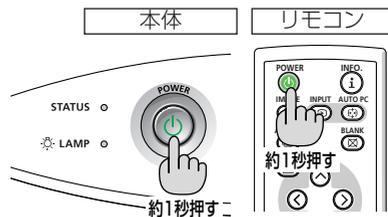
2 レンズからレンズカバーを取り外す。



3 スタンバイ状態になったのを確認し、

POWER ボタンを約1秒押す。

STATUS ランプが消灯し、しばらくして POWER ランプが点滅し始めます。その後、スクリーンに映像が表示されます。



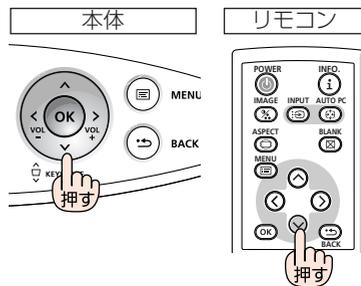
スタンバイ状態	準備中	電源入状態
<p>オレンジ点灯</p>	<p>緑点滅</p>	<p>緑点灯</p>

ランプが上記以外の点滅をしているときは、[102ページ](#)をご参照ください。

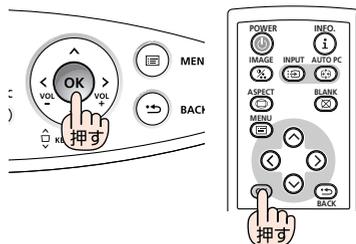
- 信号が入力されていないときは、青い画面（工場出荷状態）が表示されます。
- ご購入後はじめて電源を入れたときは「Language（言語選択）」画面が表示されます。次のように操作して「日本語」を選んでください。
 なお、映像がぼやけている場合は、フォーカスリングを回して画面のピントを合わせてください。（[▶ 43 ページ](#)）



- 1 (V) ボタンを押して、カーソルを [日本語] に合わせる。



- 2 (OK) ボタンを押す。
画面が消え、オンスクリーンメニューの表示が日本語に設定されます。



次ページに続く

注意

- 本機の主電源スイッチを「O(切)」にしたあと、再び主電源スイッチを「I(入)」にする際は、必ず約1秒以上の間隔をあけてください。主電源スイッチを切ったあと瞬時に主電源スイッチを入れると、故障の原因となります。また、本機をスイッチ付きのテーブルタップやブレーカーなどに接続している場合も、電源を切ったあとに再び電源を入れる際は、必ず約1秒以上の間隔をあけてください。
- 本機の電源が入っている間は、レンズからレンズカバーを外しておいてください。高温になりレンズカバーが変形する場合があります。
- 次のような場合は、(POWER)ボタンを押しても電源が入りません。
 - ・内部の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。しばらく待って(内部の温度が下がって)から電源を入れてください。
 - ・ランプの寿命がきた場合は電源が入りません。ランプを交換してください。
 - ・(POWER)ボタンを押している間にSTATUSランプがオレンジ色に点灯する場合はキーロックが設定されています。キーロックを解除してください。(▶80ページ)
 - ・電源を入れてもランプが点灯せず、STATUSランプが点滅(6回周期の点滅)している場合は、1分以上待って再度電源を入れてください。
- POWERランプ点滅中は電源を切ることができません。
- 電源を入れたとき、ランプが安定して点灯するまで(3~5分)映像がちらつく場合があります。これはランプの特性上発生するもので故障ではありません。
- ランプの消灯直後に電源を入れたときやランプの温度が高いときは、ファンのみが動作後、しばらくたってからスクリーンに映像が投写されます。

参考

- 「セキュリティロック中です。」が表示されたときは、パスワードが設定されています。(▶55ページ)
- (POWER)ボタンや(MENU)ボタンなどを押すと電子音を出します。電子音を出したくないときは、オンスクリーンメニューで[電子音]を「切」に設定してください。(▶82ページ)

3-3. 入力信号を選ぶ

操作パネルやリモコンを使って選ぶ

- 1 本機に接続しているコンピューターやAV機器の電源を入れる。

AV機器の映像を投写するときは、再生(PLAY)操作をしてください。

- 2 (INPUT) ボタンを短く押す。

信号選択画面が表示されます。

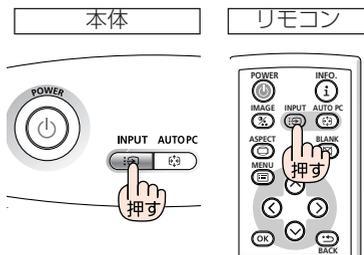
- 3 (INPUT) ボタンを数回短く押して、投写したい入力信号にカーソルを合わせる。

ボタンを短く押すたびに、次の入力信号にカーソルが移動します。

- ・しばらくすると選んだ入力信号に切り換わります。



- (INPUT) ボタンを2秒以上押すと、入力している信号を自動的に探します。



自動的に信号を選ぶ

入力信号を選ぶ操作を省略(自動化)することができます。

- 1 オンスクリーンメニューの[セットアップ]→[オプション(2)]タブ→[初期入力選択]を選ぶ。

選択画面が表示されます。

- ・オンスクリーンメニューの操作については、「5-1. オンスクリーンメニューの基本操作」をご参照ください。(▶ 61ページ)

- 2 電源を入れたときに自動的に選ぶ信号にカーソルを合わせ、(OK) ボタンを押す。

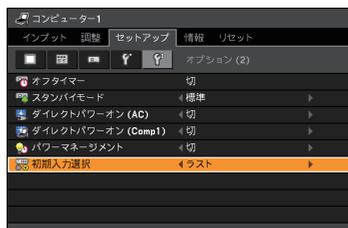
次回本機の電源を入れたときに自動的に選ばれる信号として設定されます。

- 3 (BACK) ボタンを3回押す。

オンスクリーンメニューが消えます。

- 4 本機の電源を入れなおす。

手順2で設定した信号が自動的に投写されます。



- 入力信号がないときは、青い画面(工場出荷状態)が表示されます。
AV機器は再生(PLAY)操作をしてください。
- ノート型コンピューターの画面がうまく投写できない場合
ノート型コンピューターの外部出力(モニター出力)設定を外部に切り換えてください。
 - ・ Windowsの場合はファンクションキーを使います。
Fnキーを押したまま(⇐/⇨)などの絵表示や(LCD/VGA)の表示があるファンクションキーを押すと切り換わります。しばらく(プロジェクターが認識する時間)すると投写されます。
 通常、キーを押すごとに「外部出力」→「コンピューター画面と外部の同時出力」→「コンピューター画面」…とくり返します。

【コンピューターメーカーとキー操作の例】

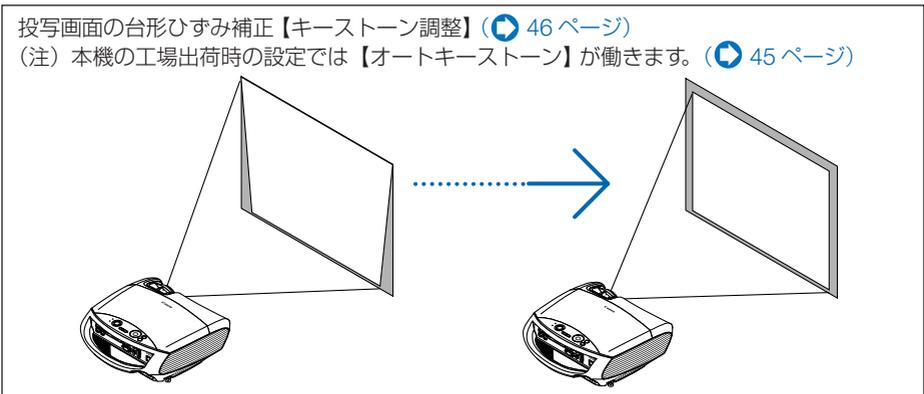
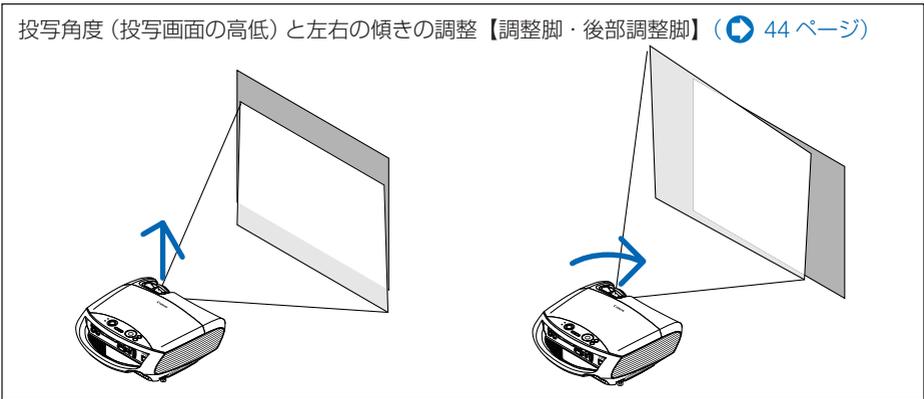
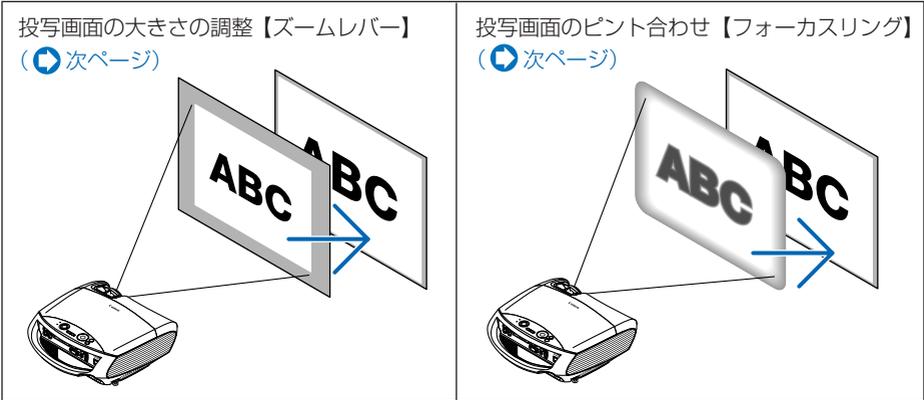
Fn + F3	NEC、Panasonic、GATEWAY、SOTEC
Fn + F4	HP
Fn + F5	TOSHIBA、SHARP、MITSUBISHI
Fn + F7	SONY、IBM、Lenovo、HITACHI
Fn + F8	DELL、EPSON
Fn + F10	FUJITSU

表に記載されていないメーカーのノート型コンピューターをお使いの場合は、ノート型コンピューターのヘルプ、または使用説明書をご参照ください。

- ・ Macintosh PowerBook は、ビデオミラーリングの設定を行います。

3-4. 投写画面の位置と大きさを調整する

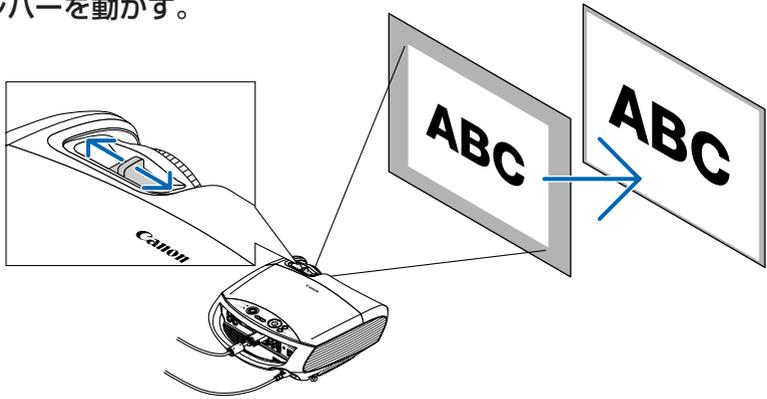
ズームレバー、フォーカスリング、調整脚などを操作して、投写画面の位置や大きさを調整します。



※ ここでは、本機に接続しているケーブル類を省略したイラストにしています。

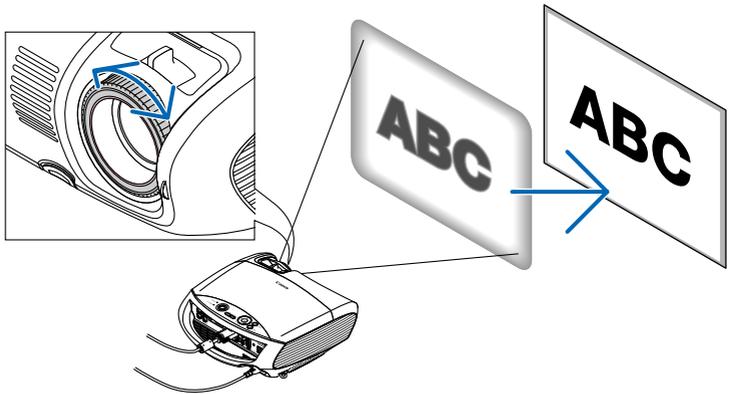
投写画面の大きさの調整

- 1 ズームレバーを動かす。



投写画面のピント合わせ

- 1 フォーカスリングを回す。



3

映像を投写する(基本操作)

投写角度の調整とオートキーストーン

●投写角度(投写画面の高低)と左右の傾きの調整(調整脚・後部調整脚)

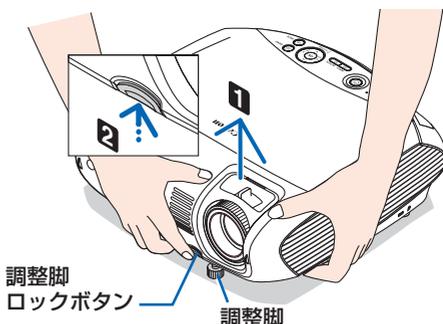
1 本機の前面を持ち上げる。

2 調整脚ロックボタンを真上に押し上げる。

調整脚のロックが外れ、調整脚が伸縮します。

注意

- 投写中は排気口付近が高温になる場合があります。
調整脚を調整する際はご注意ください。

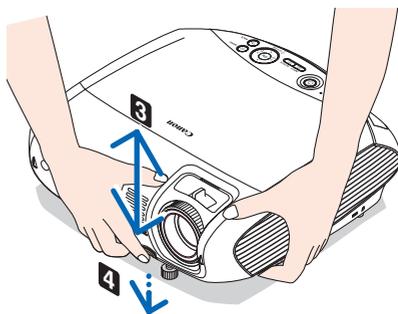


3 調整脚ロックボタンを押し上げたまま、本機の投写角度を調整する。

4 角度を固定したいところで調整脚ロックボタンから指を離す。

調整脚がロックされ、投写角度が固定されます。

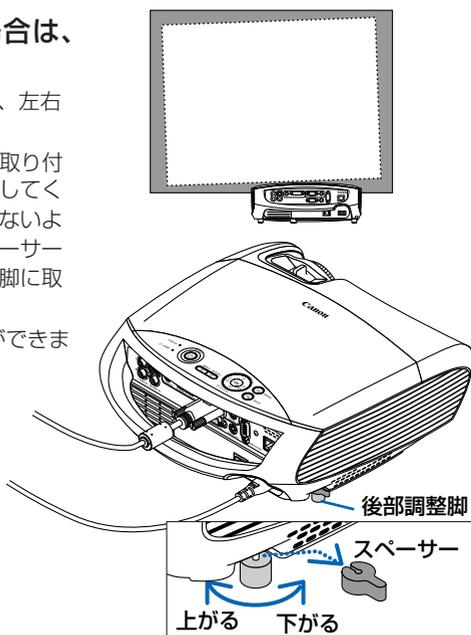
- ・ 調整脚は、最大 38mm 伸ばすことができます。
- ・ 調整脚により、最大 10° 本機を傾けることができます。



5 投写画面の左右が傾いている場合は、後部調整脚を回して微調整する。

後部調整脚を回すと、後部調整脚が伸縮し、左右の傾きを微調整できます。

- ・ 後部調整脚を回す場合は、工場出荷時に取り付けているスペーサーを取り外してから回してください。取り外したスペーサーを紛失しないように注意してください。取り外したスペーサーは、本機を収納するときに再び後部調整脚に取り付けてください。
- ・ 後部調整脚は、最大 10mm 伸ばすことができます。



次ページに続く

注意

- 調整脚は、本機の投写角度、および傾き調整以外の用途には使用しないでください。調整脚部分を持って運んだり、壁に掛けて使用するなどの誤った取り扱いをすると、故障の原因となります。
- 後部調整脚は10mm以上伸ばさないでください。無理に伸ばそうとすると、後部調整脚の取り付け部分が不安定になり、後部調整脚が本体から外れます。

●オートキーストーン

通常、投写画面は、スクリーンに対して垂直に投写されないと、台形のひずみが生じます。このため、投写角度を調整すると、上下方向に傾きが生じ、画面がひずむこととなります。

しかし、本機は、本体の上下の傾きを感知して、画面のひずみを自動的に補正します。これを「オートキーストーン」と呼びます。



オートキーストーンが正しく機能するよう設置の際は、次の点をご確認ください。

- オートキーストーンは、上下約30°の傾きにまで対応しますが、10°以内での使用をおすすめします。
- オートキーストーンは、投写中、投写角度を固定してから約2秒後に行われます。
- 左右の傾き(水平方向の画面のひずみ)は補正できません。プロジェクターのレンズ面が、スクリーンに平行になるように設置してください。また、後部調整脚で左右の高さが水平になるように調整してください。

注意

- スクリーンが傾いているとき、室温が極端に高温または低温のとき、レンズのズームを最大または最小にしているときは、オートキーストーンで調整しきれないことがあります。
- 入力信号の種類およびアスペクトの設定によっては補正角度が少なくなる場合があります。
- オートキーストーンは電気的な補正を行っているため、輝度の低下や画質の劣化が現れる場合があります。

参考

- オートキーストーンを行いたくない場合は、オンスクリーンメニューの[セットアップ]→[全般]→[オートキーストーン]で「マニュアル」に設定します。(75ページ) 「マニュアル」に設定した場合、[セットアップ]→[全般]→[キーストーン調整]で手動による台形ひずみ補正が行えます。(次ページ)
- 本体の操作ボタン(✓/∧)を押しても台形ひずみ補正が行えます。(次ページ)

3-5. 台形ひずみを手動で調整する



- キーストーン調整は電気的な補正を行っているため、輝度の低下や画質の劣化が現れる場合があります。
- キーストーン調整は光学ズーム、入力信号などの条件により異なります。

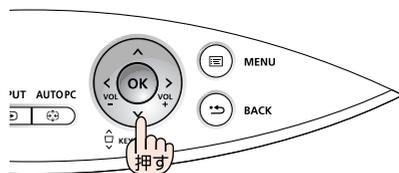


- 手動でキーストーン調整を行ったときの調整値は、本機の電源を切ると「0」に戻ります。本機の電源を入れなおしたときに、以前にキーストーン調整した値を保持しておきたいときは、[キーストーン調整値保存]を「入」にしてください。(75 ページ)

本体の操作ボタンで調整する

- 1 オンスクリーンメニューが表示されていないときに、本体の ∇/\wedge ボタンを押す。

調整バーが表示されます。



- 2 ∇/\wedge ボタンを押して、台形ひずみを調整する。

投写画面の左右が垂直になるように調整します。調整後しばらくすると、調整バーが消え、キーストーン調整が決定されます。



- 投写画面にオンスクリーンメニューが表示されている場合は本体の操作ボタンによるキーストーン調整はできません。この場合は、(MENU) ボタンを押してオンスクリーンメニューを閉じてから操作を行います。

リモコンを使って調整する

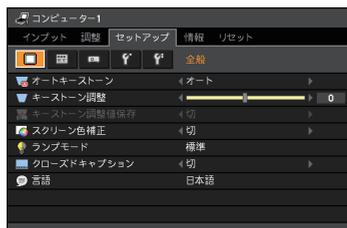
- 1 (MENU) ボタンを押す。

オンスクリーンメニューが表示されます。



- 2 \langle / \rangle ボタンを押して、[セットアップ]にカーソルを合わせ、(OK) または ∇ ボタンを押す。

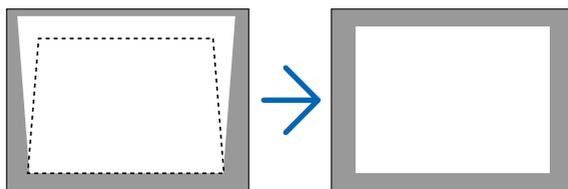
- 3 [全般]にカーソルがあることを確認し、 ボタンを押す。



- 4  ボタンを押して、カーソルを[キーストーン調整]に合わせる。



- 3  ボタンを押して、画面の左右が垂直になるように調整する。



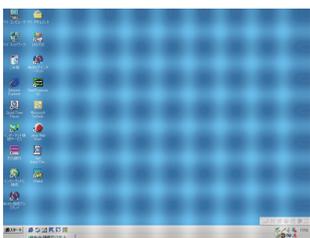
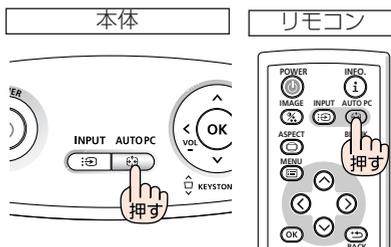
- 6 調整が終わったら、 ボタンを押して、オンスクリーンメニューを閉じる。

3-6. 映像を自動調整する

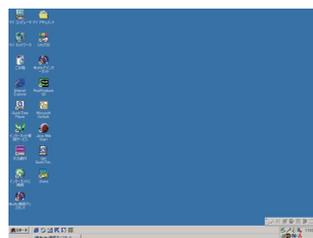
コンピューターの画面を投写している場合、投写画面の端が切れていたり、映りが悪いときに、ワンタッチで画質を調整します。

1 (AUTO PC) ボタンを押す。

しばらくすると投写画面の表示が自動調整されます。



【映りが悪い画面の例】



【自動調整後の画面の例】

参考

- 自動調整を行っても表示位置がずれていたり、画面に縦縞が出たりして映りが悪い場合は、手で画面の調整を行ってください。(▶ 71, 81 ページ)
- コンピューターの画面がうまく投写できない場合は、100ページをご参照ください。
- コンピューター2 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2) に DVI (デジタルRGB) 信号を入力しているときは自動調整は動きません。ただし、付属の DVI-VGA 変換アダプターを接続しアナログRGB信号を入力しているときは自動調整が働きます。

3-7. 音量を調整する

本機の内蔵スピーカーの音量を調整します。

本体の操作ボタンで調整する

- 1 オンスクリーンメニューが表示されていないときに、**(</>)** ボタンを押す。

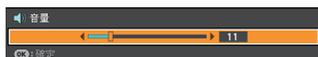
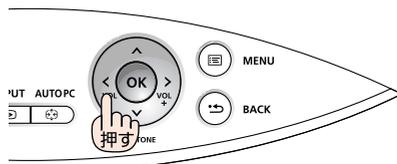
調整バーが表示されます。

VOL + 側…音量が大きくなります。

VOL - 側…音量が小さくなります。



- オンスクリーンメニューが表示されているとき、および**(D.ZOOM +)** ボタンで画面を拡大しているときは、**(</>)** ボタンを使った音量調整はできません。



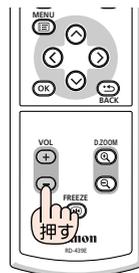
リモコンを使って調整する

- 1 リモコンの**(VOL +/-)** ボタンを押す。

調整バーが表示されます。

+側…音量が大きくなります。

-側…音量が小さくなります。

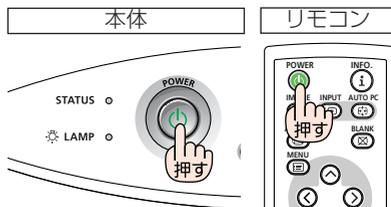


- 電子音の音量は調整できません。電子音を出したくない場合は、オンスクリーンメニューの[セットアップ]→[オプション(1)]の[電子音]を「切」にしてください。

(82ページ)

3-8. 電源を切る

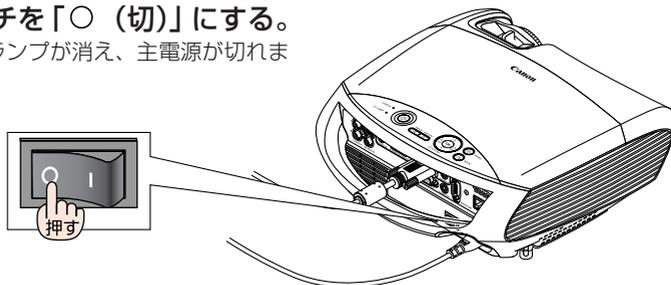
- 1** **(POWER)** ボタンを押す。
電源切確認メッセージが表示されます。



- 2** もう一度**(POWER)** ボタンを押す。
ランプが消灯し、しばらく冷却ファンが回転します。冷却ファンの回転が終了すると、電源が切れスタンバイ状態になります。スタンバイ状態になると POWER ランプがオレンジ色で点灯します。また、STATUS ランプが緑色で点灯します (スタンバイモードが「標準」に設定されているとき)。
・電源を切らない場合は、**(BACK)** ボタンを押します。



- 3** 主電源スイッチを「○ (切)」にする。
本機の POWER ランプが消え、主電源が切れます。



! 注意

投写中および本機の電源を切ったあとの冷却ファンの回転中に電源を切断すると、一時的に本体が高温になることがあります。取り扱いに注意してください。

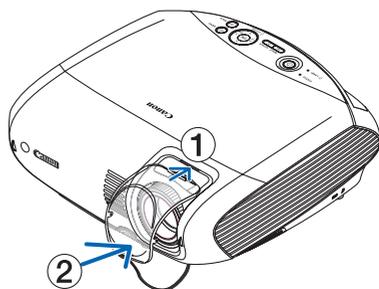
! 注意

- 電源を入れてスクリーンに映像が投写されてからの約1分間は、電源を切ることができません。
- 各種の調整を行い調整画面を閉じたあとの約10秒間は、電源を切断しないでください。この間に電源を切断すると、調整値が初期化されることがあります。

3-9. あとかたづけ

準備：本機の主電源スイッチが「○（切）」になっていることを確認してください。

- 1 電源コードを取り外す。
- 2 各種信号ケーブルを取り外す。
- 3 調整脚を伸ばしていたら、もとに戻す。
 - ・後部調整脚用スペーサーを取り外している場合は、後部調整脚に取り付けてください。
- 4 レンズにレンズカバーを取り付ける。



- 5 本機および付属品をキャリーバッグに収納する。

注意

- 本機をキャリーバッグに収納するときは、調整脚および後部調整脚を縮めてください。調整脚および後部調整脚が伸びた状態で収納すると、故障の原因となります。

注意

- 本機の電源を切ったあとすぐに収納すると、本体がしばらく高温になります。取り扱いに注意してください。

3

映像を投写する（基本操作）

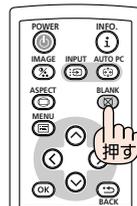
4. 便利な機能

4-1. 映像と音声を一時的に消す

1 リモコンの (BLANK) ボタンを押す。

投写されている映像と、内蔵スピーカーから出力されている音声が一時的に消えます。

- もう一度 (BLANK) ボタンを押すと、映像と音声が出ます。
- 音声出力端子 (AUDIO OUT) から出力されている音声も消えます。



注意

- 電子音は (BLANK) ボタンを押しても消えません。

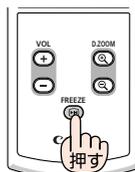
電子音を出したくない場合は、オンスクリーンメニューの [セットアップ] → [オプション (1)] の [電子音] を「切」にしてください。 (▶ 82 ページ)

4-2. 静止画にする

1 リモコンの (FREEZE) ボタンを押す。

投写中の映像が一時的に静止画になります。

- もう一度 (FREEZE) ボタンを押すと、動画に戻ります。



参考

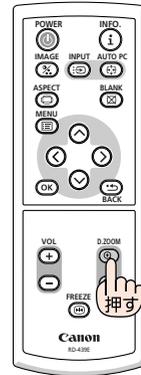
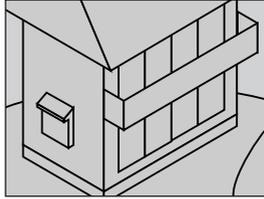
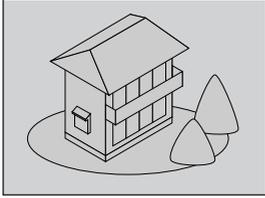
- (FREEZE) ボタンを押すと、押すときに投写されていた映像を静止画メモリーに保存し、静止画メモリー内の映像 (静止画) を投写します。静止画表示中、DVD などの映像再生は先に進行しています。

4-3. 映像を拡大する

1 (D.ZOOM+) ボタンを押す。

押すごとに映像が拡大します。

- はじめは、画面の中心部分が拡大されます。
- 最大 4 倍まで拡大できます。



2 (V) ボタンを押す。

拡大した映像の表示領域が移動します。

3 (D.ZOOM-) ボタンを押す。

押すごとに映像が縮小します。

- もとのサイズに戻ると、それ以上押しても縮小されません。

注意

- 信号によっては、4 倍まで拡大できない場合があります。

参考

- 拡大および縮小は、画面中央を中心にして拡大および縮小します。
- 映像を拡大しているときにオンスクリーンメニューを表示すると、拡大は解除されます。

4-4. パスワードを設定して無断使用を防止する

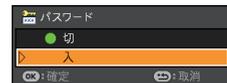
パスワードを登録することで、本機を無断で使用されないようにすることができます。パスワードを有効にすると、本機の電源を入れたときにパスワード設定入力画面が表示され、正しいパスワードを入力しなければ映像は投写されません。

切	パスワードを無効にします。
入	パスワードを有効にします。

注意 ●パスワードは、[リセット]では解除されません。

パスワードを有効にする

- 1** **(MENU)** ボタンを押す。
オンスクリーンメニューが表示されます。
- 2** **(>)** ボタンを押して[セットアップ]にカーソルを合わせ、**(OK)** ボタンまたは**(v)** ボタンを押す。
- 3** **(</>)** ボタンを押して「設置」にカーソルを合わせる。
- 4** **(v/∧)** ボタンで[パスワード]にカーソルを合わせ、**(OK)** ボタンを押す。
- 5** **(v/∧)** ボタンで「入」を選び、**(OK)** ボタンを押す。
パスワード設定登録画面が表示されます。
- 6** **(v∧<>)** ボタンの組み合わせでパスワードを設定し、**(OK)** ボタンを押す。
入力したパスワードは[*]で表示されます。
パスワードは4個以上10個以下の組み合わせで設定してください。
・パスワード設定中にキャンセルする場合は**(MENU)** ボタンを押してください。



重要 ●パスワードは、忘れないように必ずメモしておいてください。

パスワードの再入力画面が表示されます。

7 6で設定したパスワードを再入力し、

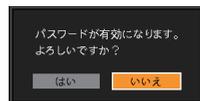
(OK) ボタンを押す。

確認画面が表示されます。



8 </> ボタンで[はい]を選び、**(OK)** ボタンを押す。

パスワードが有効になります。



パスワードを有効にしているときの電源の入れかた

1 主電源スイッチを「(入)」にして、

(POWER) ボタンを約1秒押す。

本機の電源が入り、セキュリティロック中のメッセージが表示されます。

セキュリティロック中です。
パスワードを入力してください。

2 **(MENU)** ボタンを押す。

パスワード設定入力画面が表示されます。



3 パスワードを入力し、**(OK)** ボタンを押す。

入力したパスワードは「*」で表示されます。
セキュリティロックが解除され、選んでいる信号が投写されます。

注意

- 主電源を切り（主電源スイッチを「(切)」にするか、電源コードを抜く）、再び電源を入れた場合、パスワード入力が必要となります。

パスワードを無効にする

1 **(MENU)** ボタンを押す。

オンスクリーンメニューが表示されます。

2 > ボタンを押して[セットアップ]にカーソルを合わせ、**(OK)** ボタンまたは **(V)** ボタンを押す。

3 </> ボタンを押して「設置」にカーソルを合わせる。

4 (V/△) ボタンで[パスワード]にカーソルを合わせ、(OK) ボタンを押す。

5 (V/△) ボタンで「切」を選び、(OK) ボタンを押す。

パスワード設定登録画面が表示されます。



6 パスワードを入力し、(OK) ボタンを押す。

入力したパスワードは「*」で表示されます。

パスワードが無効になります。



参考

- パスワードを忘れたときは
有償にて対応いたします。詳しくはキャノンお客様相談センターまでお問い合わせください。

4-5. HTTPを使用したウェブ・ブラウザによるネットワークの設定とエラー通知メール

概要

本機をネットワークに接続すると、本機がランプ交換時期に達したことやエラーになったことをEメールでお知らせすることができます。本機へのIPアドレス、サブネットマスク、メールアドレスなどの設定は、HTTPサーバー機能を使用しウェブ・ブラウザでネットワーク設定画面を表示して行います。なお、ウェブ・ブラウザは「Microsoft Internet Explorer 6.0」以上を必ず使用してください。

本機は「JavaScript」および「Cookie」を利用していますので、これらの機能が利用可能な設定をウェブ・ブラウザに対して行ってください。設定方法はバージョンにより異なりますので、それぞれのソフトにあるヘルプなどの説明を参照してください。

HTTPサーバー機能へのアクセスは、本機とネットワークで接続されたコンピューターでウェブ・ブラウザを起動し、以下のURLを入力することで行えます。

- ・ ネットワーク設定
http:// <本機のIPアドレス> /index.html
- ・ エラー通知メール設定
http:// <本機のIPアドレス> /lanconfig.html

【例】

- ネットワーク設定
http://192.168.0.10/index.html
- エラー通知メール設定
http://192.168.0.10/lanconfig.html

参考

- 工場出荷時あるいはリセット後のIPアドレスは、「192.168.0.10」です。

注意

- ご使用のネットワーク環境によっては、表示速度やボタンの反応が遅くなったり、操作を受け付けなかったりすることがあります。その場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。
また続けてボタン操作を行うとプロジェクターが応答しなくなることがあります。その場合はしばらく待ってから再度操作を行ってください。しばらく待っても応答がない場合は、本機の電源を入れなおしてください。
- ウェブ・ブラウザでネットワーク設定画面が表示されない場合は、[Ctrl] + [F5] キーを押してウェブ・ブラウザの画面表示を更新してください。

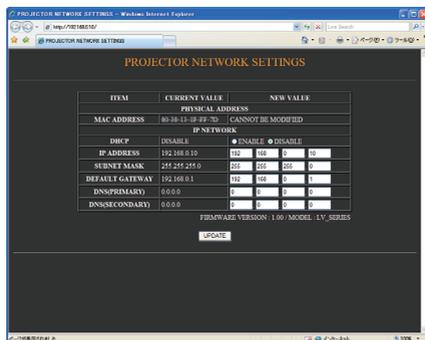
使用前の準備

ウェブ・ブラウザによる操作を行う前にあらかじめ本機に市販のLANケーブルを接続してください。(34ページ)

プロキシサーバーの種類や設定方法によっては、プロキシサーバーを経由したウェブ・ブラウザの操作ができないことがあります。プロキシサーバーの種類にもよりますがキャッシュの効果により実際に設定されているものが表示されない、ウェブ・ブラウザから設定した内容が反映しないなどの現象が発生することがあります。プロキシサーバーはできるだけ使用しないことをおすすめします。

ネットワーク設定

http:// <本機の IP アドレス> /index.html



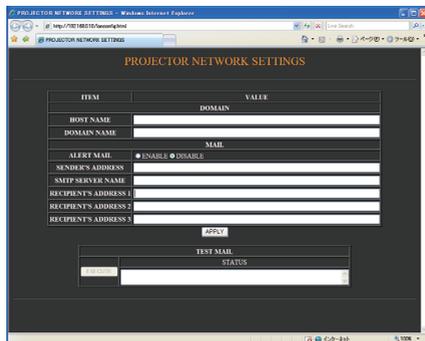
DHCP	<p>本機を接続するネットワークが、DHCP サーバーによって IP アドレスを自動的に割り当てる場合は、「ENABLE」を選びます。自動的に割り当てられない場合は、「DISABLE」を選び、下の「IP ADDRESS」、「SUBNET MASK」、および「DEFAULT GATEWAY」を設定してください。</p> <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ネットワーク設定を変更するには本機の IP アドレスが必要になりますが、プロジェクターのオンスクリーンメニューには表示されません。 [DHCP] を「ENABLE」にしている場合の IP アドレスは、ネットワーク管理者にご確認ください。
IP ADDRESS	[DHCP] が「DISABLE」の場合に、本機を接続するネットワークにおける本機の IP アドレスを設定します。
SUBNET MASK	[DHCP] が「DISABLE」の場合に、本機を接続するネットワークのサブネットマスクを設定します。
DEFAULT GATEWAY	[DHCP] が「DISABLE」の場合に、本機を接続するネットワークのデフォルトゲートウェイを設定します。
DNS (PRIMARY)	本機を接続するネットワークの優先 DNS サーバーの IP アドレスを設定します。
DNS (SECONDARY)	本機を接続するネットワークの代替 DNS サーバーの IP アドレスを設定します。
UPDATE	<p>設定を反映させます。</p> <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> UPDATE ボタンを押した後は、プロジェクターで設定が自動的に反映されますので、ウェブ・ブラウザを一度閉じてください。

参考

- オンスクリーンメニューの [リセット] で「ネットワーク設定」を選んだ場合、以下の項目が工場出荷時状態に戻ります。
 - [DHCP] : DISABLE
 - [IP ADDRESS] : 192.168.0.10
 - [SUBNET MASK] : 255.255.255.0
 - [DEFAULT GATEWAY] : 192.168.0.1
- [DNS (PRIMARY)] と [DNS (SECONDARY)] は変更されません。

エラー通知メール

http://〈本機の IP アドレス〉/lanconfig.html



本機をネットワークに接続して使用しているとき、本機のランプ交換時期や各種エラーが発生したときに、本機の状態をEメールでコンピューターなどへ通知します。

HOST NAME	本機のプロトタイプ名を設定します。 不明な場合は、本機を表す任意の文字列を入力してください。 【例】 Projector1	英数字 最大 60 文字
DOMAIN NAME	本機のドメイン名を設定します。 不明な場合は、「SENDER'S ADDRESS」の@(アットマーク)の右側の文字列を入力してください。 【例】 canon.co.jp	英数字 最大 60 文字
ALERT MAIL	ENABLE…以下の設定に基づいてエラー通知メール機能が働きます。 DISABLE…エラー通知メール機能が停止します。	—
SENDER'S ADDRESS	差出人アドレスを設定します。Eメールの「from」にあたるアドレスです。	英数字、記号 最大 60 文字
SMTP SERVER NAME	本機を接続する LAN の SMTP サーバーを設定します。	英数字 最大 60 文字
RECIPIENT'S ADDRESS 1 RECIPIENT'S ADDRESS 2 RECIPIENT'S ADDRESS 3	宛先のアドレスを設定します。宛先は 3 つまで設定できます。Eメールの「to」にあたるアドレスです。	英数字、記号 最大 60 文字
APPLY	設定を適用します。	—
EXECUTE	エラー通知メールの設定を確認するために、テストメールを送信します。	—
STATUS	テストメールの結果が表示されます。	—

注意

- 送信テストを行って、送信エラーになったりメールが届かない場合は、ネットワーク設定の設定内容を確認してください。
- 宛先のアドレスが間違っている場合は、送信テストでエラーにならないことがあります。テストメールが届かない場合は、宛先アドレスを確認してください。

参考

- エラー通知メールの設定内容は、オンスクリーンメニューの「リセット」を行っても変更されません。

● エラー表

件名／本文	プロジェクターの状態	メールの内容
メールの件名	テストメール時	[Projector] Test mail
	エラー検出時	[Projector] Projector information
メールの本文	テストメール	Alert mail configurations are as follows: Model name : Serial number : Sender's address : SMTP server name : Recipient's address 1 : Recipient's address 2 : Recipient's address 3 :
	ランプの交換	Replace with the new lamp. [Information] Model name : Serial number : Lamp counter :
	エアフィルターの清掃	Please clean filter. [Information] Model name : Serial number : Filter counter : Lamp counter :
	ランプカバーエラー	The lamp cover is not installed properly. Check and re-attach it if necessary. [Information] Model name : Serial number : Lamp counter :
	冷却ファンエラー	The cooling fan has stopped. [Information] Model name : Serial number : Lamp counter :
	ランプ不点灯	The lamp will not turn on. [Information] Model name : Serial number : Lamp counter :
	温度エラー	The projector is overheated. [Information] Model name : Serial number : Lamp counter :

5. オンスクリーンメニュー

5-1. オンスクリーンメニューの基本操作

本機で投写する映像の画質調整や本機の動作モードの切り換えなどは、オンスクリーンメニューを表示して行います。以降、「オンスクリーンメニュー」を「メニュー」と省略して記載します。

メニューは、「メインメニュー」と「サブメニュー」から構成されています。



メニュー画面上部には、本機の状態を表すアイコン類が表示されます。



選んでいる入力信号を表示します。

「高地モード」動作中のとき表示されます。(▶ 81ページ)

「冷却運転」のとき表示されます。(▶ 76ページ)

「キーロック」動作中のとき表示されます。(▶ 80ページ)

「オフタイマー」動作中に残り時間が表示されます。(▶ 83ページ)

メニューを操作する

準備：本機の電源を入れて、スクリーンに映像を投写してください。

1 (MENU) ボタンを押す。

メニュー画面が表示されます。



2 (左右) ボタンを押して、メインメニューの

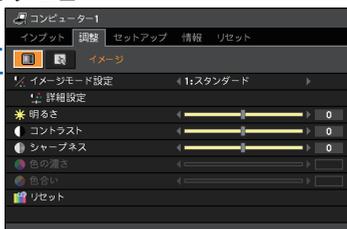
設定したい項目にカーソルを合わせる。

サブメニューの表示も切り換わります。



- 3 (OK) ボタンまたは (✓) ボタンを押す。
サブメニューにカーソルが表示されます。
・ここでは、[調整]を選んでみます。

サブメニュー



- 4 (←/→) ボタンを押して、サブメニューの設定したい項目にカーソルを合わせる。
・ここでは、[イメージ]を選んでみます。

- 5 (✓/△) ボタンを押して、設定したい項目にカーソルを合わせる。
・ここでは、[コントラスト]を選んでみます。

注意 ● 入力信号によって、選べない項目があります。(➡ 70ページ)



- 6 (←/→) ボタンを押して、コントラストを調整する。
・調整や設定の方法は、項目によって異なります。詳しくは、「項目の調整／設定方法」をご参照ください。(➡ 63ページ)

- 7 他の項目も調整や設定をする場合は、手順5 6と同様に操作する。
・メインメニューに戻る場合は、(BACK) ボタンを押します。

- 8 調整が終わったら、(MENU) ボタンを押す。
メニュー画面が消えます。

注意 ● メニューを表示した状態で45秒間(工場出荷時の設定)操作しないと、メニューは自動的に消えます。その場合、(MENU) ボタンを押すと、[インプット]画面が表示されます。
● メニューが自動的に消えるまでの時間は変更することができます。(➡ 78ページ)
● インターレース信号の動画を映しているときにメニューを表示すると、画面が乱れる場合があります。

項目の調整／設定方法

●調整項目の場合



1 (←/→) ボタンを押して、調整する。

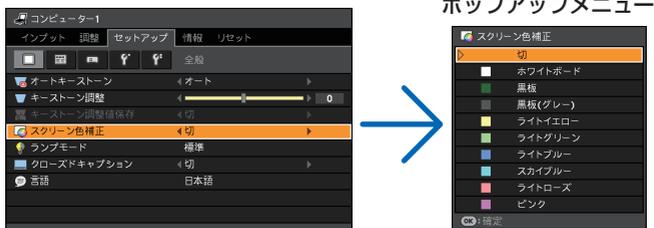
●(←/→)ボタンで項目を選ぶ



1 (←/→) ボタンを押して、設定したい値を選ぶ。

●ポップアップメニュー項目の場合

項目の両側に◀▶が表示されている場合は、さらにポップアップメニューが表示されます。



- 1 項目にカーソルを合わせ、(OK) ボタンを押す。ポップアップメニューが表示されます。
- 2 ポップアップメニューの項目を調整／設定する。
- 3 (OK) ボタンを押す。もとのメニューに戻ります。

5-2. オンスクリーンメニュー一覧

は、各項目の工場出荷時の値を表しています。

メインメニュー	サブメニュー		選択項目	参照ページ	
インプット	-		コンピューター1	67	
			コンピューター2(デジタル)		
			コンピューター2(アナログ)		
			VIDEO		
			S-VIDEO		
調整	イメージ	イメージモード設定	1:スタンダード/2:プレゼンテーション/ 3:シネマ/4:ビデオ/5:sRGB	68	
		詳細設定	参照	スタンダード/プレゼンテーション/ シネマ/ビデオ/sRGB	69
			ガンマ	ダイナミック/ナチュラル/ソフト	69
			色温度	5000K/6500K/7300K/8300K/ 9300K/10500K	69
			明るさ赤		69
			明るさ緑		
			明るさ青		
			コントラスト赤		69
			コントラスト緑		
		コントラスト青			
		明るさ		70	
		コントラスト			
		シャープネス			
		色の濃さ			
	色合い				
	リセット		70		
	入力信号	クロック周波数	トラッキング		71
			水平位置		
			垂直位置		
			オーバーキャン	0[%]/5[%]/10[%]	
		アスペクト (LV-7375/LV-7370/ LV7275のとき)	オート/4:3/16:9/15:9/16:10/ ワイドズーム/リアル	72	
			オート/4:3/16:9/15:9/16:10/ レターボックス/リアル		
		ディメージシフト (LV-7375/LV-7370/ LV-7275のとき)		74	
ビデオ帯域フィルター		切/弱/強	74		

メインメニュー	サブメニュー	選択項目	参照ページ		
セットアップ	全般	オートキーストーン	マニュアル/オート	75	
		キーストーン調整		75	
		キーストーン調整値保存	切/入	75	
		スクリーン色補正	切/ホワイトボード/黒板/黒板(グレー)/ ライトイエロー/ライトグリーン/ ライトブルー/スカイブルー/ ライトローズ/ピンク	75	
		ランプモード	標準/静音	76	
		クローズドキャプション	切/キャプション1/キャプション2/キャプ ション3/キャプション4/テキスト1/テキ スト2/テキスト3/テキスト4	77	
		言語	English/Deutsch/Français/Italiano/ Español/Svenska/日本語/Dansk/ Português/Čeština/Magyar/Polski/ Nederlands/Suomi/Norsk/Türkçe/ Русский/عربي/Ελληνικά/中文/한국어	77	
		メニュー 設定	表示色選択	カラー/モノクロ	78
	表示時間		マニュアル/5秒/15秒/45秒	78	
	無信号時画面		青/黒/Canonロゴ	78	
	フィルターメッセージ		切/100(H)/200(H)/500(H)/1000(H)	78	
	設置	反転表示	なし/リア・天吊り/リア/天吊り	79	
		キーロック	切/入	80	
		パスワード	切/入	80	
		通信速度	4800bps/9600bps/19200bps	80	
	オプション (1)	オートPC	切/標準/ファイン	81	
		ファンモード	オート/高速/高地	81	
		入力信号 選択	コンピューター 1	RGB/COMPONENT/RGB/ COMPONENT	82
			コンピューター 2(アナログ)	RGB/COMPONENT/RGB/ COMPONENT	
			VIDEO	オート/NTSC3.58/NTSC4.43/PAL/ PAL-M/PAL-N/PAL60/SECAM	
			S-VIDEO	オート/NTSC3.58/NTSC4.43/PAL/ PAL-M/PAL-N/PAL60/SECAM	
WXGAモード(※1)		切/入	82		
プログレッシブ		切/入	82		
電子音		切/入	82		
オプション (2)		オフタイマー	切/0:30/1:00/2:00/4:00/8:00/ 12:00/16:00	83	
	スタンバイモード	標準/省電力	83		
	ダイレクトパワーオン (AC)	切/入	83		
	ダイレクトパワーオン (Comp1)	切/入	84		
	パワーマネージメント	切/0:05/0:10/0:20/0:30	84		
	初期入力選択	ラスト/オート/コンピューター1/ コンピューター2(デジタル)/ コンピューター2(アナログ)/VIDEO/ S-VIDEO	84		

※1:LV-8300の工場出荷時は「入」が設定されています。

メインメニュー	サブメニュー	選択項目	参照ページ
情報	使用時間	ランプ残り時間／ランプカウンター／ フィルターカウンター	85
	入力信号	信号番号／水平周波数／垂直周波数／ 入力信号／ビデオ標準／周期形態／ 周期極性／走査方式	
	有線LAN	プロジェクター名／MACアドレス	
	Version	Model／Serial number／ Firmware version／Data version	
リセット	—	表示中の信号	87
		全データ	
		ネットワーク設定	
		ランプカウンター	
		フィルターカウンター	

5-3. インプット



入力端子を選ぶ

投写する入力端子を選びます。

現在選んでいる入力端子には「●」を表示します。

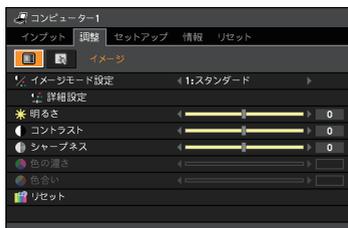
コンピュータ1	コンピュータ1入力端子 (ANALOG IN-1) に接続している機器の映像を投写します。
コンピュータ2 (デジタル)	コンピュータ2入力端子 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2) に接続している機器のデジタル信号の映像を投写します。
コンピュータ2 (アナログ)	コンピュータ2入力端子 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2) に接続している機器のアナログ信号の映像を投写します。
VIDEO	ビデオ映像入力端子 (VIDEO IN) に接続している機器の映像を投写します。
S-VIDEO	S-ビデオ映像入力端子 (S-VIDEO IN) に接続している機器の映像を投写します。

参考

- コンポーネント入力信号をコンピュータ1 およびコンピュータ2 入力端子に接続している場合は、「コンピュータ1」 および「コンピュータ2 (アナログ)」を選んでください。

5-4. 調整

イメージ



●イメージモード設定

投写した映像に最適な設定を選びます。

鮮やかな色調にしたり、淡い色調にしたり、ガンマ（階調再現性）を設定できます。

また、お好みの色調およびガンマにするための細かな設定ができ、設定値を登録できます。

1：スタンダード	オリジナルに近い画質で投写します。 白の色味を重視した画質になります。
2：プレゼンテーション	プレゼンテーションに適した画質で投写します。 明るく明暗の差がはっきりした画質になります。
3：シネマ	映画に適した画質で投写します。 階調表現を重視した画質になります。
4：ビデオ	テレビ番組や一般的な映像ソースを投写するときに適した画質になります。
5：sRGB	sRGB対応のデジタルカメラの映像などに適した画質で投写します。

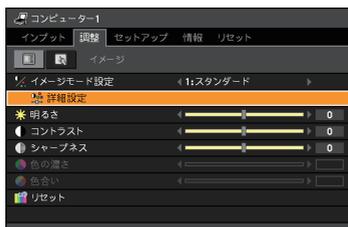
参考

- 「sRGB」は、機器間の色再現の違いを統一するために、コンピューターやモニター、スキャナー、プリンターなどの色を表現する範囲（色域）などに関する国際規格です。

●詳細設定

お客様のお好みの設定にします。

設定値を登録するには、イメージモード設定の項目1～5のいずれかを選び、[詳細設定]にカーソルを合わせ、**(OK)** ボタンを押します。





参照

〔詳細設定〕のもとにする設定をスタンダード、プレゼンテーション、シネマ、ビデオ、sRGBの中から選びます。

ガンマ

映像の階調を選びます。これにより暗い部分も鮮明に表現できます。

ダイナミック	メリハリのある映像設定です。
ナチュラル	標準的な設定です。
ソフト	信号の暗い部分が鮮明になります

色温度

色 (R, G, B) のバランスを調整して色再現性を最良にします。

5000K	↑	色温度が低くなり、赤みがかった白になります。
6500K		
7300K		
8300K		
9300K		
10500K	↓	色温度が高くなり、青みがかった白になります。

注意

- [参照] で「スタンダード」および「プレゼンテーション」を選ばると、「色温度」は変更できません。

明るさ 赤／緑／青

映像の黒色を調整します。

コントラスト 赤／緑／青

映像の白色を調整します。

●明るさ／コントラスト／シャープネス／色の濃さ／色合い

スクリーンに投写している映像の調整を行います。

明るさ	映像を明るくしたり、暗くします。
コントラスト	映像の暗い部分と明るい部分の差をはっきりしたり、淡くします。
シャープネス	映像をくっきりしたり、やわらかくします。
色の濃さ	色を濃くしたり、淡くします。
色合い	赤みがかかった映像にしたり、緑がかかった映像にします。

注意

- 各調整項目は入力信号によって調整できない場合があります。

入力信号	明るさ	コントラスト	シャープネス	色の濃さ	色合い
コンピューター (アナログ)	○	○	○	×	×
コンピューター (デジタル)	○	○	○	×	×
コンポーネント	○	○	○	○	○
ビデオ、S-ビデオ	○	○	○	○	○

(○：調整可、×：調整不可)

●リセット

「調整」の調整および設定を工場出荷状態に戻します。

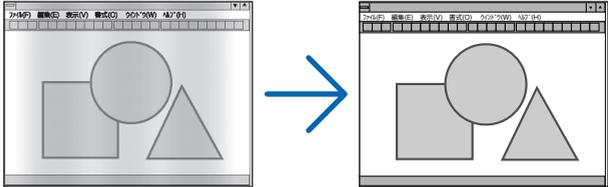
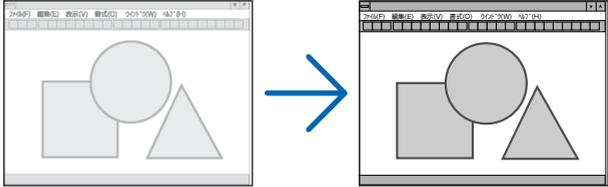
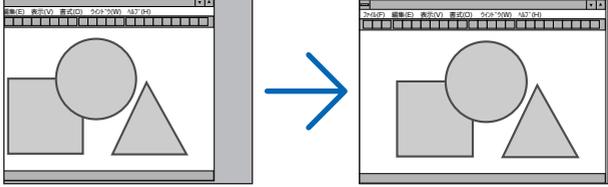
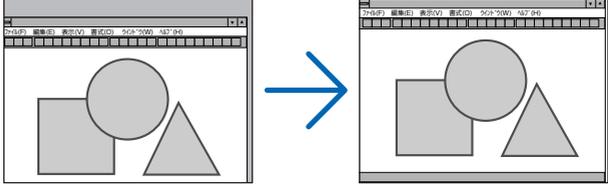
ただし、[イメージモード設定]の番号、およびその[詳細設定]内の[参照]はリセットされません。

現在選ばれていない[イメージモード設定]の[詳細設定]もリセットされません。



●クロック周波数・トラッキング・水平位置・垂直位置

RGB 信号の表示位置と画素のずれの調整を手動で行います。

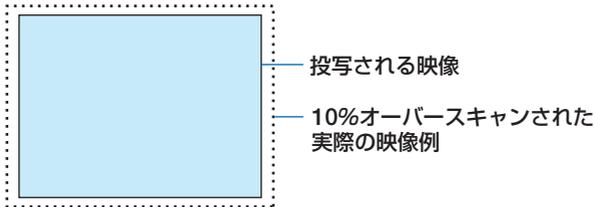
<p>クロック周波数</p>	<p>画面の明るさが一定になる (明暗の縦帯が出なくなる) ように調整します。</p> 
<p>トラッキング</p>	<p>画面の色ずれ、ちらつきが最小になるように調整します。</p> 
<p>水平位置</p>	<p>画面を水平方向に移動します。</p> 
<p>垂直位置</p>	<p>画面を垂直方向に移動します。</p> 

注意

- [クロック周波数]、[トラッキング] を調整中に画面が乱れることがありますが故障ではありません。
- [クロック周波数]、[トラッキング]、[水平位置]、[垂直位置] を調整すると、そのとき投写している信号に応じた調整値として本機に記憶します。そして次回同じ信号(解像度、水平、垂直走査周波数)を投写したとき、本機に記憶している調整値を自動的に呼び出して設定します。
本機に記憶した調整値を消去する場合は、オンスクリーンメニューの[リセット]→[表示中の信号]または[全データ]を行ってください。

●オーバースキャン

オーバースキャン(画面周囲のフレーム部分をカットする処理)の割合を設定します。

**注意**

- 「アスペクト」が「リアル」のときは選べません。
- ビデオ入力およびS-ビデオ入力時は0[%]を選べません。

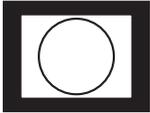
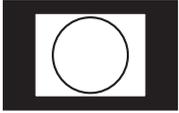
●アスペクト

画面の縦横の比率を選びます。

本機は、入力された信号を自動的に判別して最適なアスペクト比を選びます。

- コンピューターの主な解像度とアスペクト比は次のとおりです。

解像度	アスペクト比
VGA 640 × 480	4:3
SVGA 800 × 600	4:3
XGA 1024 × 768	4:3
WXGA 1280 × 768	15:9
WXGA 1280 × 800	16:10
WXGA+ 1440 × 900	16:10
SXGA 1280 × 1024	5:4
SXGA+ 1400 × 1050	4:3
UXGA 1600 × 1200	4:3

選択項目	説明
オート	入力信号のアスペクト比を自動判別して投写します。(このページ) 入力信号によっては、アスペクト比を誤判別することがあります。誤判別したときは、以下の項目から適切なアスペクト比を選んでください。
4:3	4:3のサイズで投写します。
16:9	16:9のサイズで投写します。
15:9	15:9のサイズで投写します。
16:10	16:10のサイズで投写します。
ワイドズーム (LV-7375/LV-7370/ LV-7275)	映像を左右に引き伸ばして投写します。映像の左端と右端は表示されません。
レターボックス (LV-8300)	レターボックスの信号が適切に投写されるように縦方向、横方向を均等に拡大して投写します。映像の上端と下端は表示されません。
リアル	コンピューター入力信号の解像度が本機の解像度よりも小さいときに、コンピューター入力信号の解像度のまま投写します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【例1】LV-7375/LV-7370/LV-7275に、解像度が800×600の信号を入力したとき</p>  </div> <hr/> <p>【例2】LV-8300に、解像度が800×600の信号を入力したとき</p> 

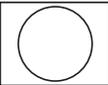
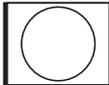
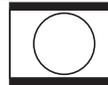
注意

- コンピューター以外の信号を投写しているときは「リアル」は選べません。
- コンピューター入力信号の解像度が本機の解像度以上のときは「リアル」は選べません。

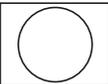
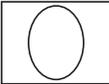
【例】アスペクト比を適切に自動判別したときの画面イメージ

対応機種 LV-7375/LV-7370/LV-7275

コンピューター信号のとき

入力信号のアスペクト比	4:3	5:4	16:9	15:9	16:10
適切に自動判別したときの画面イメージ					

ビデオ信号のとき

入力信号のアスペクト比	4:3	レターボックス	スクイーズ
自動判別したときの画面イメージ			 (注) スクイーズを適切に投写するには「16:9」または「ワイドズーム」を選んでください。

適応機種 LV-8300

コンピューター信号のとき

入力信号の アスペクト比	4:3	5:4	16:9	15:9	16:10
適切に自動判別した ときの画面イメージ					

ビデオ信号のとき

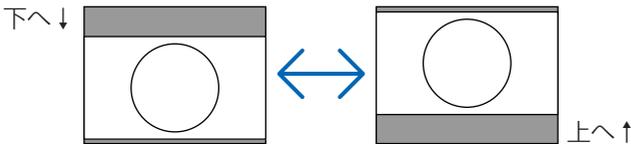
入力信号の アスペクト比	4:3	レターボックス	スクイーズ
自動判別したときの 画面イメージ		 (注) レターボックスを適切に投写するには「レターボックス」を選んでください。	 (注) スクイーズを適切に投写するには「16:9」を選んでください。

参考

- LV-7375/LV-7370/LV-7275 でアスペクトを「16:9」、「15:9」、または「16:10」に設定しているときは、[Dイメージシフト]で垂直位置を調整できます。(このページ)
- ビデオ映像の標準アスペクト比 4 : 3 より横長の映像を、「レターボックス」と呼びます。映画フィルムのピスタサイズ 1.85 : 1 やシネマスコープ 2.35 : 1 のアスペクト比があります。
- アスペクト比 16 : 9 の映像を横方向にスクイーズ（圧縮）して 4 : 3 にした映像を「スクイーズ」と呼びます。

●Dイメージシフト

[アスペクト] で [16:9]、[15:9]、または [16:10] を選んでいるとき、表示領域の垂直位置を調整します。



注意

- LV-8300 には、この機能はありません。

●ビデオ帯域フィルター

RGB 信号とコンポーネント信号の映像のざらつきやジッター（文字などの微妙な揺れ）を低減させます。

工場出荷状態は、あらかじめ信号ごとに適した状態に設定されています。信号によって、映像のざらつきやジッターが気になる場合に設定します。

5-5. セットアップ

全般



●オートキーストーン

オートキーストーンを行います。

オートキーストーンを「オート」に設定した場合、[キーストーン調整値保存] は使用できません。

マニュアル	オートキーストーンを行いません。キーストーン調整を手動で行うときは、次の[キーストーン調整]のメニュー項目で行います。
オート	オートキーストーンを行います。

●キーストーン調整

画面の台形ひずみを調整します。(▶ 46ページ)

●キーストーン調整値保存

[キーストーン調整]で調整した調整値を保存します。電源を切っても調整値は失われません。

切	次に本機の電源を入れたときに、調整値を工場出荷状態に戻します。
入	本機の電源が切れる際に、本体内部のメモリーに調整値を上書き保存します。

●スクリーン色補正



映像を投写する面がスクリーンではなく、部屋の壁などの場合、メニューから壁の色に近い項目を選ぶと、壁の色に適応した色合いに補正して投写できます。

注意 ●「ホワイトボード」を選ぶと、明るさが低下します。

●ランプモード

小さい画面サイズで投写して画面が明るすぎるときや、暗い室内で投写する場合、ランプモードを「静音」にし、ランプ寿命を延ばすことができます。(🔗 85 ページ)

ランプモードの種類	ランプの輝度	LAMP ランプの状態
標準	ランプの輝度(明るさ)が100%になります。明るい画面になります。	消灯 
静音	ランプの輝度(明るさ)がLV-7375/LV-8300は約75%、LV-7370/LV-7275は約80%になります。ランプ寿命が延びます。ランプの輝度(明るさ)が下がるのと連動し、冷却ファンの回転数も下がります。	緑色で点灯 

注意

- ランプ残り時間/ランプ使用時間 (ランプカウンター) については、オンスクリーンメニューの [情報] → [使用時間] で確認できます。(🔗 85 ページ)
- 電源を入れた直後の約3分間は、常にランプモードが「標準」になります。また、この間は [ランプモード] の設定を変更しても、状態は変わりません。
- 本機に入力信号がない状態 (画面が青、黒、または Canon ロゴのとき) のまま約1分経過すると、自動的に「静音」に切り替わります。その後、本機が入力信号を感知すると [ランプモード] はもとの状態に戻ります。
- ランプモード「標準」で使用時、室温が高いことにより本機内部の温度が上昇すると、一時的に「静音」に切り換わることがあります。これは、本機の保護機能の一つで「冷却運転」と呼びます。
冷却運転になると、画面が少し暗くなり、メニュー画面の右上に「」アイコンが表示されます。また、LAMP ランプが緑色で点灯します。
室温を下げたり、[ファンモード] (🔗 81 ページ) を「高速」に設定したりすることにより、本機内部の温度が下がると、冷却運転は解除され、標準に戻ります。
冷却運転中は、[ランプモード] の設定を変更しても、状態は変わりません。

●クローズドキャプション

ビデオ信号、S-ビデオ信号にクローズドキャプション信号が含まれている場合に字幕や文字を画面に表示します。

オフ	表示しません。
キャプション1～4、テキスト1～4	選んだ字幕や文字を表示します。



- 次の状態のときクローズドキャプションは表示されません。
 - ・ オンスクリーンメニュー表示中
 - ・ メッセージ表示中
 - ・ (D.ZOOM +/-) ボタンによる画面拡大中
 - ・ (FREEZE) ボタンによる静止画中
 - ・ (BLANK) ボタンによる映像と音声の消去中



- クローズドキャプションは、アメリカで聴覚に障害を持つ人々のために、ビデオ信号などを画面に投写する際、音声情報を字幕や文字で表示する技術です。

●言語

メニューに表示される言語を選びます。



- 言語は、[リセット] を行っても変更されません。

メニュー設定



●表示色選択

本機のメニューをカラーで表示するか、モノクロで表示するかを選びます。

●表示時間

メニューを表示しているとき、次のボタン操作がない場合にメニューを自動的に閉じる時間を選びます。

●無信号時画面

入力信号がないときの背景色を選びます。

青	背景色が青色
黒	背景色が黒
Canon ロゴ	背景にCanonロゴを表示

●フィルターメッセージ

本機には、エアフィルターの清掃時期をお知らせする機能があります。[フィルターメッセージ] で設定した時間（500 時間：工場出荷状態）を超えると、画面上に「エアフィルターを清掃してください」というメッセージが表示されます。

この場合はエアフィルターの清掃時期ですので、エアフィルターを清掃してください。清掃のしかたは「6-1. エアフィルターの清掃」(👉 88 ページ) をご参照ください。エアフィルターの汚れかたに応じて、工場出荷状態の設定（500 時間）を変更してください。例えば、エアフィルターの汚れかたがひどい場合は、設定時間を短くし、こまめに清掃してください。

切	エアフィルター清掃のメッセージは表示されません。
100(H) / 200(H) / 500(H) / 1000(H)	設定した時間(100時間/200時間/500時間/1000時間)を超えると、画面上にエアフィルター清掃のメッセージが表示されます。

参考

- エアフィルター清掃のメッセージは、電源投入時の1分間、および本機の(POWER)ボタンまたはリモコンの(POWER)ボタンを押したときに表示されます。電源投入時にエアフィルター清掃のメッセージを消す場合は、本機またはリモコンのいずれかのボタンを押してください。
- フィルターメッセージは、[リセット]を行っても変更されません。

設置



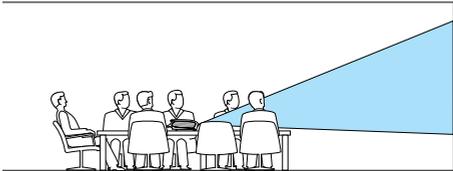
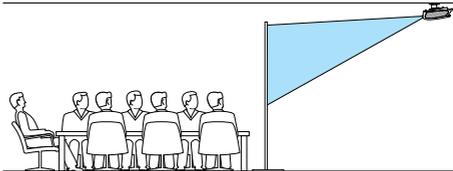
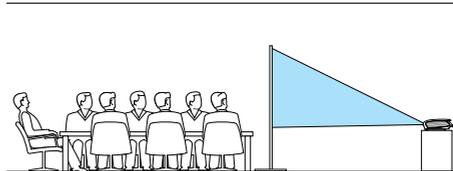
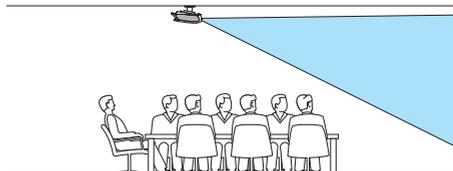
●反転表示

本機やスクリーンの設置状況に合わせて選んでください。



警告

天吊りなどの特別な工事が必要な設置についてはお買い上げの販売店にご相談ください。
お客様による設置は絶対にしないでください。
落下してけがの原因となります。

なし	<p>テーブルに設置してスクリーンの前面から投写</p> 
リア・天吊り	<p>天井に設置してスクリーンの背面から投写</p> 
リア	<p>テーブルに設置してスクリーンの背面から投写</p> 
天吊り	<p>天井に設置してスクリーンの前面から投写</p> 

●キーロック

プロジェクト本体にある操作ボタンを動作しないようにします。

切	操作パネルのボタンが働きます。
入	操作パネルのボタンが利かなくなります。

注意

- 操作パネルのボタンがロックされていてもリモコンのボタンは動作します。
- 操作パネルのボタンがロックされているときに、本体の(BACK) ボタンを約 10 秒間押すと、ロックが解除されます (キーロックの設定が無効になります)。

参考

- キーロック中は、メニュー画面右上に「」アイコンが表示されます。

●パスワード

パスワードを登録することで、本機を無断で使用されないようにすることができます。パスワードを有効にすると、本機の電源を入れたときにパスワード設定入力画面が表示され、正しいパスワードを入力しなければ映像は投写されません。

パスワード設定のしかたは「4-4. パスワードを設定して無断使用を防止する」([👉 54 ページ](#)) をご参照ください。

切	パスワードを無効にします。
オン	パスワードを有効にします。

注意

- パスワードは、[リセット] を行っても解除されません。

●通信速度

サービスポート (SERVICE PORT) のデータ転送速度 (bps) を選びます。接続する機器と転送速度を合わせてください。

参考

- 通信速度は、[リセット] を行っても変更されません。

オプション(1)



●オートPC

[オート PC] を「標準」または「ファイン」にしておく、信号切り換え時に自動で [オート PC] 機能を実行します。

アナログ RGB 信号の表示位置と画素のずれの調整を自動で行うか、手動で行うかを設定します。

切	表示位置と画素のずれを手動で調整できます。(71 ページ)
標準	表示位置と画素調整を自動で行います。通常の設定です。
ファイン	細かい自動調整を行います。「標準」設定時よりも調整に時間がかかります。

注意

- 映像によっては、[オート PC] を有効にしていると正しく調整できない場合や、信号を切り換えたとき調整までに時間がかかる場合があります。このようなときは [オート PC] を「切」にし、手動で調整を行ってください。

●ファンモード

本機内部の温度を下げるための冷却ファンの動作を設定します。

オート	本機内部の温度センサーにより、適切な速度で回転します。
高速	常に高速で回転します。
高地	標高約 1600m 以上の高地など気圧の低い場所で本機を使用する場合に選びます。常に高速で回転します。

注意

- 数日間連続して本機を使用する場合は、必ず「高速」に設定してください。
- 本機を標高約 1600m 以上の高地で使用する場合は、必ず「高地」に設定してください。「高地」に設定していないと、本機内部が高温になり故障の原因となります。
- 本機を「高地」に設定しないまま、標高約 1600m 以上の高地で使用した場合、温度異常を感知して、自動的に本機の電源が切れることがあります。さらに、ランプ消灯後ランプの温度が上昇するため、温度異常を感知して、電源が入らないことがあります。その場合は、しばらく待ってから電源を入れてください。
- 「高地」を設定した状態のまま本機を低地（標高約 1600m 未満）で使用すると、ランプが冷えずぐて画面がちらつくことがあります。
- [リセット] を行ってもファンモードの設定は変わりません。

●入力信号選択

映像が投写されないとき、本機の各映像入力端子に入力されている信号について適切な信号モードを選びます。

コンピューター1 コンピューター2(アナログ)	アナログRGB入力信号とコンポーネント入力信号を自動判別するように、本機の工場出荷状態は「RGB/COMPONENT」に設定されています。 コンポーネント入力信号が自動判別されない(投写されない)場合は、「COMPONENT」を選んでください。
VIDEO S-VIDEO	NTSCやPALなど、国によってテレビジョンの映像信号方式が異なります。入力信号を自動判別するように、本機の工場出荷状態は「オート」に設定されています。 入力信号が自動判別されない(投写されない)場合は、適切な信号モードを選んでください。

● WXGA モード

「入」にすると、入力信号を認識する際、WXGA(1280 × 768 ドット)信号を優先します。

[WXGA モード]を「入」に設定しているとき、XGA(1024 × 768 ドット)信号を入力すると、正しく認識されない場合があります。その場合は[WXGA モード]を「切」にしてください。

- ▲ **参考** ● LV-8300 は、工場出荷時の設定が「入」になっています。
LV-7375/LV-7370/LV-7275 は、工場出荷時の設定が「切」になっています。

●プログレッシブ

AV機器のインターレース信号の映像のちらつきを低減させます。

- ▲ **注意** ● 動画信号によっては、映像にギザギザが目立つ場合があります。
このようなときは [切] に設定してください。
● HDTV、RGB 信号のときは選べません。
● 接続する機器によっては、選べない場合があります。

●電子音

電源の入/切や入力切り換えなどの操作をしたとき、また本機にエラーが発生したときなどに確認音を鳴らします。

- ▲ **参考** ● 電子音の音量は調整できません。また、(BLANK) ボタンを押しても消えません。電子音を出したくない場合は、[電子音]を「切」に設定してください。

オプション(2)



●オフタイマー

[オフタイマー]を設定しておく、本機の電源の切り忘れ防止になり、省エネになります。設定した時間後に本機の電源が切れます(スタンバイ状態になります)。

●スタンバイモード

本機がスタンバイ状態になったときの電力消費量の設定を行います。

標準	スタンバイ状態のとき、STATUS ランプが緑色で点灯します。
省電力	省電力状態になり、本機のスタンバイ状態のときの消費電力が下がります。 スタンバイ状態のとき、STATUS ランプが消灯します。 スタンバイ状態のときに次の端子や機能が動きません。 サービスポート、モニター出力端子、音声出力端子、エラー通知メール機能、ダイレクトパワーオン (Comp1)、本体およびリモコンの(POWER) ボタン以外の操作ボタン

参考

- スタンバイモードは、[リセット]を行っても変更されません

5

オンスクリーンメニュー

●ダイレクトパワーオン (AC)

本機の電源プラグに電源が供給されると自動的に電源が入るように設定します。本機を制御卓などでコントロールする場合に使用します。

切	電源が供給されるとスタンバイ状態になります。
入	電源が供給されると[ダイレクトパワーオン(AC)]が動作し電源が入ります。[初期入力選択] (🔵 次ページ) で設定している信号が投写されます。

注意

- [ダイレクトパワーオン (AC)] を有効にする場合は、本機の主電源スイッチを常に「I (入)」にしておいてください。

●ダイレクトパワーオン(Comp1)

本機がスタンバイ状態のとき、アナログ RGB 信号が入力されると自動的に投写する設定です。

本機のコンピューター 1 入力端子 (ANALOG IN-1) とコンピューターをコンピューター接続ケーブルで接続し、本機をスタンバイ状態にします。

オフ	ダイレクトパワーオン (Comp1) 機能は動きません
オン	アナログ RGB 信号を検知すると本機の電源を自動で入れてコンピューターの画面を投写します。

注意

- コンピューター 1 入力端子 (ANALOG IN-1) にコンポーネント信号を入力したときやシンクオングリーン (Sync on Green) またはコンポジットシンク (Composite Sync) の信号の場合は動きません。
- スタンバイモードを「省電力」に設定しているとき、ダイレクトパワーオン (Comp1) は動きません。また、[ダイレクトパワーオン (Comp1)] は選ばれません。
- 本機の電源を切ったあとにダイレクトパワーオン (Comp1) を働かせたい場合は、電源を切ったあと 3 秒以上待ってから、アナログ RGB 信号を入力してください。本機の電源を切りスタンバイ状態になるときに、アナログ RGB 信号が本機に入力され続けていると、本機の電源は入らずスタンバイ状態を継続します。

●パワーマネージメント

設定した時間以上信号入力がないと自動的に本機の電源が切れスタンバイ状態にします。

切	パワーマネージメント機能は動きません。
0:05 / 0:10 / 0:20 / 0:30	設定した時間 (5 分 / 10 分 / 20 分 / 30 分) 以上信号入力やボタン操作がないと自動的に本機の電源が切れスタンバイ状態になります。

●初期入力選択

本機の電源を入れたときに、どの入力信号 (入力端子) の信号を投写するかを設定します。

ラスト	最後に投写した入力信号を投写します。
オート	入力信号の自動検出を行い、最初に見つかった入力信号を投写します。
コンピューター 1	コンピューター 1 入力端子 (ANALOG IN-1) の入力信号を投写します。
コンピューター 2 (デジタル)	コンピューター 2 入力端子 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2) のデジタル RGB 入力信号を投写します。
コンピューター 2 (アナログ)	コンピューター 2 入力端子 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2) のアナログ RGB 入力信号を投写します。
VIDEO	ビデオ映像入力端子 (VIDEO IN) の入力信号を投写します。
S-VIDEO	S-ビデオ映像入力端子 (S-VIDEO IN) の入力信号を投写します。

5-6. 情報



投写されている入力信号の詳細、ランプ使用時間（ランプカウンター）、本機の機械番号（Serial number）などを表示します。

- ①「使用時間」のページ：ランプの寿命時間およびランプとエアフィルターの使用時間の確認に使用します。
- ②「入力信号」のページ：色が極端におかしかったり、画面が流れたり、映像が映らない場合、入力信号が本機に適しているかの確認に使用します。「対応解像度一覧」(107ページ)もあわせてご参照ください。
- ③「有線LAN」のページ：ネットワークに接続するときのプロジェクト名、および本機のMACアドレスを確認できます。
- ④「Version」のページ：本機の機械番号（Serial number）やファームウェアのバージョンなどの確認に使用します。

参考

● ランプ残り時間／ランプカウンターの表示について

本機には静音機能があります。標準と静音ではランプの寿命が異なります。

[ランプカウンター] はランプの通算使用時間を示し、[ランプ残り時間] はランプの使用時間に対する残量をパーセントで表示しています。

- 0%になると画面上に「ランプを交換してください。」のメッセージが表示されます。新しいランプ（品番 LV-LP31）と交換してください。交換のしかたは「6-4. ランプとエアフィルターの交換」(91ページ)をご参照ください。
- ランプ交換のメッセージは電源投入時の1分間、および本機の電源を切るために(POWER) ボタンを押したときに表示されます。電源投入時にランプ交換のメッセージを消す場合は本機またはリモコンのいずれかのボタンを押してください。
- ランプ寿命に到達（ランプ残り時間 0%）後、[ランプ残り時間] 表示は赤色の時間表示に変わります。このとき、[ランプ残り時間] 表示は「100 (H)」と表示され、そのあとランプを投写しただけ時間がマイナスされていきます。そして [ランプ残り時間] 表示が「0 (H)」になると、本機の電源が入らなくなります。

	ランプカウンター		ランプ残り時間
	標準のみ使用 (最小)	静音のみ使用 (最大)	
工場出荷時	0 時間		100%
ランプ寿命	3000 時間	4000 時間	0%



5-7. リセット



表示中の信号

表示中の信号について、調整した調整値を工場出荷状態に戻します。
工場出荷状態に戻す処理には多少時間がかかります。

【リセットされるデータ】

[イメージモード設定]・[明るさ]・[コントラスト]・[シャープネス]・[色の濃さ]・[色合い]・
[アスペクト]・[水平位置]・[垂直位置]・[クロック周波数]・[トラッキング]・
[ビデオ帯域フィルター]・[オーバースキャン]

全データ

すべての調整・設定値を工場出荷状態に戻します。
工場出荷状態に戻す処理には多少時間がかかります。

【リセットされないデータ】

[言語]・[通信速度]・[パスワード]・[ランプ残り時間]・[ランプカウンター]・
[フィルターカウンター]・[フィルターメッセージ]・[ファンモード]・[無信号時画面]・
[スタンバイモード]・[ランプ残り時間]・[ネットワーク設定]・[ランプカウンター]・
[フィルターカウンター]

ネットワーク設定

次のネットワークの設定を工場出荷状態に戻します。
[DHCP]・[IP アドレス]・[サブネットマスク]・[ゲートウェイ]

ランプカウンター

ランプ交換を行ったときに[ランプ残り時間]と[ランプカウンター]をリセットします。

注意

- ランプ交換を行わずに [ランプカウンター] をリセットすると正確なランプ使用時間がわからなくなり、ランプ破裂を引き起こすことがあります。必ずランプ交換を行ったときのみ [ランプカウンター] をリセットするようにしてください。

フィルターカウンター

エアフィルターの清掃または交換を行ったときに [フィルターカウンター] をリセットします。

6. 本体のお手入れ／ランプの交換

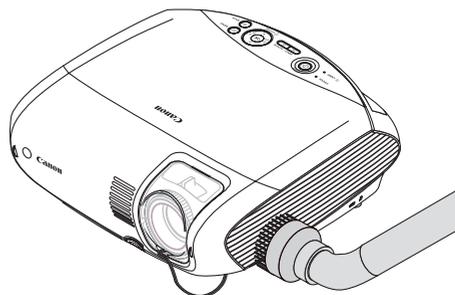
6-1. エアフィルターの清掃

吸気口のエアフィルターはプロジェクター内部をほこりや汚れから守っています。エアフィルターにほこりがたまると、空気の通りが悪くなり内部の温度が上昇し、故障の原因となりますので、こまめに清掃をしてください。

- オンスクリーンメニューの[フィルターメッセージ]で設定している時間(工場出荷時は500時間)だけ本機を使用すると、電源を入れるたびに「エアフィルターを清掃してください」というメッセージが表示されます(▶78ページ)。メッセージが表示されたら、エアフィルターの清掃を行い、「フィルターカウンター」をリセットしてください。(▶87ページ)
- 「エアフィルターを清掃してください」というメッセージは、本体またはリモコンのいずれかのボタンを押すと消えます。

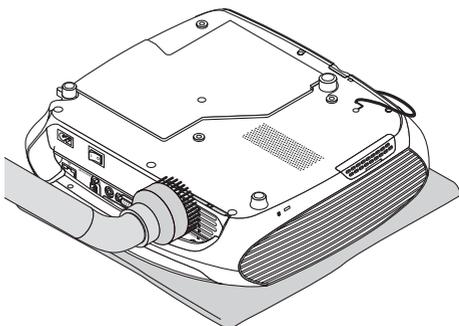
1 エアフィルターを清掃する。

エアフィルターは本体右側面に1個、背面(接続端子部の左下)に1個あります。電源を切り電源プラグをコンセントから抜きます。掃除機で吸気口越しにエアフィルターの清掃を行ってください(フィルターカバーを外す必要はありません)。



2 フィルターカウンターをリセットする。

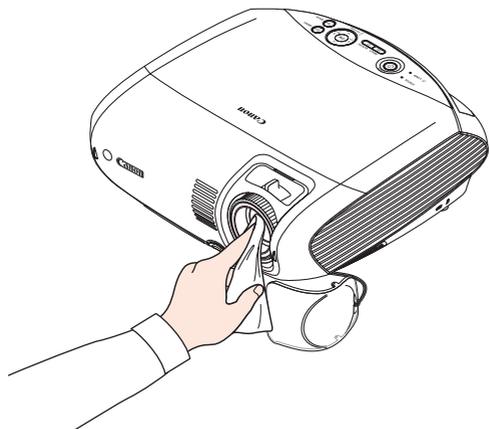
メニューの[リセット]の「フィルターカウンター」を選んでください。(▶87ページ)



(注) 本機を裏返しにするときは、本体に傷を付けないために、柔らかい布などを敷いた上に静かに置いてください。

6-2. レンズの清掃

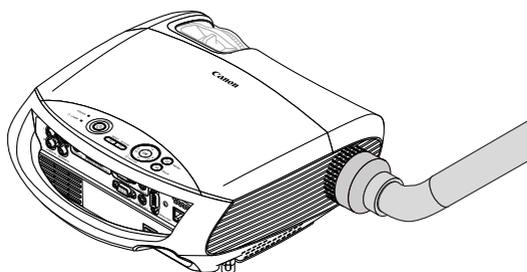
カメラのレンズと同じ方法で（市販のカメラ用ブローワーやメガネ用クリーニングペーパーを使って）クリーニングしてください。その際レンズを傷つけないようにご注意ください。



6-3. キャビネットの清掃

お手入れの前に必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 毛羽立ちの少ない柔らかい乾いた布でふいてください。
汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
化学ぞうきんを使用する場合は、その注意書に従ってください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤でふかないでください。変質したり、塗料がはげることがあります。
- 通風孔やスピーカー部のほこりを取り除く場合は、掃除機のブラシ付きのアダプターを使用して吸い取ってください。なお、アダプターを付けずに直接当てたり、ノズルアダプターを使用することは避けてください。



側面の通風孔と、スピーカー部のほこりを吸い取ります。

- 通風孔にほこりがたまると、空気の通りが悪くなり内部の温度が上昇し、故障の原因となりますので、こまめに清掃をしてください。
- キャビネットを爪や硬いもので強くひっかいたり、当てたりしないでください。傷の原因となります。
- 本体内部の清掃については、お買い上げの販売店またはキヤノンお客様相談センターにお問い合わせください。

注意

- キャビネットやレンズおよびスクリーンに殺虫剤など揮発性のものをかけたりしないでください。
また、ゴムやビニール製品などを長時間接触したままにしないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。

6-4. ランプとエアフィルターの交換

光源に使われているランプの使用時間が 3000 時間（標準モードでのみ使用時）を超えると LAMP ランプが赤く点滅し、メッセージ「ランプを交換してください。」が画面上に表示されます。^(注)

この場合はランプの交換時期ですので、新しいランプと交換してください。

なお、静音で使用している割合が多いとランプ寿命が伸びます。したがってこの場合ランプ使用時間は延びることになります。現在のランプ使用残り時間の目安は [85 ページ](#) をご参照ください。

- LAMP ランプが点滅する前にランプが切れることがあります。
- 交換ランプは販売店で求めください。ご注文の際は品番 LV-LP31 をご指定ください。
- 交換ランプにはエアフィルターが付属していますので、ランプを交換したあとにエアフィルターも交換してください。
- 指定のねじ以外は外さないでください。
- ランプには、ランプ保護のためガラスが付いています。誤って割らないよう取り扱いには注意してください。

また、ガラス表面には触れないでください。輝度にかかわる性能劣化の原因となります。

- メッセージが表示されてもなお使用を続けると、ランプが切れることがあります。ランプが切れるときには、大きな音をともなって破裂し、ランプの破片がランプ内に散らばります。この場合は、お買い上げの販売店またはキヤノンお客様相談センターに交換を依頼してください。
- 本機を天吊りで設置した状態でランプ交換を行う場合は、本機の下部に人が入らないように注意してください。ランプが破裂している場合に、ランプの破片が飛散するおそれがあります。
- ランプ寿命に到達後 100 時間を超えて使用すると、LAMP ランプが赤く点灯するとともにスタンバイ状態になり電源が入らなくなります。あらかじめ交換ランプを用意しておいてください。

(注) ランプ交換のメッセージは電源投入時の 1 分間、および電源を切るために (POWER) ボタンを押したときに表示されます。

電源投入時に表示されたランプ交換のメッセージを消すには、本機またはリモコンのいずれかのボタンを押してください。



注意

ランプの交換は、電源を切りしばらく待って、冷却ファン停止後、電源プラグをコンセントから抜き、約 1 時間おいてから行ってください。動作中や停止直後にランプを交換すると高温のため、やけどの原因となることがあります。

●ランプとエアフィルター交換の流れ

ステップ1. ランプを交換する (👉このページ)

ステップ2. エアフィルターを交換する (👉95ページ)

ステップ3. ランプカウンターとフィルターカウンターをリセットする(👉96ページ)

●ランプの交換



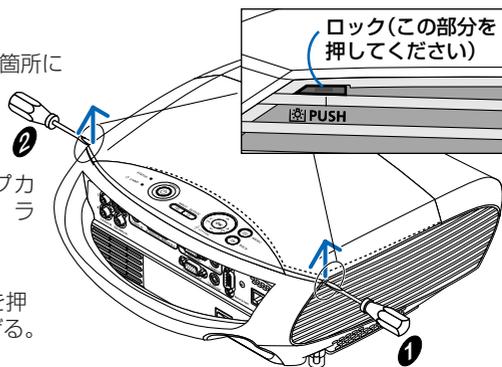
- ランプ部は高電圧/高温になることから、容易に露出しないよう、ランプカバーを外し難くしておりますので、説明文を見ながら操作してください。

準備：マイナスドライバーとプラスドライバーを用意します。

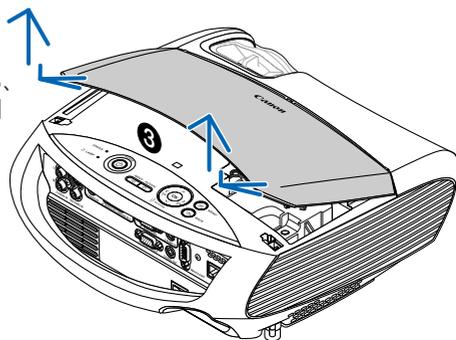
1 ランプカバーを外す。

ランプカバーのロックが本体の左右2箇所にあります。

- 1 マイナスドライバーの先でランプカバーの片方のロックを押しながら、ランプカバーを持ち上げる。
- 2 ランプカバーのもう一方のロックを押しながら、ランプカバーを持ち上げる。



- 3 ランプカバーの左右のロックを外したら、ランプカバーを矢印の方向へゆっくり引く。



2 ランプを外す。

- 1 プラスドライバーを使って、ランプ固定のねじ(2箇所)を左に空転するまでゆるめる。
 - ・ねじは外れません。
 - ・本機には安全スイッチが付いています。安全スイッチには触れないでください。



・ランプ固定ねじ(2箇所)以外のねじは絶対に外さないでください。

- 2 ランプのつまみを指ではさんで持ち上げる。

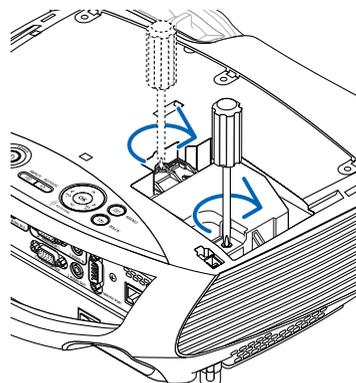
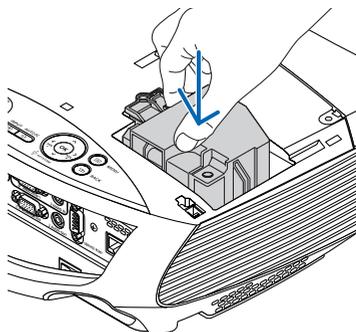
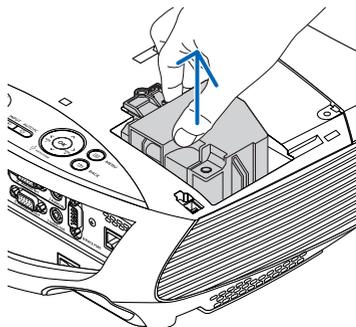
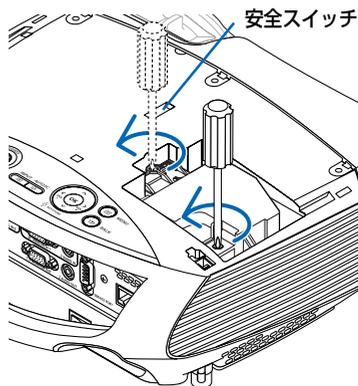
注意

● 高温に注意してください。ランプに触れるときは、電源を切りしばらく待って、冷却ファン停止後、電源プラグをコンセントから抜き、約1時間おいてください。

3 新しいランプを取り付ける。

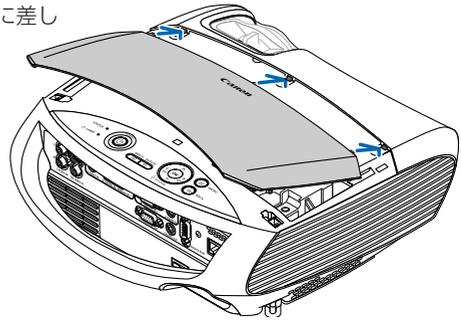
- 1 ランプを静かに入れる。
- 2 ランプの中央部分を押しつけてランプのプラグを本体のソケットへ確実に差し込む。

- 3 プラスドライバーを使って、ランプ固定のねじ(2箇所)を右に回してしめる。
 - ・ねじは確実にしめてください。

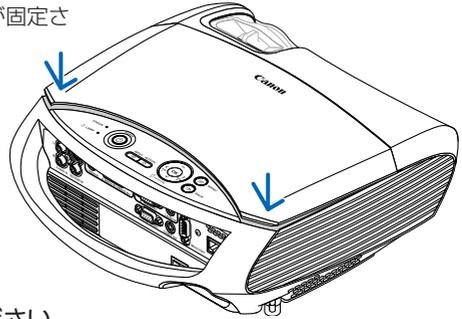


4 ランプカバーを取り付ける。

- ① ランプカバーの3つのつめを本体の溝に差し込む。



- ② ランプカバーの両端を押さえてロックする。
・「カチッ」と音がしてランプカバーが固定されるまで押します。



これで、ランプ交換が終わりました。
続いてエアフィルターを交換してください。

参考

- ランプ寿命 (▶ 85 ページ) に到達後 100 時間を超えて使用すると、電源が入らなくなります。その場合は、スタンバイ状態でリモコンの (INFO) ボタンを 10 秒以上押し続けることで、ランプ残り時間とランプカウンターをリセットできます。
リセットされたかどうかは、LAMP ランプが消灯することで確認できます。

●エアフィルターの交換

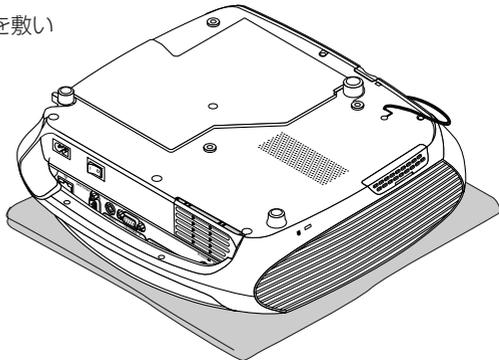
ランプの交換と同時にエアフィルターの交換も行ってください。



- エアフィルターは交換ランプに同梱されています。
- エアフィルターを交換するときは、プロジェクター本体のほこりをよくふき取ってから行ってください。
- プロジェクターは精密機器ですので、内部にほこりが入らないようにご注意ください。
- エアフィルターは水洗いしないでください。目詰まりの原因となります。

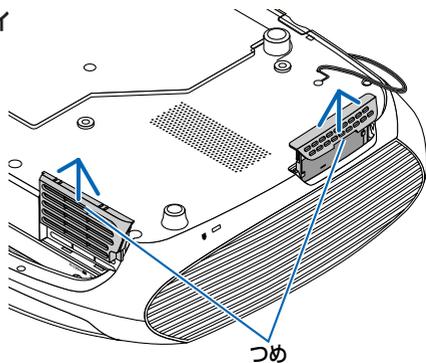
5 本機を裏返しにする。

傷を付けないように、柔らかい布などを敷いた上に静かに置いてください。



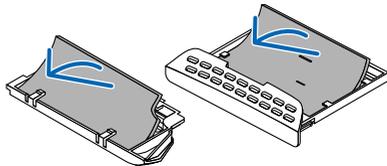
6 つめに指をかけ、矢印の方向にフィルターカバーを引き抜いて外す。

エアフィルターは2個あります。



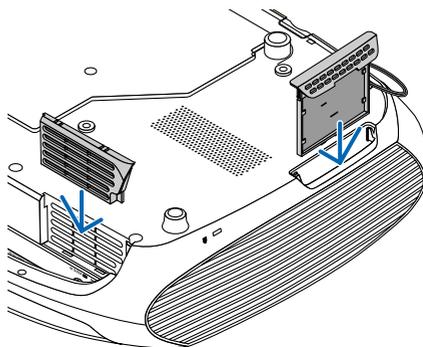
7 エアフィルターを交換する。

- 1 エアフィルターを外して、フィルターカバーを清掃する。
- 2 新しいエアフィルターをフィルターカバーに取り付ける。



8 フィルターカバーを取り付ける。

- ・「カチッ」と音がしてフィルターカバーが固定されるまで差し込みます。



9 本体をもとの位置に戻す。

これで、エアフィルターの交換が終わりました。
続けて次の操作を行ってください。

●ランプカウンターとフィルターカウンターをリセットする

10 電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れる。

11 ランプカウンターおよびフィルターカウンターをリセットする。

オンスクリーンメニューの[リセット]→「ランプカウンター」および「フィルターカウンター」を選んでください。(▶87ページ)

7. 付 録

困ったときには

修理を依頼される前に、もう一度接続や設定および操作に間違いがないかご確認ください。それでもなお異常なときはお買い上げの販売店またはキヤノンお客様相談センターにお問い合わせください。

現象と確認事項

このようなとき	確認してください	参照ページ
電源が入らない	電源プラグがコンセントから抜けていませんか。	35
	主電源スイッチは「I (入)」になっていますか。	37
	キーロック中ではありませんか。 キーロック中は、本体の操作ボタンはロックされて利きません。リモコンを使えば操作できます。	80
	ランプカバーが正しく取り付けられていますか。	94
	ランプ固定のねじがゆるんでいませんか。	93
	ランプ寿命を超えて使用していませんか。 新しいランプと交換してください。交換後、本機をスタンバイ状態にして、リモコンの (INFO) ボタンを10秒以上押し続けてください。 本機内部で管理しているランプカウンターの値がリセットされ電源が入るようになります。	85 91
	内部温度が高くなっていませんか。内部の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。しばらく待ってから電源を入れてください。	103
	標高約1600m以上の高地で本機を使用していませんか。 高地で使用する場合はオンスクリーンメニューの [ファンモード] を「高地」に設定してください。 高地で本機を使用する場合に [ファンモード] を「高地」に設定していないと、温度異常を感知して、自動的に電源が切れることがあります。さらに、ランプ消灯後ランプの温度が上昇するため、温度異常を感知して、電源が入らないことがあります。その場合は、しばらく待ってから電源を入れてください。	—
上記の電源コードの接続、ランプ交換時間、本機の内部温度上昇などが原因として考えられない場合は、主電源スイッチを「O (切)」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。そして約5分間待って再び電源プラグをコンセントに接続し、主電源スイッチを「入」にしてください。	50	
使用中に電源が切れる	オンスクリーンメニューの「パワーマネージメント」または「オフタイマー」を「入 (時間を選んでいる)」にしていますか。	84 83

このようなとき	確認してください	参照ページ
映像が出ない	接続している入力を選んでいますか。 本体またはリモコンの (INPUT) ボタンを再度押してください。	40
	入力端子のケーブルが正しく接続されていますか。	26~34
	[イメージ調整] の明るさ、コントラストが最小になっていませんか。	70
	AV 機器をコンピューター映像入力端子と接続しているとき、RGB/COMPONENT を選んでいますか。	82
	RGB (コンピューター) 入力の場合、標準信号以外の信号が入力されていませんか。	107
	コンピューターの画面がうまく投写できない場合は、 100 ページ をご参照ください。	100
	各設定が正しく調整・設定されていますか。	61
	それでも解決しない場合は、[リセット] の [全データ] を行ってみてください。	87
	パスワードが有効になっている場合は、本機の電源を入れたときに、あらかじめ登録しておいたパスワードを入力しないと映像は投写されません。	55
	ランプの消灯直後に電源を入れたときや、ランプの温度が高いときは、冷却のためにファンのみが回転し、映像が出るまでに時間がかかります。しばらくお待ちください。	—
標高約 1600mm 未満であっても高地で使用している場合、自動的に消灯することがあります。そのときは [ファンモード] を「高地」に設定してください。	81	
映像がひずむ	正しく設置されていますか。	42
	台形状にひずむ場合はキーストーン調整を行ってください。	44, 46
映像がぼやける	ピントは合っていますか。	43
	投写画面と本機が正しい角度で設置されていますか。	44
	投写距離がピント合わせ可能な範囲を超えていませんか。	23, 104
	レンズなどが結露していませんか。 気温が低い所に保管しておいて温かい所で電源を入れるとレンズや内部の光学部が結露することがあります。このような場合は結露がなくなるまで数分お待ちください。	—
画面がちらつく	[ファンモード] を「高地」に設定した状態のまま低地 (標高約 1600m 未満) で使用すると、ランプが冷えすぎて画面がちらつくことがあります。[ファンモード] を「高地」以外を設定してください。	81
映像が乱れる	本機に接続している信号ケーブルが断線していませんか。	—
	(AUTO PC) ボタンを押してください。	48
映像が突然暗くなった	室温が高いため、冷却運転になっていませんか。 [ファンモード] を「高速」に設定するなどして、本機内部の温度が下がるようにしてください。	76 81

このようなとき	確認してください	参照ページ
水平または垂直方向に映像がずれて正常に表示されない	RGB (コンピューター) 入力の場合、水平位置、垂直位置を正しく調整しましたか。	71
	RGB (コンピューター) 入力の場合、入力信号が対応している解像度、周波数になっていますか。コンピューターの解像度を確認してください。	107
RGB (コンピューター) 入力で文字がちらついたり色がずれている	メニューの [オート PC] を「標準」または「ファイン」に設定してください。 [オート PC] を「切」に設定している場合は、[クロック周波数] と [トラッキング] を調整してください。	81
リモコンで操作できない	リモコンのリモコン送信部を本体のリモコン受光部に向けていますか。	21
	リモコンの電池が消耗していませんか。新しい電池と交換してください。	21
	リモコンと本体のリモコン受光部に明るい光が当たっているか、途中で障害物はありませんか。	21
	リモコンの有効範囲 (7m) を超えていませんか。	21
POWER/STATUS/LAMP ランプが点滅する	POWER/STATUS/LAMP ランプ表示一覧をご参照ください。	102
電源を入れるたびに「エアフィルターを清掃してください。」のメッセージが表示される。	エアフィルターを清掃または交換して、フィルターカウンターをリセットしてください。 本体またはリモコンのいずれかのボタンを押してください。	88, 87
本機の動作が不安定になる	主電源スイッチを「○ (切)」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。そして約 5 分間待って再び電源プラグをコンセントに接続し、主電源スイッチを「I (入)」にしてください。	50

コンピューターの画面がうまく投写できない場合

コンピューターを接続して投写する際、うまく投写できない場合は、次のことをご確認ください。

●コンピューターの起動のタイミング

コンピューターと本機を接続したあとにコンピューターを起動してください。

特にノート型コンピューターの場合、接続してからコンピューターを起動しないと外部出力信号が出力されないことがあります。

参考

- 本機のメニューを表示して、[情報]の[水平周波数]を確認してください。
水平周波数が表示されていないときは、コンピューターから外部出力信号が出力されていません。(▶ 85ページ)

●コンピューターの起動後に操作が必要な場合

ノート型コンピューターの場合、起動したあとに外部出力信号を出力させるため、さらに操作が必要な場合があります(ノート型コンピューター自身の液晶画面に表示されていても、外部出力信号が出力されているとは限りません)。

参考

- Windowsのノート型コンピューターの場合は、ファンクションキーを使って「外部」に切り換えます。(▶ 41ページ)

●ノート型コンピューターの同時表示時の外部出力信号が正確ではない場合

ノート型コンピューターの場合、自身の液晶画面は正常に表示されていても投写された画面が正常ではない場合があります。

多くの場合、ノート型コンピューターの制限(コンピューター自身の液晶画面と外部出力を同時に出力する場合は、標準規格に合った信号を出力できない)によることが考えられます。このときの外部出力信号が、本機で対応可能な信号の範囲から大きく外れている場合、調整を行っても正常に表示されないことがあります。

上記の場合は、ノート型コンピューターの同時表示をやめ、外部出力のみのモードにする(液晶画面を閉じると、このモードになる場合が多い)操作を行うと、外部出力信号が標準規格に合った信号になることがあります。

●Macintoshを起動させたとき、画面が乱れたり何も表示しない場合

Macintosh 用信号アダプター(市販品)を使って接続したとき、ディップスイッチの設定を、Macintosh および本機の対応外の表示モードにした場合、表示が乱れたり、何も表示できなくなることがあります。万一表示できない場合は、ディップスイッチを13インチ固定モードに設定し、Macintosh を再起動してください。そのあと表示可能なモードに変更して、もう一度再起動してください。

●PowerBookと本機を同時に表示させる場合

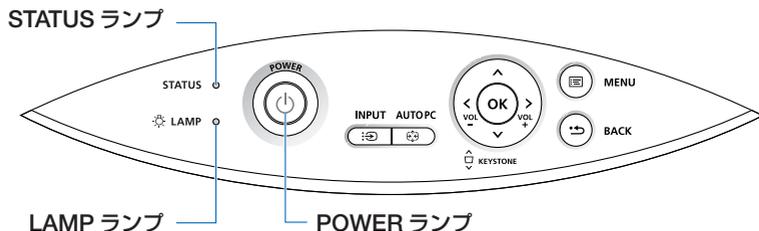
PowerBook ディスプレイの「ビデオミラーリング」を「切」にしないと外部出力を1024×768ドットに設定できないことがあります。

●Macintoshの投写画面からフォルダなどが切れている場合

Macintoshに接続していたディスプレイを本機より高い解像度で使用していた場合、本機で投写した画面では、画面の隅にあったアイコンなどが画面からはみ出したり消えたりすることがあります。このような場合は、MacintoshのFinder画面で「option」キーを押した状態で「表示」→「整頓する」を選んでください。はみ出したり消えたりしたアイコンが画面内に移動します。

POWER/STATUS/LAMPランプ表示一覧

操作パネルの3つのランプが点灯、点滅しているときは、次の説明を確認してください。



● POWER ランプ

ランプ表示	本機の状態	行ってください
消灯	主電源切	—
点滅	緑色(短い点滅)	電源入り準備中
	緑色(長い点滅)	オフタイマー動作中
	オレンジ色(短い点滅)	本体冷却中
点灯	緑色	電源入り状態
	オレンジ色	スタンバイ状態

● STATUS ランプ

ランプ表示	本機の状態	行ってください
消灯	異常なし、またはスタンバイ状態(スタンバイモードが「省電力」)	—
点滅	赤色(1回周期)	カバー異常 ランプカバーが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください。(▶ 94 ページ)
	赤色(2回周期)	温度異常 本機内部の温度が異常に高くなっています。室温が高い場合は、本機を涼しい場所へ移動してください。(▶ 103 ページ)
	赤色(3回周期)	電源異常 電源が正常に動作していません。販売店へ修理を依頼してください。
	赤色(4回周期)	ファン異常 冷却ファンの回転が停止しています。販売店へ修理を依頼してください。
	赤色(6回周期)	ランプ不点灯 ランプが点灯しません。1分以上待つて再度電源を入れてください。それでも点灯しない場合は販売店にご相談ください。
点灯	緑色	スタンバイ状態(スタンバイモードが「標準」)
	オレンジ色	キーロック中にボタンを押したとき キーロック中です。操作する場合は、設定を解除する必要があります。(▶ 80 ページ)

● LAMP ランプ

ランプ表示		本機の状態	行ってください
消灯		異常なし	—
点滅	赤色	ランプ交換猶予時間中	ランプ残り時間が0%になり、ランプ交換の時間猶予（100時間）中です。すみやかにランプを交換してください。(🔗 91 ページ)
点灯	赤色	ランプ使用時間超過	ランプ使用時間を超過しています。ランプを交換するまで本機の電源は入りません。(🔗 91 ページ)
	緑色	静音	—

● 温度異常が発生したときは

本機内部の温度が異常に高くなると、ランプが消灯し、STATUS ランプが点滅します（2回点滅の繰り返し）。

このようなときは、次のことを行ってください。

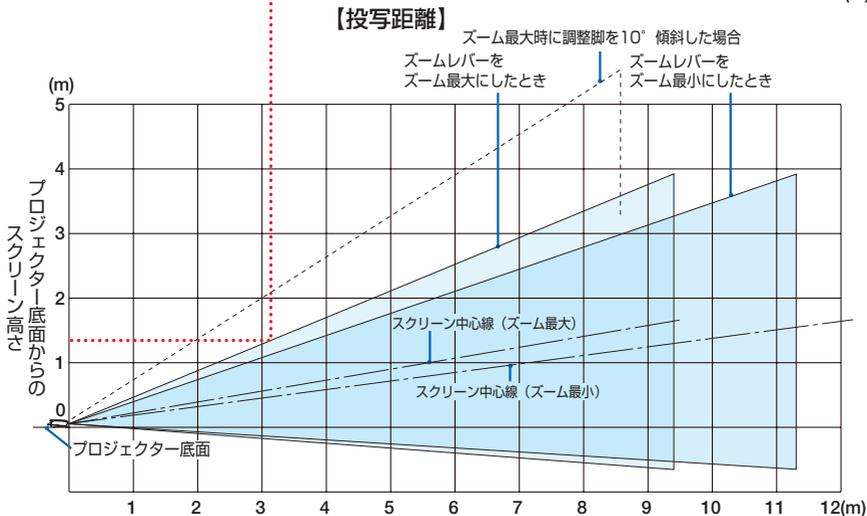
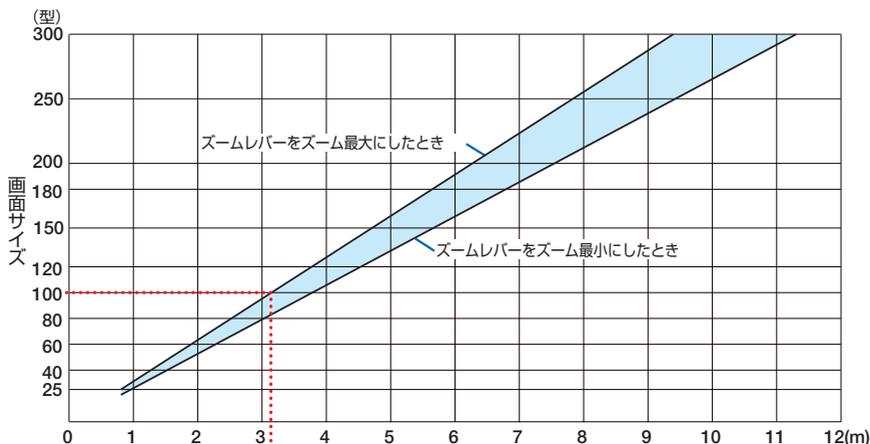
- ・ 冷却ファンの回転が終了したら、主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・ 周囲の温度が高い場所に置いて使用しているときは、涼しい場所に設置しなおしてください。
- ・ 通風孔にほこりがたまっていたら、清掃してください。(🔗 90 ページ)
- ・ 本機内部の温度が下がるまで、約1時間そのままにしてください。

投写距離と画面サイズ

この場所に設置するとどのくらいの画面サイズになるか、どのくらいのスクリーンを用意すればいいか、また、目的の大きさで映すにはどのくらいの距離が必要かを知らりたいときの目安にしてください。

投写距離 (LV-7375/LV-7370/LV-7275)

ピントの合う投写距離は、レンズ前面から 0.8m (21 型の場合) ~ 11.3m (300 型の場合) です。この範囲で設置してください。

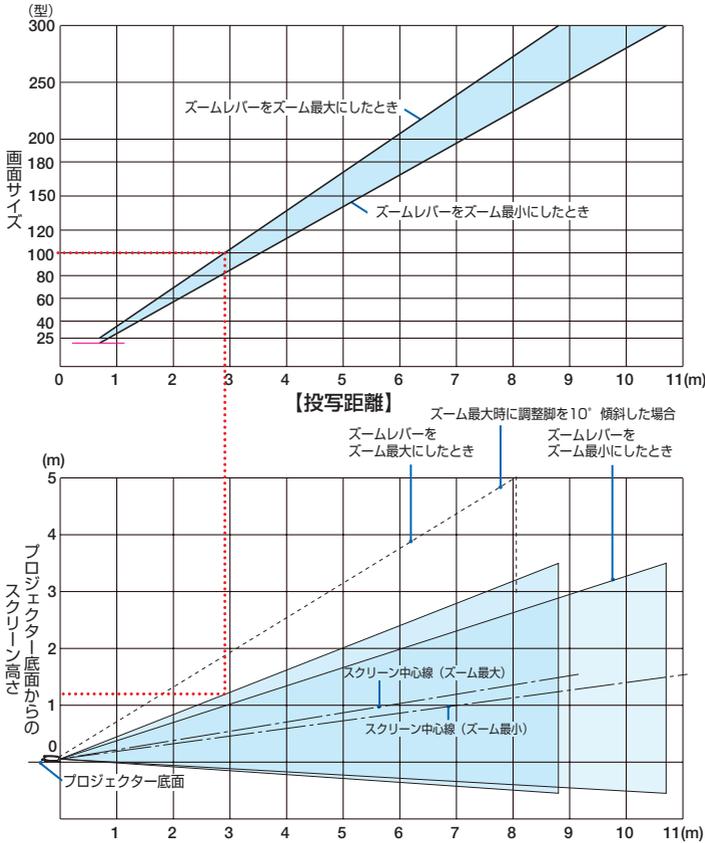


【表のみかた】

100 型スクリーンにズーム最大で映すには表より、3.1m 付近に設置することになります。また、下の表はプロジェクト画面からスクリーンの上端までが約 1.3m 必要となりますので、プロジェクトを置いた台から天井までの高さやスクリーンを設置する高さが確保できるかの目安にお使いください。(図はプロジェクトを水平に調整したとき) 調整脚により上へ最大約 10° 上げることができます。

投写距離 (LV-8300)

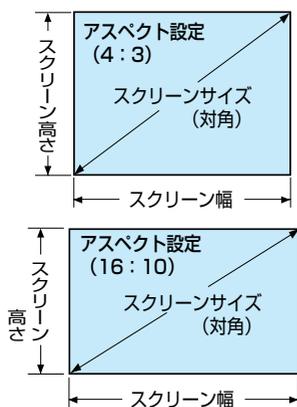
ピントの合う投写距離は、レンズ前面から 0.7m (21 型の場合) ~ 10.7m (300 型の場合) です。この範囲で設置してください。



【表のみかた】

100 型スクリーンにズーム最大で映すには表より、2.9m 付近に設置することになります。また、下の表はプロジェクター底面からスクリーンの上端までが約 1.2m 必要となりますので、プロジェクターを置いた台から天井までの高さやスクリーンを設置する高さが確保できるかの目安にお使いください。(図はプロジェクターを水平に調整したとき) 調整脚により上へ最大約 10° 上げることができます。

画面サイズと寸法表



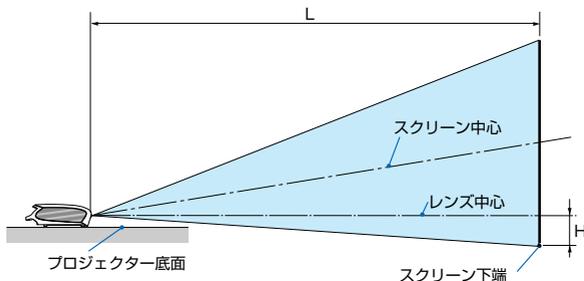
サイズ(型)	LV-7375/LV-7370/LV-7275		LV-8300	
	スクリーンの幅 (cm)	スクリーンの高さ (cm)	スクリーンの幅 (cm)	スクリーンの高さ (cm)
21	43	32	45	28
25	51	38	65	40
30	61	46	86	54
40	81	61	129	81
60	122	91	172	108
80	163	122	215	135
100	203	152	259	162
120	244	183	323	202
150	305	229	431	269
180	366	274	517	322
200	406	305	646	404
250	508	381	862	539
300	610	457	1077	673

画面サイズと投写距離の例

水平投写位置……レンズを中心に左右均等

垂直投写位置……(下表参照)

画面サイズ (型)	LV-7375/LV-7370/LV-7275			LV-8300		寸法 H (cm)
	投写距離 L(m)		寸法 H (cm)	投写距離 L(m)		
	ズーム最大時	ズーム最小時		ズーム最大時	ズーム最小時	
21	—	0.8	5	—	0.7	4
25	0.8	0.9	6	0.7	0.9	5
30	0.9	1.1	7	0.9	1.0	6
40	1.2	1.5	10	1.1	1.4	8
60	1.9	2.2	14	1.7	2.1	12
80	2.5	3.0	19	2.3	2.8	16
100	3.1	3.7	24	2.9	3.5	20
120	3.7	4.5	29	3.5	4.2	24
150	4.7	5.6	36	4.4	5.3	30
180	5.6	6.8	43	5.3	6.4	36
200	6.2	7.5	48	5.9	7.1	40
250	7.8	9.4	60	7.4	8.9	50
300	9.4	11.3	71	8.8	10.7	61



参考

- 設計値のため、± 5%の誤差があります。

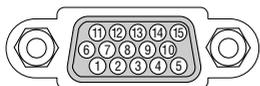
対応解像度一覧

信号形式		解像度 (ドット数)	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	対応状況
ビデオ	NTSC	—	15.7	59.9	◎ *1
	PAL	—	15.6	50.0	◎ *1
	PAL60	—	15.7	60.0	◎ *1
	SECAM	—	15.6	50.0	◎ *1
VGA		640 × 480	31.5	59.9	◎
			31.5	60.0	◎
			37.9	72.8	◎
			37.5	75.0	◎
			39.4	75.0	◎
			43.3	85.0	◎
SVGA		800 × 600	35.2	56.3	◎
			37.9	60.3	◎
			46.9	75.0	◎
			48.1	72.2	◎
			53.7	85.1	◎
XGA		1024 × 768	48.4	60.0	◎
			56.5	70.1	◎
			60.0	75.0	◎
			68.7	85.0	◎
WXGA		1280 × 768	47.8	59.9	◎ *2
		1280 × 800	49.7	59.8	◎ *2
SXGA		1152 × 864	54.4	60.1	○
			64.0	70.0	○
			67.5	75.0	○
			77.5	85.1	○ *1
			60.0	60.0	○
		1280 × 960	75.0	75.0	○ *1
			85.9	85.0	○ *1
			64.0	60.0	○
		1280 × 1024	80.0	75.0	○ *1
			91.2	85.0	○ *1
SXGA+		1400 × 1050	64.7	60.0	○
			65.3	60.0	○ *1
WXGA+		1440 × 900	55.9	59.9	○ *1
			75.0	60.0	○ *1
UXGA		1600 × 1200	81.3	65.0	○ *1
			87.5	70.0	○ *1
			93.8	75.0	○ *1
			75.0	60.0	○ *1
MAC13		640 × 480	35.0	66.7	◎
MAC16		832 × 624	49.7	74.6	◎
MAC19		1024 × 768	60.2	74.9	◎
MAC21		1152 × 870	68.7	75.1	◎
MAC		1280 × 1024	64.3	60.4	○
			69.9	65.2	○ *1
			78.4	73.7	○ *1
HDTV	1080i /50	1920 × 1080	28.1	50.0	○
	1080i /60		33.8	60.0	○
	720p	1280 × 720	45.0	60.0	○
SDTV	480p	720 × 480	31.5	59.9	◎
		720 × 480	15.7	59.9	◎ *1
DVD	YCbCr	720 × 576	15.6	50.0	◎ *1
		720 × 480	31.5	59.9	◎
	progressive	720 × 576	31.3	50.0	◎

- ・ 出荷時はその表示解像度/周波数の標準的な信号に合わせていますが、コンピュータの種類によっては調整が必要な場合があります。
- ・ コンボジット同期信号などの場合は、正常に表示できない場合があります。
- ・ 圧縮表示の場合、文字や罫線の太さなどが不均一になる場合があります。
- ・ UXGA (1600 × 1200) はセパレート信号のみ対応です。
- ・ *1 : デジタル信号は表示できません。
- ・ *2 : LV-8300 ではリアル表示。
- ◎ : リアル表示
- : 圧縮表示対応

コンピューター1入力端子のピン配列と信号名

各ピンの接続と信号レベル



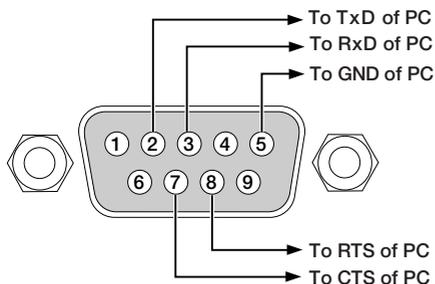
信号レベル

ビデオ信号 : 0.7Vp-p (アナログ)

同期信号 : TTL レベル

ピン番号	RGB 信号 (アナログ)	YCbCr 信号
1	赤	Cr
2	緑またはシンクオングリーン	Y
3	青	Cb
4	接 地	
5	接 地	
6	赤 接 地	Cr 接 地
7	緑 接 地	Y 接 地
8	青 接 地	Cb 接 地
9	非接続	
10	同期信号 接 地	
11	非接続	
12	Bi-directional DATA (SDA)	
13	水平またはコンポジット同期	
14	垂直同期	
15	Data Clock	

サービスポートのピン配列と制御コマンド



通信方式

ボーレート : 19200bps
 データ長 : 8ビット
 パリティビット : なし
 ストップビット : 1ビット
 通信手順 : 全二重
 X on/off : なし

参考

- 1、4、6、9 は使用していません。
- ケーブルは、市販のシリアルクロスケーブルを使用してください。
- 長いケーブルを使用して通信できないときは、ボーレートを低くしてみてください。

制御コマンド

Function	Code Data								
POWER ON	02H	00H	00H	00H	00H	02H			
POWER OFF	02H	01H	00H	00H	00H	03H			
INPUT SELECT COMPUTER 1	02H	03H	00H	00H	02H	01H	01H	09H	
INPUT SELECT COMPUTER 2 (Analog)	02H	03H	00H	00H	02H	01H	02H	0AH	
INPUT SELECT COMPUTER 2 (Digital)	02H	03H	00H	00H	02H	01H	1AH	22H	
INPUT SELECT VIDEO	02H	03H	00H	00H	02H	01H	06H	0EH	
INPUT SELECT S-VIDEO	02H	03H	00H	00H	02H	01H	0BH	13H	
BLANK ON	02H	10H	00H	00H	00H	12H			
BLANK OFF	02H	11H	00H	00H	00H	13H			
SOUND MUTE ON	02H	12H	00H	00H	00H	14H			
SOUND MUTE OFF	02H	13H	00H	00H	00H	15H			

トラブルチェックシート

本シートはトラブルに関するお問い合わせの際、迅速に故障箇所を判断させていただくためにご記入をお願いするものです。この使用説明書の「困ったときには」をご参照いただき、それでもトラブルが回避できない場合、本シートをご活用いただき、具体的な症状をキヤノンお客様相談センターの受付担当者へお伝えください。

※このページと次のページを印刷してお使いください。

発生頻度 常時 時々 (回中 回) その他 ()

電源関係

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 電源が入らない (POWERランプが緑色に点灯しない)。 <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 電源プラグはコンセントにしっかり挿入されている。<input type="checkbox"/> 主電源スイッチは「入」になっている。<input type="checkbox"/> ランプカバーは正しく取り付けられている。<input type="checkbox"/> ランプを交換した場合、ランプカウンターをリセットした。<input type="checkbox"/> (POWER) ボタンを1秒以上押しでも電源が入らない。 | <input type="checkbox"/> 使用中、電源が切れる。 <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 電源プラグはコンセントにしっかり挿入されている。<input type="checkbox"/> ランプカバーは正しく取り付けられている。<input type="checkbox"/> パワーマネージメントは「切」に設定されている。<input type="checkbox"/> オフタイマーは「切」に設定されている。 |
|--|--|

映像・音声関係

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> コンピューターの画面が投写されない。 <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> コンピューターと本機を接続したあとにコンピューターを起動してもなおらない。<input type="checkbox"/> ノート型コンピューターにおいて外部出力信号が出力されている。
IBM PC/AT互換機の場合は、[Fn]キー+[F1]~[F12]キーのいずれかを押しと外部出力信号が出力されます (コンピューターによって異なります)。 | <input type="checkbox"/> 映像が切れる。 <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> (AUTO PC) ボタンを押してもなおらない。<input type="checkbox"/> [リセット] を実行してもなおらない。<input type="checkbox"/> 水平または垂直方向に映像がずれる。<input type="checkbox"/> コンピューター映像入力の場合、水平位置・垂直位置は正しく調整されている。<input type="checkbox"/> 入力是对応している解像度・周波数の信号である。<input type="checkbox"/> 数ドット欠けている。 |
| <input type="checkbox"/> 映像が出ない (青・ロゴ・表示なし)。 <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> (AUTO PC) ボタンを押してもなおらない。<input type="checkbox"/> [リセット] を実行してもなおらない。<input type="checkbox"/> 入力端子にケーブルが、しっかり挿入されている。<input type="checkbox"/> 画面に何かメッセージが出ている。
()<input type="checkbox"/> 接続している入力を選んでいる。<input type="checkbox"/> 明るさ・コントラストを調整してもなおらない。<input type="checkbox"/> 入力是对応している解像度・周波数の信号である。 | <input type="checkbox"/> 映像がちらつく。 <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> (AUTO PC) ボタンを押してもなおらない。<input type="checkbox"/> [リセット] を実行してもなおらない。<input type="checkbox"/> コンピューター映像入力力で文字がちらついたり、色がずれている。<input type="checkbox"/> [ファンモード] を [高地] から [オート] にしてもなおらない。 |
| <input type="checkbox"/> 映像が暗い。 <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 明るさ・コントラストを調整してもなおらない。 | <input type="checkbox"/> 映像がぼやける・ピントが合わない。 |
| <input type="checkbox"/> 映像がひずむ。 <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 台形にひずむ (キーストーン調整を実行してもなおらない)。 | <input type="checkbox"/> 音が出ない。 <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 音声入力端子にケーブルが、しっかり挿入されている。<input type="checkbox"/> 音量を調整してもなおらない。 |

その他

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> リモコンが利かない。 <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> リモコンと本体のリモコン受光部との間に障害物はない。<input type="checkbox"/> 蛍光灯の近くに本体が設置されている。 | <input type="checkbox"/> 本体操作パネルのボタンが利かない。
[キーロック] 設定のある機種において <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> キーロック設定は「切」に設定されている。<input type="checkbox"/> 本体の (BACK) ボタンを10秒以上押しでもなおらない。 |
|---|---|

仕様

品番		LV-7375/LV-7370/LV-7275	LV-8300
方式		三原色液晶シャッター投射方式	
主要部品仕様	液晶パネル	サイズ	LV-7375/LV-7370 : 0.63 型 MLA 付き (アスペクト比 4 : 3) LV-7275 : 0.63 型 (アスペクト比 4 : 3)
		画素数*1	786,432 画素 (1024 × 768 ドット)
	投写レンズ	ズーム	マニュアル (1~1.2 倍、f=19.8~23.7mm)
		フォーカス	マニュアル
	光源	LV-7375 : 230W AC ランプ (静音時 170W) LV-7370/LV-7275 : 210W AC ランプ (静音時 170W)	230W AC ランプ (静音時 170W)
光学装置		ダイクロイックミラーによる光分離・クロスダイクロプリズムによる合成方式	
画面サイズ (投写距離)		21 ~ 300 型 (0.8 ~ 11.3m)	21 ~ 300 型 (0.7 ~ 10.7m)
明るさ*2 (プレゼンテーションモード)		LV-7375: 3500 lm、LV-7370: 3000 lm LV-7275: 2600 lm	3000 lm
コントラスト比*2 (プレゼンテーションモード) (全白/全黒)		500 : 1	
周辺照度比*2 (プレゼンテーションモード)		85 %	
色再現性		フルカラー 1,677 万色	
音声出力		7W モノラルスピーカー内蔵	
走査周波数	水平	15 ~ 100kHz (RGB 入力は 24kHz 以上)	
	垂直	50 ~ 120Hz	
調整機能		マニュアルズーム、マニュアルフォーカス、オート PC、画面拡大、オートキーストーン、キーストーン調整、画面位置調整、ミュート (映像/音声とも)、電源入/切、オンスクリーン表示 / 選択など	
最大表示解像度 (横×縦)		1600 × 1200 (圧縮表示対応)	
入力信号	アナログ RGB		RGB : 0.7Vp-p / 75 Ω 正極性 H/V Sync : 4.0Vp-p / TTL 正極性 / 負極性 Composite Sync : 4.0Vp-p / TTL 正極性 / 負極性 Sync on G : 1.0Vp-p / 75 Ω (With Sync) 負極性
	デジタル RGB		TMDS (Transition Minimized Differential Signaling)
	コンポジットビデオ		1.0Vp-p / 75 Ω
	S-ビデオ	Y : 1.0Vp-p / 75 Ω	
		C : 0.286Vp-p / 75 Ω	
	コンポーネント	Y : 1.0Vp-p / 75 Ω (With Sync)	
		Cb, Cr (Pb, Pr) : 0.7Vp-p / 75 Ω	
		DTV : 480i, 480p, 720p, 1080i (60Hz) 575i, 575p, 1080i (50Hz)	
		DVD : プロGRESSIVE 信号 (50/60Hz)	
	音声		0.5Vrms / 22k Ω 以上 (Max 2Vrms)
入出力端子	コンピューター-1	映像入力	ミニ D-Sub 15 ピン × 1
		映像出力	ミニ D-Sub 15 ピン × 1
		音声入力	ステレオミニジャック × 1
		音声出力	ステレオミニジャック × 1 (全信号共通)
	コンピューター-2	映像入力	DVI-I 29 ピン × 1 (HDCP 対応*3)
		音声入力	ステレオミニジャック × 1
	ビデオ	映像入力	RCA × 1
		音声入力	RCA (RCA L/MONO. R) × 1
	S-ビデオ	映像入力	ミニ DIN 4 ピン × 1
		音声入力	(ビデオ音声入力と共通)
サービスポート		D-Sub 9 ピン × 1	
LANポート		RJ-45 × 1、10/100 BASE-T	
水平解像度		NTSC : 540TV 本	
騒音		35dB (標準時)、29dB (静音時)	
使用環境		動作温度 : 5 ~ 40℃*4 動作湿度 : 20 ~ 80% (ただし結露しないこと) 保存温度 : -10 ~ 50℃ 保存湿度 : 20 ~ 80% (ただし結露しないこと)	

電源			AC 100V 50/60Hz * 5	
消費電力	ランプモード	標準時	LV-7375 : 325W LV-7370/LV-7275 : 295W	325W
		静音時	240W	
	スタンバイモード	標準時	11W	
		省電力時	3W	
定格入力電流			LV-7375 : 3.8A LV-7370/LV-7275 : 3.5A	3.8A
外形寸法			317(幅) × 111(高) × 336(奥行)mm (突起部含まず)	
質量			3.3kg	

* 1 : 有効画素数は 99.99%です。

* 2 : 出荷時における本プロジェクター全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911:2003 データプロジェクターの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件については付属書 2 に基づいています。

* 3 : HDCP/HDCP 技術とは？

High-bandwidth Digital Content Protection の略称で、デジタル映像信号のコピー防止を目的とした暗号化技術です。

HDCP の規格は、Digital Content Protection, LLC という団体によって、策定・管理されています。

本機では、HDCP 技術によりコピープロテクトされたデジタルコンテンツを投写することができます。ただし、HDCP の規格変更などが行われた場合、プロジェクターが故障していなくても、映像が投写されないことがあります。

本機で映像を投写するには次のように操作します。

① AV 機器の DVI 端子とプロジェクターのコンピューター 2 入力端子 (DIGITAL IN/ANALOG IN-2) を別売の DVI デジタルケーブル (品番 LV-CA29) で接続します。

② AV 機器とプロジェクターの電源を入れ、プロジェクターの **(INPUT)** ボタンを押し「コンピューター 2 (デジタル)」を選びます。

* 4 : 35 ~ 40℃は「ランプ静音モード」になります。

* 5 : 高調波電流回路 JIS C 61000-3-2 適合品です。

●この仕様・意匠はお断りなく変更することがあります。

索引

数字／アルファベット

Canon ロゴ	78
DHCP	58
DVI-VGA 変換アダプター	14 27
DVI デジタルケーブル	26 32
D イメージシフト	74
HDCP	114
HDMI	32
HTTP サーバー	57
IP アドレス	58
LAMP ランプ	17 103
LAN	34 85
POWER ランプ	17 102
sRGB	68
STATUS ランプ	17 102
WXGA モード	82

五十音

【ア行】	
明るさ 赤 / 緑 / 青 (詳細設定)	69
明るさ (イメージ)	70
アスペクト	72
圧縮表示	107
イメージ	68
イメージモード設定	68
色合い	70
色の濃さ	70
インプット	67
ウェブ・ブラウザ	57
エアフィルター	15 88 95
エラー通知メール	59
オート PC (AUTO PC)	48 81
オートキーストーン	44 75
オフタイマー	61 83
オプション (1)	81
オプション (2)	83
オンスクリーンメニュー	61
オンスクリーンメニュー一覧	64
音量調整	49

【カ行】

解像度	107
拡大	53
画面サイズ	23 104

乾電池 (単 4)	14
ガンマ	69
キーストーン調整	46 75
キーストーン調整値保存	75
キーロック	61 80
キャリーバッグ	14
キャリングハンドル	16
吸気口	15
クローズドキャプション	77
クロック周波数	71
言語	77
後部調整脚	16 44
コントラスト 赤 / 緑 / 青 (詳細設定)	69
コントラスト (イメージ)	70
コンピューター接続ケーブル	14 26
コンポーネントケーブル	31

【サ行】

シャープネス	70
主電源スイッチ	16 37 50
詳細設定	68
情報	85
書画カメラ	33
初期入力選択	84
信号選択	40
垂直位置	71
水平位置	71
ズームレバー	15 43
スクリーン色補正	75
スピーカー	16 49
スタンバイモード	83
スペーサー	44
静音	76 85
静止画	52
接続端子部	16 18
設置	79
操作パネル	15 17

【タ行】

対応解像度一覧	107
ダイレクトパワーオン (AC)	83
ダイレクトパワーオン (Comp1)	84
調整	68
調整脚	15 44
調整脚ロックボタン	15 44

通信速度	80
電源切確認メッセージ	50
電源コード	14 35
電源コード接続部	16 35
電子音	82
投写角度	44
投写距離	23 104
盗難防止用ロック	15
トラッキング	71

【ナ行】

入力信号	71
入力信号選択	82
ネットワーク設定	58 87

【ハ行】

排気口	16
パスワード	54 80
パワーマネージメント	84
反転表示	79
ビデオ帯域フィルター	74
表示時間	78
表示色選択	78
ファンモード	81
フィルターカウンター	87 96
フィルターメッセージ	78
フォーカスリング	15 43
ブラウザ	57
プログレッシブ	82

【マ行】

無信号時画面	78
メールアドレス	57
メニュー設定	78

【ラ行】

ランプカウンター	85 87 96
ランプカバー	16 92
ランプモード	76
リセット	70 87
リモコン	14 19
リモコン受光部	15 21
リモコンの有効範囲	21
冷却運転	61 76
レンズ	15 89
レンズカバー	15 37

保証とアフターサービス

■この商品には保証書がついています

保証書は、本プロジェクターに付属しています。お買い上げ日、販売店名などが記入されていることをお確かめの上、内容をお読みいただき、大切に保管してください。なお、保証内容については保証書に記載しております。

■修理サービスのご相談

修理サービスのご相談は、次ページのキヤノンお客様相談センターにご相談ください。
(ランプはキヤノンホームページからもご購入いただけます。)

■修理を依頼される前に

97 ページの「困ったときには」にそって故障かどうかお確かめください。それでも直らない場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理をご依頼ください。

【修理方法】

本商品は、引取修理させていただきます。お客様先にプロジェクターを引取にお伺いし、修理完了後にお届けいたします。また、ご要望により代替機の貸出サービスを準備しております。

※上記、引取サービスおよび代替機の貸し出しは、キヤノンお客様相談センターにてサービスをご利用いただいた場合に適用されます。

※引取修理サービスは、国内のみのお取り扱いとなります。

別売品

- ランプ
- 天吊り金具
- DVI デジタルケーブル (2m)
- コンポーネントケーブル

品番：LV-LP31
品番：LV-CL15
品番：LV-CA29
品番：LV-CA32

■修理を依頼されるときに ご連絡いただきたいこと

- お客様のお名前
- ご住所、お電話番号
- 商品の機番
- 故障の内容（できるだけ詳しく）

■補修用性能部品について

保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

〈修理料金〉

保証期間内	引取修理サービス	無償
	代替機貸出サービス	無償
保証期間終了後	引取修理サービス	有償
	代替機貸出サービス	有償

●長年ご使用の液晶プロジェクターの点検をぜひ! (熱、湿気、ホコリなどの影響や使用の度合いにより部品が劣化し、故障したり、時には、安全性を損なって事故につながることもあります。)

このような
症状は
ありませんか

- 電源スイッチを入れても映像や音が出ない。
- 映像が時々消えることがある。
- 変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- 電源スイッチを切っても、映像や音が消えない。
- 内部に水や異物が入った。
- その他異常や故障がある。

ご使用
中止

故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグをはずして、必ず販売店にご相談ください。

お客さまメモ

品番

お買い上げ年月日

年 月 日

お買い上げ店名

Canon

お客様相談センター(全国共通番号)

050-555-90071

[受付時間] (平日) 9:00~12:00 / 13:00~17:00

(土日祝日と年末年始弊社休業日は休ませていただきます)

※上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9348をご利用ください。

※上記番号はIP電話プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。

※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。